福岡市埋蔵文化財年報
VOL.16

－平成13（2001）年度版－

下月隈Ｃ遺跡第７次調査出土木簡

2003

福岡市教育委員会

序

福岡市においては、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適切な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、重要遺跡確認調査等を実施しております。

平成13年度は、ここ数年来の長引く不況下で開発事業の相対的な減少傾向があったものの、道路や下水道整備等の都市基盤整備を中心とした公共事業や、民間の専用住宅建設等の小規模な開発事業に起因する事前審査及び緊急調査の実施件数はほぼ例年どおりでした。これは、埋蔵文化財の周知化が進むとともに、開発関係各位の文化財保護に対するご理解が深められつつある状況を示していると思われます。

本書は、平成13年度における埋蔵文化財保護行政の概要報告です。本書が文化財保護のより一層のご理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

平成15年３月31日
福岡市教育委員会
教育長　生田征生

例　言

・本書は、埋蔵文化財課が平成13年度に実施した各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査の概要及び本報告、ならびに新指定文化財の概要について収録したものである。
・本書に記載ある報告のうち、調査番号0103・0114・0119・0121・0123・0124・0158・0137・0140・0145・0155の調査はこの年報をもって、本報告とする。その他については別途、本報告書が刊行される予定、または既刊であり、刊行年度については各報告の文末に記載している。
・Ⅱ.3)各調査の概要及び調査報告は各調査担当者が分担執筆した。
・本書は池崎譲二が編集した。

目　次

Ⅰ．開発事前審査
　1）平成13年度の概要
　2）試掘調査一覧
Ⅱ．発掘調査の概要・報告
　1）平成13年度発掘調査の概要
　2）発掘調査一覧
　3）各調査の概要及び調査報告
Ⅲ．平成13年度新指定文化財
附　平成13年度刊行報告書一覧

平成13年度文化財部の組織と事務分掌

- 文化財部
  - 埋蔵文化財課
    - 調査第１係：課の庶務及び西部地区（早良・城南・西区内）の開発事業に係る埋蔵文化財発掘調査
      - (主任文化財主事)
    - 調査第２係：国庫補助事業及び東部地区（東・博多・中央・南区内）の 開発事業に係る埋蔵文化財発掘調査
      - (主任文化財主事)
    - 事前審査係：公共及び民間開発事業に係る埋蔵文化財の事前審査
      - (主任文化財主事)
  - 課長（大規模事業等担当）
    - 主査：大規模事業に係る埋蔵文化財の発掘調査
  - 文化財整備課
    - 管理係：部の総括、課の庶務・経理及び文化財指定、保存整備管理
    - 整備係：史跡の保存・整備
    - 主査：文化財調査等
  - 課長（鴻臚館跡調査担当）
    - 主査：鴻臚館跡調査
  - 埋蔵文化財センター
    - 管理係：施設の管理・運営
    - (主任文化財主事)：埋蔵文化財関係資料の調査・保存・整理・教育普及

埋蔵文化財課の職員構成

●埋蔵文化財課長　山崎純男

調査第１係長　山口譲治

主任文化財主事　横山邦継　米倉秀紀　常松幹雄

係員(文化財主事)　池田祐司　屋山　洋　久住猛雄

藏富士寛　阿部泰之

調査第２係長　力武卓治

主任文化財主事　山崎龍雄　杉山富雄　佐藤一郎

係員(文化財主事)　吉武　学　荒牧宏行　長家　伸　中村啓太郎

井上繭子　本田浩二郎　松浦一之介　上角智希

事前審査係長　田中壽夫

主任文化財主事　大庭康時

係員(文化財主事)　瀧本正志　大塚紀宜　田上勇一郎

●課長（大規模事業等担当）二宮忠司

主　　査　松村道博

係員(文化財主事)　吉留秀敏　菅波正人　星野恵美

●埋蔵文化財センター所長　塩屋勝利

運営係長　村上敏文

係　　員　矢野昌治

主任文化財主事　濱石哲也

係員(文化財主事)　加藤良彦　比佐陽一郎

Ⅰ．開発事前審査

土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、福岡市文化財分布地図を基本資料とし、これまでの発掘調査及び試掘調査等の成果を参考にしながら、書類審査・現地踏査・試掘調査等を実施し、開発事業計画地における埋蔵文化財の有無を確認した上で、保存に係わる協議等を行っている。

公共事業については、関係機関・部局に次年度予定の事業計画の照会を行い、市域内で実施予定の公共事業計画を全般的に把握し、埋蔵文化財の保存上問題になると判断される事業についてはその取り扱いについて協議を求めている。民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000㎡以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また、開発業者や、不動産取引関係者、一般市民等の分布地図閲覧や埋蔵文化財に係る計画策定段階での照会にも窓口で応じ、埋蔵文化財の保存上の措置について必要な指示を行っている。

1）平成13年度の概要

平成13年度の公共及び民間開発事業等に伴う事前審査申請件数は、公共事業1084件、民間事業969件の計2053件であった（() は過年度内数）。また、事前審査窓口における埋蔵文化財の有無に係わる照会等は4540件であった。

事業別では、新規受付件数で見ると公共事業が昨年度（1107件）と比較してほぼ横這い、民間事業は微減である。

全市的にはここ数年の傾向として、西部地区及び都心部の博多区に申請件数が偏る傾向がある。各区別にみると、民間では早良区の432件が最も多く、西区の395件、次に博多区が380件となる。東区は箱崎遺跡の発掘調査の進展とともに周知化が進み、審査件数は増加傾向となっている。西区は昨年度とほぼ同じである。

事前審査の内訳をみると、申請件数の44.1％にあたる1007件は埋蔵文化財包蔵地外である。試掘調査は305件について実施した。書類審査及び試掘調査等の結果、開発により保存上問題があり、本格的な調査が必要と判断されたのは72件である。その他については慎重工事、工事立会で対処した。

なお、窓口における照会は4540件で、昨年度の3597件と比較し、1000件近い増加である。不動産売買取引に伴うものがここ数年多くなっており、周知化が進むにつれその傾向が今後さらに高まっていくものと思われる。

表１．事前審査件数の推移（当該年度新規受付件数）

	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
公　共	560	561	566	674	872	1107	1084
民　間	739	899	689	636	1001	1041	969
合　計	1,299	1,460	1,255	1,310	1,873	2,148	2,053

内　訳		件　数	13年度	過年度
要試掘	実施後判断済	374	310	64
	実施後協議中	4	4	0
	未　実　施	91	78	13
	計	469	392	77

表３．平成13年度事前審査内訳　　() 内の数字は過年度受付数

区　名	事業種別	審査種別（書類審査・現地踏査・試掘調査）で見た判断指示の結果																			窓口照会小計
		開発に同意する			慎重に工事			工事に立会う			本格調査が必要			審査継続	重複審査	処理保留	取り下げ	審査件数合計			
		書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘					総件数	13年度	過年度	
東　区	公共																		252	(19)	
	民間	21	0	3	96	0	4	3	0	1	2	0	4	1	4	3	1	140	(21)	(2)	575
南　区	公共																				
	民間	21	0	4	68	0	28	2	1	2	0	0	8	2	6	1	1	138	(17)	(1)	716
博多区	公共																		380	(25)	
	民間	18	1	4	101	3	54	10	1	6	6	0	23	11	18	4	2	245	(33)	(8)	962
中央区	公共																		146	(5)	
	民間	13	0	1	17	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	35	(5)	(0)	697
城南区	公共																		162	(14)	
	民間	6	0	1	43	2	9	0	2	1	0	0	2	1	4	0	0	70	(19)	(5)	367
早良区	公共																		432	(13)	
	民間	22	0	3	99	2	36	3	0	3	0	0	5	1	17	2	2	177	(28)	(15)	644
西　区	公共																		395	(14)	
	民間	31	0	3	85	3	24	6	1	2	2	0	2	2	3	1	0	164	(16)	(2)	482
小　計	公共																	1084	2012	(106)	記載漏
	民間	132	1	19	509	10	156	24	5	15	10	0	44	19	52	11	6	969	(139)	(33)	97
合　計																			1873	(139)	4540

1)試掘調査一覧
公共事業関係

試掘番号	試掘番号	試掘番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	事業名	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-051	—	11	1	298	00.07.03	東区八田４丁目地内	25000	市営八田第２住宅建替	多々良大牟田遺跡群	2001/6/20	遺構なし	慎重工事
13-146～150	—	11	1	748	00.01.13	東区香椎駅前１丁目他	206507	区画整理事業	元寇防塁推定線	2001/7/11	遺構なし	開発同意
13-146～150	—	11	1	748	00.01.13	東区香椎駅前１丁目他	206507	区画整理事業	元寇防塁推定線	2001/7/18	遺構なし	開発同意
13-146～150	—	11	1	748	00.01.13	東区香椎駅前１丁目他	206507	区画整理事業	元寇防塁推定線	2001/8/6	遺構なし	開発同意
13-146～150	—	11	1	748	00.01.13	東区香椎駅前１丁目他	206507	区画整理事業	元寇防塁推定線	2001/8/22	遺構なし	開発同意
13-146～150	—	11	1	748	00.01.13	東区香椎駅前１丁目他	206507	区画整理事業	元寇防塁推定線	2002/2/20	遺構なし	開発同意
13-084	—	13	1	68	01.07.06	東区青葉３丁目8-1	560	東福岡養護学校校舎増築工事	青葉台遺跡	2001/7/24	遺構なし	慎重工事
12-116・-281	0113	10	1	20	98.06.25	東区馬出４丁目地内	15652	馬出東浜線道路舗装工事	箱崎遺跡	2001/7/4	遺構有り	要本調査
—	未	11	1	343	00.10.03	博多区月隈6丁目地内	6600	下臼井水城線	下月隈Ｃ遺跡	2001/8/1	遺構有り	要本調査
—	未	11	1	343	00.10.03	博多区月隈6丁目地内	6600	下臼井水城線	下月隈Ｃ遺跡	2001/8/21	遺構有り	要本調査
13-200	未	13	1	925	01.12.25	博多区上川端町	8894	小学校跡地利用	博多遺跡群	2001/12/10	遺構有り	要協議
13-200	未	13	1	925	01.12.25	博多区上川端町	8894	小学校跡地利用	博多遺跡群	2001/12/11	遺構有り	要協議
—	未	13	1	925	01.12.25	博多区上川端町	8894	小学校跡地利用	博多遺跡群	2001/12/12	遺構有り	要協議
—	—	13	1	936	01.12.26	博多区麦野３丁目9-28	901	国資産売却	麦野A遺跡	2001/1/30	遺構なし	慎重工事
—	—	13	1	936	01.12.26	博多区板付６丁目10-2	975	国資産売却	高畑遺跡	2001/1/30	遺構なし	慎重工事
13-063	—	12	1	1044	00.11.22	博多区博多駅前１丁目（御笠川左岸）	150	御笠橋橋脚建替工事	博多遺跡群	2001/5/16	遺構なし	慎重工事
—	—	12	1	716	00.10.23	博多区博多駅前１丁目	130	出来町ポンプ場	博多遺跡群	2001/11/7	遺構なし	慎重工事
13-203	0107	10	1	273	99.07.15	博多区青木１丁目	1060	道路改良工事	席田青木遺跡	2001/11/7	遺構有り	要本調査
13-204	0229	13	1	77	01.08.07	南区五十川2丁目28-16他	7480	御供所井尻線道路整備事業	五十川遺跡群	2001/10/31	遺構有り	要本調査
13-220	0229	13	1	77	01.08.07	南区五十川2丁目28-16他	7480	御供所井尻線道路整備事業	五十川遺跡群	2001/1/23	遺構有り	要本調査
—	0229	13	1	77	01.08.07	南区五十川2丁目28-16他	7480	御供所井尻線道路整備事業	五十川遺跡群	2001/2/6	遺構有り	要本調査
—	0150	12	1	1106	01.03.12	南区南大橋１丁目１１５７	4813	宅地分譲	三宅廃寺・三宅A遺跡	2001/5/2	遺構有り	要本調査
—	0150	12	1	1106	01.03.12	南区南大橋１丁目１１５７	4813	宅地分譲	三宅廃寺・三宅A遺跡	2001/5/16	遺構有り	要本調査
—	0150	12	1	1106	01.03.12	南区南大橋１丁目１１５７	4813	宅地分譲	三宅廃寺・三宅A遺跡	2001/5/23	遺構有り	要本調査
13-169	0131	12	1	136	00.11.27	南区大橋４丁目14-41	8800	長浜太宰府線道路整備事業	大橋Ｅ遺跡	2001/5/30	遺構有り	要本調査
—	0131	12	1	136	00.11.27	南区大橋４丁目14-41	8800	長浜太宰府線道路整備事業	大橋Ｅ遺跡	2001/6/13	遺構有り	要本調査
—	0131	12	1	136	00.11.27	南区大橋４丁目14-41	8800	長浜太宰府線道路整備事業	大橋Ｅ遺跡	2001/6/18	遺構有り	要本調査
—	0131	12	1	136	00.11.27	南区大橋４丁目14-41	8800	長浜太宰府線道路整備事業	大橋Ｅ遺跡	2001/6/20	遺構有り	要本調査
13-169	0131	12	1	136	00.11.27	南区大橋４丁目14-41	8800	長浜太宰府線道路整備事業	大橋Ｅ遺跡	2001/10/24	遺構有り	要本調査

試掘番号	試掘番号	試掘番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	事業名	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
—	0131	12	1	136	00.11.27	南区大橋４丁目14-41	8800	長浜太宰府線道路整備事業	大橋Ｅ遺跡	2001/12/26	遺構有り	要本調査
—	0157	12	1	120	00.09.12	城南区梅林4丁目	1700	梅林通線	梅林遺跡	2001/10/25	遺構有り	要本調査
13-190	—	13	1	838	01.11.21	城南区茶山６丁目21-1	3681	城南高校体育館建て替え	包蔵地外	2001/12/4	遺構なし	開発同意
—	—	11	1	1035	01.03.28	早良区賀茂１丁目33-7	830	賀茂公民館複合施設改築工事	免遺跡群	2001/4/25	遺構なし	慎重工事
13-090	—	12	1	52	00.07.10	早良区背振山頂	6800	防衛施設建設	上宮弁天遺跡	2001/7/25	遺構なし	慎重工事
13-210	未	13	1	820	01.11.02	早良区次郎丸６丁目～田隈２丁目	—	市道有田重留線道路改良工事	次郎丸高石遺跡	2001/11/14	遺構有り	要本調査
13-210	未	13	1	820	01.11.02	早良区次郎丸６丁目～田隈２丁目	—	市道有田重留線道路改良工事	次郎丸高石遺跡	2001/12/5	遺構有り	要本調査
13-210	未	13	1	820	01.11.02	早良区次郎丸６丁目～田隈２丁目	—	市道有田重留線道路改良工事	次郎丸高石遺跡	2001/2/6	遺構有り	要本調査
13-171	—	12	1	536	01.10.23	早良区賀茂４丁目	4000	金屑川改良	次郎丸高石遺跡	2001/11/14	遺構なし	慎重工事
13-170	0143	12	1	271	99.09.14	早良区椎原	169000	ほ場整備	椎原Ａ遺跡他	01/11/5～9	遺構有り	要本調査
—	—	13	1	558	01.09.25	早良区四箇6丁目	2000	四箇内野線	四箇・八郎丸遺跡	2001/10/17	遺構なし	慎重工事
—	0262	13	1	936	01.12.26	早良区百道１丁目857-4	158	国資産売却	藤崎遺跡	2001/1/30	遺構有り	要本調査
—	—	13	1	936	01.12.26	早良区有田２丁目27-1他	1361	国資産売却	有田遺跡	2001/1/30	遺構なし	慎重工事
13-173	—	12	1	1051	00.12.04	西区女原482	2013	女原西団地	女原遺跡	2001/9/26	遺構なし	慎重工事
13-174	未	11	1	302	99.09.10	西区拾六町	13700	拾六町団地	畑ケ尾遺跡	2001/10/10	遺構有り	要本調査
—	—	12	1	107	01.01.19	西区小戸2丁目	5200	小戸公園整備	元寇防塁推定線	2001/12/26	遺構なし	慎重工事
13-050	—	12	1	706	01.06.14	西区野方１丁目地内	1200	周船寺有田線道路舗装工事	野方久保遺跡	2001/6/19	遺構なし	慎重工事
13-034	—	12	1	508	01.04.09	西区大字金武・大字吉武地内	553000	金武地区農村総合整備事業	金武柳遺跡	2001/5/9～16	遺構なし	慎重工事
—	—	13	1	938	01.12.26	西区今宿青木字八丈792-4	350	国資産売却	包蔵地外	2001/1/30	遺構なし	開発同意

民間開発関係（各区毎受付順）

東区

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	事業名	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-086		12	2	633	00.11.08	東区馬出５丁目	151	専用住宅建築	箱崎遺跡	2001/7/17	遺構なし	慎重工事
13-003		12	2	951	01.02.28	東区馬出4丁目317番	419	共同住宅建築	包蔵地外	2001/4/10	遺構なし	開発同意
13-080		12	2	966	01.03.05	東区箱崎1丁目2587, 2588-1, 2582	608	専用住宅建築	箱崎遺跡群	2001/7/12	遺構有り	工事立会
13-060		13	2	127	01.05.18	東区和白丘２丁目669-2・-3外６筆	7545	宅地造成工事	塚原遺跡	2001/6/20	遺構なし	慎重工事
13-060		13	2	207	01.06.05	東区和白丘669-2	6236	賃貸共同住宅	塚原遺跡	2001/6/20	遺構有り	要協議
13-066		13	2	211	01.06.08	東区香椎３丁目1020-1・-6	1194	専用住宅	包蔵地外	2001/6/28	遺構なし	開発同意
13-247	0202	13	2	414	01.08.23	東区箱崎３丁目2398・2440	579	共同住宅（ＲＣ10Ｆ）	箱崎遺跡	2002/3/5	遺構有り	要本調査
13-124		13	2	470	01.09.10	東区馬出５丁目27-29	167	共同住宅	箱崎遺跡	2001/9/11	遺構有り	慎重工事
13-134		13	2	514	01.09.26	東区三苫７丁目265/268	1209	専用住宅	三苫遺跡群	2001/10/9	遺構有り	工事立会
13-144	未	13	2	543	01.10.05	東区箱崎３丁目2414・2414-1	191	店舗･事務所建築	箱崎遺跡	2001/10/23	遺構有り	要本調査
13-156		13	2	585	01.10.19	東区蒲田２丁目1163-1	15592	貸倉庫建設	包蔵地外	2001/11/3	遺構なし	開発同意
13-233		13	2	782	02.01.07	東区馬出１丁目119・120	671	共同住宅･各種学校	吉塚本町遺跡群	2002/1/31	遺構なし	開発同意
13-242		13	2	880	02.02.18	東区三苫６丁目1258-4	373	専用住宅	三苫遺跡群	2002/2/28	遺構有り	要協議
13-267		13	2	916	02.03.07	東区蒲田４丁目266-1	3704	工場建設	蒲田水ヶ元遺跡	2001/3/14	遺構なし	慎重工事
13-267		13	2	916	02.03.07	東区蒲田４丁目266-1	3704	工場建設	蒲田水ヶ元遺跡	2001/3/29	遺構なし	慎重工事

博多区

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	事業名	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-017		12	2	609	00.10.31	博多区板付４丁目10番1	926	共同住宅建築	高畑遺跡	2001/4/20	遺構なし	慎重工事
12-218		12	2	634	00.11.08	博多区相生町１丁目1-1, 2-3, 2-4, 2-5	19999	不明	南八幡遺跡	2001/11/21	遺構なし	要再試掘
13-250	0130	12	2	791	00.12.25	博多区吉塚３丁目19	1700	ビル建設	吉塚遺跡	2001/8/28	遺構有り	要本調査
13-037		12	2	869	01.01.30	博多区相生町3丁目16, 16-2	1719	共同住宅建設	南八幡遺跡群	2001/5/22	遺構なし	慎重工事
13-019		12	2	894	01.02.08	博多区那珂６丁目206-4	174	事務所併用住宅	那珂遺跡群	2001/4/26	遺構有り	工事立会
13-041		12	2	956	01.03.01	博多区博多駅南6丁目	59	専用住宅建築	比恵遺跡	2001/5/31	遺構なし	慎重工事
13-014		12	2	970	01.03.06	博多区吉塚3丁目372-1	483	共同住宅建築	吉塚遺跡	2001/4/26	遺構有り	慎重工事
13-004		12	2	973	01.03.06	博多区諸岡5丁目82	396	共同住宅建築	笹原遺跡	2001/4/10	遺構有り	慎重工事
13-032		12	2	981	01.03.07	博多区千代1丁目171番	143	土地売買	堅粕遺跡	2001/5/17	遺構有り	慎重工事
13-010	0112	12	2	1000	01.03.15	博多区奈良屋町84, 85+1109	411	賃貸マンション建築	博多遺跡群	2001/4/3	遺構有り	要本調査
13-005		12	2	1039	01.03.29	博多区板付5丁目	430	事務所建築	高畑遺跡	2001/4/12	遺構なし	慎重工事
13-007		12	2	1040	01.03.29	博多区店屋町60番・61番	180	飲食店建築	博多遺跡群	2001/4/17	遺構有り	慎重工事
13-006	0120	13	2	1	01.04.02	博多区上呉服町480～482	324	事務所兼住宅	博多遺跡群	2001/4/12	遺構有り	要本調査

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-018		13	2	7	01.04.06	博多区博多駅南６丁目82	674	土地売買	比恵遺跡群	2001/4/20	遺構なし	慎重工事
13-009		13	2	24	01.04.12	博多区竹下２丁目481-18	642	土地売買	比恵遺跡	2001/4/17	遺構なし	慎重工事
13-030		13	2	33	01.04.16	博多区堅粕４丁目503-2・-7	268	共同住宅	吉塚遺跡	2001/5/15	遺構なし	慎重工事
13-015		13	2	58	01.04.23	博多区板付７丁目8-27	107	専用住宅	麦野A遺跡	2001/4/26	遺構有り	慎重工事
13-035		13	2	71	01.04.24	博多区東公園96/97	157	専用住宅新築	吉塚本町遺跡	2001/5/24	遺構有り	慎重工事
13-026		13	2	75	01.04.26	博多区那珂１丁目291･292	175	共同住宅新築工事	那珂遺跡群	2001/5/8	遺構有り	慎重工事
13-077		13	2	80	01.04.27	博多区麦野１丁目19-2	251	事務所兼用住宅	麦野A遺跡	2001/7/10	遺構なし	慎重工事
13-025		13	2	84	01.05.01	博多区榎田２丁目4-13・4-14	3992	配送センター建築	榎田遺跡	2001/5/8	遺構なし	慎重工事
13-033	0152	13	2	89	01.05.07	博多区中呉服町7-5	358	土地売買	博多遺跡群	2001/5/24	遺構有り	要本調査
13-058		13	2	90	01.05.07	博多区那珂１丁目101	298	専用住宅	那珂遺跡群	2001/6/20	遺構有り	慎重工事
13-031		13	2	96	01.05.08	博多区那珂６丁目209・210の一部	144	共同住宅(木造２Ｆ)	那珂遺跡群	2001/5/15	遺構有り	慎重工事
13-031		13	2	97	01.05.08	博多区那珂６丁目209・210の一部	175	共同住宅(木造２Ｆ)	那珂遺跡群	2001/5/15	遺構有り	慎重工事
13-031		13	2	98	01.05.08	博多区那珂６丁目209・210の一部	126	共同住宅(木造２Ｆ)	那珂遺跡群	2001/5/15	遺構有り	慎重工事
13-031		13	2	99	01.05.08	博多区那珂６丁目209・210の一部	144	共同住宅(木造２Ｆ)	那珂遺跡群	2001/5/15	遺構有り	慎重工事
13-046		13	2	112	01.05.14	博多区元町１丁目29-6一部・29-7	157	専用住宅	南八幡遺跡	2001/5/23	遺構有り	工事立会
13-046		13	2	112	01.05.14	博多区元町１丁目29-6一部・29-7	157	専用住宅	南八幡遺跡	2001/6/6	遺構有り	工事立会
13-154		13	2	135	01.05.18	博多区竹下５丁目495-1	335	専用住宅建設	那珂遺跡群	2001/10/30	遺構有り	慎重工事
13-047		13	2	145	01.05.22	博多区金隈３丁目18-30	3747	倉庫建築	持田ヶ浦古墳D群	2001/6/14	遺構なし	慎重工事
13-103		13	2	174	01.05.31	博多区上呉服町602-1外	4545	一部改築	博多遺跡群	2001/8/21	遺構有り	慎重工事
13-049		13	2	205	01.06.07	博多区金隈１丁目7-5	126	専用住宅	立花寺遺跡	2001/6/14	遺構なし	慎重工事
13-078		13	2	214	01.06.11	博多区寿町３丁目1-11	194	歯科医院建築	包蔵地外	2001/7/5	遺構なし	開発同意
13-055		13	2	224	01.06.12	博多区那珂５丁目236-24	222	未定	諸岡A遺跡	2001/6/19	遺構なし	慎重工事
13-075		13	2	226	01.06.13	博多区上川端町36番	208	共同住宅	博多遺跡群	2001/7/10	遺構なし	慎重工事
13-096	0122	13	2	242	01.06.18	博多区那珂１丁目681-1	581	専用住宅	那珂遺跡群	2001/7/5	遺構有り	要本調査
13-079		13	2	244	01.06.18	博多区麦野２丁目17-12	222	専用住宅	麦野Ａ遺跡	2001/7/4	遺構有り	工事立会
13-067		13	2	268	01.06.28	博多区博多駅南４丁目16-35	804	事務所建て替え	比恵遺跡	2001/6/29	遺構有り	慎重工事
13-097	未	13	2	284	01.07.04	博多区御供所1-1・-2・2-1他６筆	998	共同住宅新築	博多遺跡群	2001/7/27	遺構有り	要本調査
13-094		13	2	286	01.07.04	博多区板付５丁目16-1他２筆	1923	事務所新築	包蔵地外	2001/7/24	遺構なし	開発同意
13-089		13	2	293	01.07.09	博多区吉塚２丁目15-16	878	賃貸ビル建設	包蔵地外	2001/7/19	遺構なし	開発同意
13-098	未	13	2	339	01.07.26	博多区祇園町５３２	80	土地売買	博多遺跡	2001/8/2	遺構有り	要本調査
13-115		13	2	351	01.07.30	博多区蒲田２丁目234他	10834	賃貸事務所	立花寺古墳群	2001/9/4	遺構なし	慎重工事

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-114	0127	13	2	352	01.08.01	博多区博多駅南６丁目64-1	361	共同住宅建設	比恵遺跡群	2001/8/23	遺構有り	要本調査
13-101		13	2	372	01.08.07	博多区吉塚３丁目371-2～-4	559	専用住宅	吉塚遺跡群	2001/8/16	遺構有り	要協議
13-111		13	2	407	01.08.22	博多区奈良屋町263-1・-2	150	専用住宅	博多遺跡群	2001/8/28	遺構なし	慎重工事
13-175	0141	13	2	429	01.08.28	博多区上呉服町516	138	専用住宅	博多遺跡群		遺構有り	要本調査
13-123		13	2	436	01.08.30	博多区諸岡５丁目113・110-2	92	専用住宅	笹原遺跡群	2001/10/4	遺構なし	慎重工事
13-116		13	2	445	01.09.03	博多区店屋町95-2・96-2・97-2	197	土地売買	博多遺跡群	2001/9/11	遺構有り	慎重工事
13-121		13	2	448	01.09.04	博多区板付７丁目2-7	1247	相続税対策(土地売買)	包蔵地外	2001/9/20	遺構有り	開発同意
13-119		13	2	474	01.09.12	博多区那珂１丁目45-1	646	共同住宅	那珂遺跡群	2001/9/20	遺構有り	要本調査
13-122		13	2	508	01.09.25	博多区那珂１丁目7-2	435	共同住宅(木造２Ｆ)	那珂遺跡群	2001/10/2	未確認	慎重工事
13-133		13	2	510	01.09.25	博多区竹丘町２丁目22	390	共同住宅建築	包蔵地外	2001/10/16	遺構なし	開発同意
13-140	0135	13	2	525	01.10.02	博多区博多駅南４丁目132	419	共同住宅	比恵遺跡群	2001/10/11	遺構有り	要本調査
13-208		13	2	526	01.10.02	博多区奈良屋町270	151	ビル建設	博多遺跡	2001/12/27	遺構なし	慎重工事
13-137		13	2	527	01.10.02	博多区銀天町１丁目1-7・-8・-9	802	共同住宅建設	麦野Ｂ遺跡群	2001/10/18	遺構なし	慎重工事
13-141		13	2	531	01.10.03	博多区竹下２丁目481-27・481-28	1308	事務所及び工場	那珂遺跡	2001/10/23	遺構なし	慎重工事
13-155		13	2	538	01.10.04	博多区昭南町３丁目６	201	専用住宅	雑餉隈遺跡群	2001/11/5	遺構なし	慎重工事
13-143		13	2	541	01.10.05	博多区麦野６丁目16-3・-7・-8	358	未定	麦野Ｃ遺跡群	2001/10/23	遺構なし	慎重工事
13-138	0134	13	2	560	01.10.11	博多区竹下５丁目85・82	213	専用住宅	那珂遺跡群	2001/10/18	遺構有り	要本調査
13-159	0139	13	2	567	01.10.12	博多区麦野４丁目11-5	285	専用住宅	麦野Ａ遺跡群	2001/11/5	遺構有り	要本調査
13-166	0140	13	2	578	01.10.18	博多区銀天町３丁目13-2・-4	90	共同住宅	麦野Ｃ遺跡群	2001/10/30	遺構有り	要本調査
13-168		13	2	582	01.10.19	博多区竹下５丁目6-17	1446	駐車場	那珂遺跡群	2001/11/6	遺構有り	工事立会
13-176		13	2	587	01.10.22	博多区博多駅前１丁目23-10	1275	共同住宅	博多遺跡群	2001/11/15	未確認	慎重工事
13-158	0142	13	2	590	01.10.22	博多区那珂１丁目197～202、287～290	324	専用住宅	那珂遺跡群	2001/10/30	遺構有り	要本調査
13-163		13	2	594	01.10.23	博多区諸岡３丁目932外８筆	1913	共同住宅(分譲)	諸岡Ａ遺跡群	2001/11/6	遺構なし	慎重工事
13-177		13	2	601	01.10.24	博多区那珂１丁目87	130	共同住宅	那珂遺跡群	2001/11/20	遺構有り	慎重工事
13-194		13	2	602	01.10.24	博多区東雲町２丁目5	465	店舗	麦野Ｃ遺跡	2001/12/11	遺構有り	慎重工事
13-157		13	2	605	01.10.26	博多区昭南町２丁目31-2	372	未定	雑餉隈遺跡	2001/11/5	遺構なし	慎重工事
13-192		13	2	620	01.10.30	博多区冷泉町35･36･37	385	共同住宅(店舗付)	博多遺跡群	2001/12/6	遺構有り	要本調査
13-165		13	2	621	01.10.30	博多区千代１丁目41-10	629	店舗建設(ディケアーセンター)	堅粕遺跡群	2001/11/8	遺構なし	慎重工事
13-206	0155	13	2	624	01.10.31	博多区麦野３丁目11-28・-57外４筆	163	専用住宅	麦野A遺跡	2001/12/25	遺構有り	要本調査
13-167		13	2	564	01.11.05	博多区下川端町14-1・15-1	188	事務所ビル	博多遺跡群	2001/11/5	遺構有り	慎重工事
13-182		13	2	637	01.11.05	博多区東光寺町１丁目137	932	事務所	那珂遺跡群	2001/11/15	遺構有り	要本調査

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-193	0146	13	2	652	01.11.09	博多区那珂２丁目213-2・214-1・214-3・221	662	共同住宅建設	那珂遺跡群	2001/12/6	遺構有り	要本調査
13-186		13	2	670	01.11.15	博多区那珂１丁目518-1	138	共同住宅（木造2F）	那珂八幡古墳	2001/11/27	遺構有り	慎重工事
13-187		13	2	676	01.11.19	博多区博多駅南５丁目5-37	216	専用住宅	比恵遺跡群	2001/11/29	未確認	慎重工事
13-196		13	2	689	01.11.26	博多区西月隈４丁目932-1・-2	1067	専用住宅	立花寺B遺跡群	2001/12/6	遺構有り	慎重工事
13-189		13	2	698	01.11.27	博多区吉塚１丁目464・464-2	115	事務所新築	堅粕遺跡群	2001/12/3	遺構有り	慎重工事
13-212		13	2	718	01.12.06	博多区三筑１丁目1-5・-10	1138	店舗（鉄骨造平屋）	三筑遺跡	2002/1/8	遺構有り	慎重工事
13-240		13	2	719	01.12.06	博多区諸岡128-5・128-1	108	専用住宅	笹原遺跡群	2002/2/28	遺構なし	慎重工事
13-197		13	2	721	01.12.07	博多区堅粕４丁目376-1・-3	132	共同住宅（木造２階）	堅粕遺跡群	2001/12/13	遺構有り	慎重工事
13-221		13	2	735	01.12.12	博多区南八幡町１丁目８番	1,995.30	寄宿舎建設	南八幡遺跡	2001/1/15	遺構有り	慎重工事
13-221		13	2	735	01.12.12	博多区南八幡町１丁目８番	1,995.30	寄宿舎建設	南八幡遺跡	2001/1/22	遺構有り	慎重工事
13-226		13	2	752	01.12.18	博多区冷泉町527-1	544	共同住宅建築	博多遺跡群	2002/1/31	遺構有り	要本調査
13-211		13	2	754	01.12.18	博多区博多駅南４丁目208	731	事務所	比恵遺跡群	2002/1/8	遺構有り	慎重工事
13-225		13	2	761	01.12.19	博多区麦野６丁目3-13	315	共同住宅（木造２Ｆ）	麦野A遺跡	2002/1/29	遺構なし	慎重工事
13-219		13	2	774	01.12.26	博多区井相田１丁目7-5	3144	未定（物納）	井相田Ｃ遺跡群	2002/1/15	遺構有り	要本調査
13-213		13	2	777	01.12.28	博多区竹下２丁目481-34	1840	未定	比恵遺跡群	2002/1/10	遺構なし	身長工事
13-214	0207	13	2	778	01.12.28	博多区山王２丁目53-1・51	1909	給油所建設	比恵遺跡近接	2002/1/8	遺構有り	要本調査
13-223		13	2	786	02.01.08	博多区板付７丁目6-42	351	店舗付専用住宅	三筑遺跡	2002/1/22	遺構なし	慎重工事
13-229		13	2	788	02.01.08	博多区博多駅南６丁目24-3	131	共同住宅(木造２階建)	比恵遺跡群	2002/1/24	遺構有り	工事立会
13-231		13	2	834	02.01.30	博多区光丘３丁目10	2032	戸建分譲住宅	中ノ原遺跡	2002/2/5	遺構有り	
13-232・246		13	2	837	02.01.31	博多区那珂３丁目37	1129	未定	那珂遺跡群	2001/2/7	遺構有り	要協議
13-232・246		13	2	837	02.01.31	博多区那珂３丁目37	1129	未定	那珂遺跡群	2001/3/5	遺構有り	要協議
13-236		13	2	864	02.02.08	博多区光丘３丁目9-3	302	共同住宅	中ノ原遺跡	2002/2/19	遺構有り	工事立会
13-251		13	2	918	02.02.08	博多区堅粕１丁目11-15・11-18	137	店舗併用専用住宅	堅粕遺跡群	2002/3/14	遺構なし	慎重工事
13-265		13	2	906	02.2.28	博多区吉塚１丁目105	168	共同住宅	堅粕遺跡群	2002/3/28	遺構なし	慎重工事

南区

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-069	0119	11	2	841	00.02.01	南区南大橋１丁目1176-2・-6・-44～46	4409	共同住宅建設	那珂遺跡群	2001/12/6	遺構有り	要本調査
13-020		12	2	134	00.05.18	南区弥永４丁目14-2・-3	1028	共同住宅（木造2F）	那珂八幡古墳	2001/11/27	遺構有り	慎重工事
13-072		12	2	934	01.02.22	南区井尻4丁目21番1133,1134-1,1135-3	931	専用住宅	比恵遺跡群	2001/11/29	未確認	慎重工事
13-016		12	2	1032	01.03.26	南区老司５丁目635-19	189	専用住宅	立花寺B遺跡群	2001/12/6	遺構有り	慎重工事
13-021		12	2	1042	01.03.30	南区五十川2丁目102-2、-1の一部	385	事務所新築	堅粕遺跡群	2001/12/3	遺構有り	慎重工事

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-008		13	2	23	01.04.12	南区曰佐３丁目88-14	162	専用住宅	弥永原遺跡	2001/4/17	遺構有り	慎重工事
13-022		13	2	35	01.04.16	南区三宅３丁目150-1	1233	共同住宅	三宅C遺跡	2001/5/10	遺構なし	慎重工事
13-068	0111	13	2	79	01.04.27	南区大橋４丁目633-12	1053	共同住宅	大橋E遺跡	2001/5/10	遺構有り	要本調査
13-065		13	2	104	01.05.09	南区井尻５丁目354-2	154	専用住宅	井尻B遺跡	2001/6/28	遺構なし	慎重工事
13-048		13	2	119	01.05.15	南区五十川２丁目4-8	860	共同住宅新築	五十川遺跡	2001/6/12	遺構なし	慎重工事
13-062	0126	13	2	123	01.05.16	南区井尻５丁目9-2・-5・-20	1223	共同住宅	井尻B遺跡	2001/6/7	遺構有り	要本調査
13-038		13	2	129	01.05.18	南区弥永１丁目341-1・-3・342-1・-4	257	専用住宅	警弥郷A遺跡	2001/6/6	遺構なし	慎重工事
13-053		13	2	178	01.06.01	南区上曰佐字柳瀬492-5	176	専用住宅新築	上曰佐遺跡	2001/6/12	遺構なし	慎重工事
13-083		13	2	188	01.06.04	南区井尻１丁目311-19・-14の一部	148	専用住宅新築	井尻B遺跡	2001/6/28	遺構有り	慎重工事
13-082		13	2	196	01.06.05	南区老司１丁目466-18外５筆	1542	診療所建築	野多目C遺跡	2001/7/12	遺構なし	慎重工事
13-087		13	2	199	01.06.06	南区井尻１丁目711-6	99	専用住宅	井尻B遺跡	2001/7/19	遺構有り	慎重工事
13-061	0116	13	2	219	01.06.11	南区井尻１丁目283-1	344	共同住宅	井尻Ｂ遺跡	2001/6/21	遺構有り	要本調査
13-092		13	2	248	01.06.21	南区弥永３丁目9-7	913	共同住宅	警弥郷Ｂ遺跡	2001/7/24	遺構なし	慎重工事
13-100		13	2	338	01.07.26	南区弥永２丁目18-3	819	共同住宅建設	包蔵地外	2001/8/7	遺構なし	開発同意
13-104		13	2	370	01.08.07	南区高宮４丁目175-1	413	未定	高宮Ａ遺跡	2001/8/23	遺構なし	慎重工事
13-106		13	2	406	01.08.21	南区大橋４丁目650-18・-19	332	専用住宅	大橋Ｅ遺跡	2001/8/28	遺構なし	慎重工事
13-120		13	2	427	01.08.22	南区老司２丁目31外11筆	4333	店舗	老司Ｂ遺跡	2001/9/20	遺構なし	慎重工事
13-160	0133	13	2	502	01.09.20	南区井尻１丁目735-5	251	専用住宅(軽量鉄骨２F)	井尻Ｂ遺跡群	2001/10/11	遺構有り	要本調査
13-164		13	2	504	01.09.21	南区弥永１丁目803-1	389	倉庫（２階建）	警弥郷Ａ遺跡群	2001/11/8	遺構有り	慎重工事
13-135		13	2	530	01.10.03	南区老司２丁目23-82	186	診療所	野多目Ｃ遺跡群	2001/10/11	遺構なし	慎重工事
13-139		13	2	563	01.10.11	南区五十川１丁目832-1	466	未定	五十川遺跡	2001/10/18	遺構なし	開発同意
13-161		13	2	586	01.10.19	南区曰佐３丁目42-1	126660	学校施設建設	弥永原遺跡群	2001/11/6	遺構有り	工事立会
13-195		13	2	631	01.11.02	南区曰佐３丁目74-2・75-1・113-2	495	専用住宅	弥永原遺跡	2001/12/13	遺構なし	慎重工事
13-188		13	2	677	01.11.19	南区野多目２丁目703-4	185	専用住宅	野多目B遺跡	2001/11/27	遺構なし	慎重工事
13-239	0212	13	2	705	01.11.29	南区桧原６丁目863-2の一部	6381	病院新築	東油山古墳群Ｅ群	2002/2/14	遺構有り	要本調査
13-202		13	2	755	01.12.18	南区五十川２丁目109-1	432	専用住宅	五十川遺跡群	2001/12/20	遺構有り	慎重工事
13-207	0201	13	2	757	01.12.18	南区曰佐３丁目42-1	234	図書館増築	弥永原遺跡群	2001/12/27	遺構有り	要本調査
13-222		13	2	762	01.12.19	南区三宅２丁目750-2・751	893	専用住宅	三宅B遺跡	2002/1/24	遺構なし	慎重工事
13-266		13	2	781	02.01.07	南区横手３丁目5-12	495	未定（土地売買）	横手遺跡群	2002/3/26	遺構有り	慎重工事
13-224		13	2	812	02.01.18	南区老司３丁目567-3	400	未定（物納）	老司Ａ遺跡	2002/1/24	遺構有り	慎重工事
13-234		13	2	819	02.01.21	南区太平寺２丁目322-1・-2	550	専用住宅	太平寺遺跡群	2002/2/7	遺構有り	工事立会

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-254	0208	13	2	838	02.01.31	南区横手南町30-4・17-7	223	共同住宅建築	寺島遺跡	2002/3/14	遺構有り	要本調査
13-238		13	2	856	02.02.06	南区井尻２丁目162-3他２筆	2097	未定	包蔵地外	2002/2/21	遺構なし	開発同意
13-237		13	2	863	02.02.08	南区曰佐１丁目96-4・96-1の一部	278	専用住宅	曰佐遺跡群	2002/2/21	遺構なし	慎重工事
13-241		13	2	875	02.02.14	南区南大橋２丁目1145-21	263	専用住宅	三宅遺跡	2002/2/28	遺構有り	要協議
13-259		13	2	922	02.03.08	南区野多目２丁目330-1	67	土地取引	包蔵地外	2002/3/23	遺構なし	開発同意
13-257		13	2	935	02.03.14	南区横手３丁目327	750	事務所兼倉庫	横手遺跡群	2002/3/20	#NAME?	慎重工事
13-260		13	2	952	02.03.22	南区曰佐４丁目487-1	439	共同住宅建設	曰佐遺跡群	2002/3/23	遺構なし	慎重工事
13-252		13	2	905	02.2.28	南区五十川２丁目583-1/-5	1114	専用住宅	包蔵地外	2002/3/12	遺構なし	慎重工事

中央区

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-081		13	2	221	01.06.12	中央区地行４丁目9-36	140	専用住宅	元寇防塁	2001/7/12	遺構なし	開発同意
13-088		13	2	251	01.06.21	中央区天神４丁目145・146・147	845	事務所建設	福岡城肥前堀	2001/7/17	遺構なし	慎重工事

城南区

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-253		13	2	847	01.02.01	城南区田島５丁目73-1・71-7・112	778	宅地造成	田島B遺跡	2002/3/12	遺構なし	慎重工事
13-001		12	2	1024	01.03.22	城南区長尾5丁目276	491	地下送水管撤去	長尾遺跡群	2001/4/9	試掘不可能	工事立会
13-023		13	2	57	01.04.23	城南区田島２丁目308-3	122	専用住宅	包蔵地外	2001/5/8	遺構なし	開発同意
13-105	0123	13	2	116	01.05.14	城南区七隈２丁目20-51	772	分譲戸建住宅	飯倉古墳群４号墳	2001/5/29	遺構有り	要本調査
13-127・128	0137	13	2	192	01.05.29	城南区七隈１丁目1277-1・1279外５筆	2997	共同住宅	飯倉B遺跡	2001/10/2	遺構有り	要本調査
13-059		13	2	212	01.06.08	城南区片江１丁目20-13（1058-1・1069-4	1086	専用住宅改築	片江B遺跡	2001/6/20	遺構なし	工事立会
13-108		13	2	371	01.08.07	城南区神松寺２丁目28･29	475	店舗建設(鉄骨造平屋)	片江Ｂ遺跡	2001/8/16	遺構なし	慎重工事
13-185		13	2	398	01.08.17	城南区梅林５丁目141-7	216	専用住宅	飯倉Ｇ遺跡	2001/8/21	遺構なし	慎重工事
13-230		13	2	816	02.01.21	城南区七隈３丁目754-1・-8・-14	744	専用住宅増築(198.14㎡)	飯倉Ｄ遺跡	2002/2/5	遺構有り	慎重工事

早良区

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
12-283		12	2	317	00.07.27	早良区西新５丁目571-1,570-1	532	店舗付きマンション	西新町遺跡	2001/2/15	遺構なし	慎重工事
13-216		12	2	317	00.07.27	早良区西新５丁目571-1,570-1	532	店舗付きマンション	西新町遺跡	2001/7/24	遺構なし	慎重工事
13-217		12	2	317	00.07.27	早良区西新５丁目571-1,570-1	532	店舗付きマンション	西新町遺跡	2001/8/1	遺構なし	慎重工事
13-002		12	2	838	01.01.18	早良区原6丁目762-11、-1+1154	930	共同住宅建築	原遺跡	2001/4/3	遺構なし	慎重工事
13-064	0114	12	2	1016	01.03.19	早良区高取2丁目	1020	寺院増改築	藤崎遺跡	2001/4/5	遺構有り	慎重工事
13-011		12	2	1018	01.03.21	早良区小田部3丁目369370	465	専用住宅建替え	有田遺跡群	2001/4/26	遺構有り	慎重工事

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-056	0117	13	2	21	01.04.09	早良区南庄３丁目255の一部・256	811	共同住宅	有田遺跡	2001/5/22	遺構有り	要本調査
13-027		13	2	29	01.04.13	早良区賀茂３丁目427-7	70	共同住宅	次郎丸高石遺跡	2001/5/15	遺構なし	慎重工事
13-029		13	2	50	01.04.19	早良区有田５丁目24-26	1894	福祉施設	包蔵地外	2001/5/17	遺構なし	開発同意
13-024		13	2	81	01.05.01	早良区西新２丁目107-20・110-75	232	戸建専用住宅	元寇防塁	2001/5/8	遺構なし	慎重工事
13-052		13	2	93	01.05.08	早良区飯倉４丁目252-2・254-4	1233	専用住宅	原東遺跡	2001/5/29	遺構有り	慎重工事
13-054		13	2	94	01.05.08	早良区小田部１丁目438	800	専用住宅	有田遺跡群	2001/5/29	遺構なし	慎重工事
13-095		13	2	110	01.05.11	早良区野芥６丁目483	2711	戸建て住宅建設	山崎古墳群B群	2001/8/2	遺構なし	慎重工事
13-040		13	2	146	01.05.22	早良区有田３丁目34-10・34-16	224	店舗兼用住宅	有田遺跡群	2001/6/6	遺構なし	慎重工事
13-071		13	2	160	01.05.25	早良区西新２丁目221-17	5539	共同住宅	西新町遺跡	2001/6/7	未確認	慎重工事
13-071		13	2	160	01.05.25	早良区西新２丁目221-17	5539	共同住宅	西新町遺跡	2001/7/5	未確認	慎重工事
13-109		13	2	168	01.05.29	早良区西新２丁目107-45	94	専用住宅	元寇防塁	2001/8/30	遺構なし	開発同意
13-045		13	2	198	01.06.05	早良区有田２丁目7-75～-78	655	土地売買	有田遺跡	2001/6/12	遺構有り	慎重工事
13-112		13	2	204	01.06.07	早良区田村２丁目1132-1	1268	共同住宅	平田遺跡	2001/9/3	遺構なし	慎重工事
13-074		13	2	238	01.06.15	早良区小田部１丁目437	132	土地売買	有田遺跡	2001/7/4	遺構なし	慎重工事
13-073		13	2	245	01.06.18	早良区南庄３丁目262・265	284	専用住宅	有田遺跡	2001/7/4	未確認	工事立会
13-076		13	2	276	01.06.29	早良区賀茂１丁目305-1	356	共同住宅 (軽量鉄骨２階建て)	免遺跡	2001/7/4	遺構なし	慎重工事
13-107		13	2	297	01.07.10	早良区野芥２丁目859-2	311	専用住宅新築	野芥遺跡群	2001/8/21	遺構有り	慎重工事
13-091		13	2	299	01.07.10	早良区東入部２丁目1536-3	158	専用住宅新築	ヒワタシ遺跡群	2001/7/24	遺構なし	慎重工事
13-126		13	2	385	01.08.06	早良区次郎丸４丁目391-1392-1	3108	店舗	次郎丸遺跡群	2001/10/9	遺構なし	開発同意
13-132		13	2	425	01.08.22	早良区東入部６丁目1447-3・1448	2418	店舗付き共同住宅	岩本遺跡群	2001/10/18	遺構有り	慎重工事
13-113		13	2	415	01.08.23	早良区有田７丁目390-1	603	診療所新築	有田遺跡群	2001/9/5	遺構なし	慎重工事
13-129	0206	13	2	458	01.09.06	早良区野芥５丁目268-1外９筆	14784	病院増築	野芥遺跡群	2001/10/13	遺構有り	要本調査
13-179		13	2	479	01.09.14	早良区小田部１丁目227-1	204	専用住宅	有田遺跡群	2001/10/1	遺構有り	工事立会
13-130		13	2	487	01.09.17	早良区有田１丁目28-7	415	専用住宅	有田遺跡	2001/10/12	未確認	工事立会
13-125		13	2	497	01.09.19	早良区次郎丸４丁目362-1の一部	237	専用住宅	次郎丸遺跡	2001/10/9	遺構なし	慎重工事
13-142		13	2	533	01.10.04	早良区田村３丁目840-1	973	共同住宅	田村遺跡群	2001/10/24	遺構有り	慎重工事
13-180	0160	13	2	572	01.10.09	早良区重留１丁目504-1・510-1・511-5	3916	店舗	重留村下遺跡群	2001/11/8	遺構有り	要本調査
13-153		13	2	592	01.10.22	早良区小田部１丁目250-3	219	専用住宅	有田遺跡	2001/11/1	未確認	慎重工事
13-162		13	2	593	01.10.22	早良区大字西字下広瀬1781の一部	335	倉庫	広瀬遺跡	2001/11/13	遺構なし	慎重工事
13-178		13	2	656	01.11.12	早良区脇山１丁目2851-1	332	専用住宅（建替）	脇山城ノ原遺跡	2001/11/20	未確認	慎重工事
13-181		13	2	659	01.11.13	早良区小田部２丁目50･51	518	専用住宅	有田遺跡群	2001/11/20	遺構有り	要協議

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-227		13	2	724	01.12.10	早良区重留６丁目468・469	855	専用住宅	四箇東遺跡	2001/12/18	遺構なし	慎重工事
13-205		13	2	737	01.12.13	早良区南庄３丁目267-1	385	共同住宅建替	有田遺跡群	2001/12/25	遺構有り	工事立会
13-199		13	2	738	01.12.13	早良区東入部１丁目1803-9・-10・-11	523	病院の新築工事	熊本遺跡群	2001/12/18	遺構なし	慎重工事
13-258		13	2	741	01.12.14	早良区賀茂３丁目171-1の一部	1700	共同住宅（鉄骨造２階建）	免遺跡群	2002/3/19	遺構有り	慎重工事
13-209		13	2	753	01.12.18	早良区小田部１丁目142・143	955	店舗	有田遺跡群	2001/12/27	遺構なし	慎重工事
13-262		13	2	825	02.01.25	早良区干隈６丁目5-17	134	専用住宅	野芥遺跡群	2002/3/23	遺構なし	慎重工事
13-263		13	2	873	02.02.14	早良区飯倉２丁目24-3・-3	1483	共同住宅（分譲）	原東遺跡	2002/3/19	遺構なし	慎重工事
13-245		13	2	876	02.02.14	早良区賀茂２丁目83-10	164	共同住宅	野芥大藪遺跡	2002/2/26	遺構なし	慎重工事
13-261		13	2	897	02.02.26	早良区重留７丁目1034-3・1041-5・1035-5	1596	共同住宅建設	四箇遺跡群	2002/3/19	遺構なし	慎重工事
13-256		13	2	903	02.02.27	早良区有田３丁目36-4	213	共同住宅	有田遺跡群	2002/2/12	遺構なし	慎重工事
13-269		13	2	936	02.03.15	早良区原７丁目896-1	231	土地売買	原遺跡群	2002/3/28	遺構なし	慎重工事
13-264		13	2	938	02.03.18	早良区南庄３丁目67	230	専用住宅	有田遺跡群	2002/3/26	遺構有り	慎重工事

西区

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-235		13	2	868	02.02.12	西区野方１丁目236・237	810	共同住宅	野方久保遺跡	2002/2/19	遺構なし	慎重工事
13-028		13	2	17	01.04.09	西区橋本１丁目1115-1・1116-1	1318	店舗	包蔵地外	2001/5/15	遺構なし	開発同意
13-013		13	2	41	01.04.16	西区拾六町３丁目560-5	823	土地売買	湯納遺跡	2001/5/1	未確認	慎重工事
13-013		13	2	42	01.04.16	西区拾六町３丁目559-4	163	共同住宅	湯納遺跡	2001/5/1	未確認	慎重工事
13-012		13	2	77	01.04.26	西区金武字西山231-4	456	土地売買	包蔵地外	2001/5/1	遺構なし	開発同意
13-042		13	2	122	01.05.16	西区福重３丁目283-8	605	店舗建設	福重稲木遺跡	2001/5/31	遺構有り	慎重工事
13-039		13	2	134	01.05.18	西区大字飯氏字久保256-1・257-4	1074	未定	飯氏古墳群Ａ群	2001/5/31	遺構なし	慎重工事
13-043		13	2	163	01.05.28	西区野方２丁目13-11	1303	共同住宅	道隈遺跡	2001/6/7	遺構なし	慎重工事
13-057		13	2	195	01.06.05	西区姪浜３丁目2944・2944-5	188	専用住宅新築	姪浜遺跡	2001/6/19	遺構有り	慎重工事
13-099		13	2	232	01.06.14	西区金武字浦江谷219-1の一部	176	専用住宅	浦江遺跡	2001/8/7	遺構なし	慎重工事
13-070		13	2	243	01.06.18	西区飯氏字平田965-1	763	専用住宅	周船寺遺跡群	2001/6/28	未確認	慎重工事
13-093		13	2	259	01.06.25	西区今宿東１丁目74-9	322	未定	青木遺跡	2001/8/2	遺構なし	慎重工事
13-085		13	2	270	01.06.28	西区今宿東１丁目117-5・-8	584	土地売買	青木遺跡群	2001/7/17	遺構なし	慎重工事
13-136		13	2	294	01.07.09	西区泉１丁目1124-7	1222	共同住宅建設	包蔵地外	2001/10/16	遺構なし	開発同意
13-102		13	2	355	01.08.01	西区今宿青木城外園218-2	327	専用住宅建設	青木遺跡群	2001/8/23	遺構有り	慎重工事

試掘番号	調査番号	受付番号			受付日	申　請　地	面積(㎡)	開発の概要	遺跡名	試掘日	試掘結果	判断・指示
13-110		13	2	379	01.08.09	西区今津4820-2	9059	知的障害者更正施設	今津古墳群Ａ群	2001/8/30	遺構有り	慎重工事
13-118		13	2	446	01.09.03	西区下山門団地1038-10他17筆	506	共同住宅(木造２階建)2棟	下山門遺跡	2001/9/13	遺構なし	慎重工事
13-117		13	2	475	01.09.13	西区今宿青木八丈792-1の一部	991	共同住宅	鋤崎遺跡	2001/9/13	遺構なし	慎重工事
13-145	0136	13	2	493	01.09.19	西区福重２丁目463-1他９筆	11418	物販店	橋本一丁田遺跡	2001/10/16	遺構有り	要本調査
13-145	0136	13	2	493	01.09.19	西区福重２丁目463-1他９筆	11418	物販店	橋本一丁田遺跡	2001/10/17	遺構有り	要本調査
13-145	0136	13	2	493	01.09.19	西区福重２丁目463-1他９筆	11418	物販店	橋本一丁田遺跡	2001/10/25	遺構有り	要本調査
13-218		13	2	589	01.10.22	西区横浜２丁目2006	715	専用住宅	今山遺跡	2002/1/15		慎重工事
13-218		13	2	589	01.10.22	西区横浜２丁目2006	715	専用住宅	今山遺跡	2002/1/15		慎重工事
13-198		13	2	666	01.11.14	西区大字千里字天蓋190-3	331	専用住宅	千里向川原遺跡	2001/11/14	遺構有り	工事立会
13-184	0148	13	2	682	01.11.19	西区今宿東１丁目121・122-1	996	共同住宅	青木遺跡群	2001/11/29	遺構有り	要本調査
13-191		13	2	692	01.11.27	西区拾六町１丁目17-1外２筆	3845	店舗	橋本１丁田遺跡	2001/12/11	遺構なし	慎重工事
13-215		13	2	739	01.12.14	西区今宿東１丁目32-1の一部	550	共同住宅(木造２階)	青木遺跡群	2002/1/10	遺構なし	慎重工事
13-228		13	2	828	02.01.28	西区野方１丁目220-3・-7・221-2	207	土地売買	野方久保遺跡	2002/1/31	遺構なし	慎重工事
13-243		13	2	886	02.02.20	西区姪浜６丁目1-20	1108	病院建築	姪浜遺跡群	2002/2/26	遺構なし	慎重工事
13-255		13	2	891	02.02.22	西区元岡2762	263	農業用倉庫増築工事	元岡Ａ遺跡	2002/3/12	遺構なし	慎重工事
13-268		13	2	928	02.03.11	西区戸切３丁目179	1041	共同住宅	戸切遺跡群	2002/3/28	遺構有り	慎重工事
—		13	2	953	02.03.25	西区女原86-1	397	専用住宅	女原遺跡	2002/3/26	遺構有り	工事立会
—	145	13	2	666	01.11.14	西区千里字天蓋190-3	331	専用住宅建築(掘り車庫)	千里向川原遺跡	2001/11/14	遺構有り	要本調査

Ⅱ．発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域（早良区、城南区）を埋蔵文化財第一係、東部地区（中央区、博多区、東区、南区）を同第二係が担当している。また、西区元岡一帯にかかる九州大学移転予定地については、別途担当課（大規模事業担当）を置き調査を実施している。

発掘調査にあたっては、本市の「整理収蔵要項」に従い、個々の遺跡に調査番号をつけ、遺構遺物及び記録類の登録を行っている。１遺跡の調査が複数年にまたがる場合は、開始年度の登録番号のみとなる。なお、複数の遺跡を同一調査事業で調査する場合は、原則として遺跡毎に調査番号を付している。

１）平成13年度の概要

市域内で実施された本年度の発掘調査件数は、12年度からの継続事業が３件、13年度新規事業が61件の計64件である。所管課別では、埋蔵文化財課による公共及び民間開発に伴う調査が55件（12年度からの継続事業1件、13年度新規事業54件）、大規模事業担当課による九州大学移転予定地の発掘調査が６（３）件、文化財整備課事業では史跡指定地の現状変更に伴う確認調査が３件（鴻臚館跡、福岡城跡、東光院跡）である。

予算別では、国庫補助事業が24件（国補21件、国補＋民間受託１件、国庫＋令達２件）、民間受託事業が18件、公共受託事業が７件、令達事業が９件、市単費事業が２件である。

調査件数は、博多区が最も多く26 件、西区11 件、早良区６件、城南区5件、中央区２件、東区４件、 南区７件である。博多区では博多遺跡群を主として、那珂・比恵遺跡等の周辺での調査が顕著である。
東区においては昨年度同様箱崎遺跡の調査事例が増加しつつある 。 なお、 以上の他、 福岡県教育委員会が早良区で実施した学校施設建設に伴う緊急調査が１件ある。

表１．発掘調査件数の推移（（）内は前年度からの継続）

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
民　間	51(2)	35(2)	54(4)	43(7)	37
圃場整備	2	3	1	1	2
公　共	28	34(5)	33(3)	34(4)	22
合　計	81	71	88	76(11)	61

表２．発掘調査面積の推移

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
民　間	22,054	9,033	19,842	28,473.6	11,465.4
圃場整備	11,442	2,999	7,843	399.4	6,200
公　共	37,780	55,032	73,849	710550	32,662.5
合　計	71,277	67,064	101,534	99,928.0	50,327.9

表３．平成13年度発掘調査総括表（事業及び区別一覧）

区　名	事業種別	令達	受託	補助	補助民受	補助令達	市単費	小計	県教委	総計	埋蔵文化財	大規模事業担当	鴻臚館跡担当	文化財整備課	福岡県
東　区	公共	3	0	0	－	0	0	3	－	4	4				
	民間	－	0	1	0	－	－	1							
博多区	公共	3	1	1	－	0	1	6	－	26	25			1	
	民間	－	8	11	1	－	－	20							
中央区	公共	0	0	2	－	0	0	2	－	0	0		1	1	
	民間	－	0	0	0	－	－	0							
南　区	公共	1	1	0	－	0	0	2			7				
	民間														
早良区	公共	0	0	1	－	1	0	2	1	6	5				1
	民間	－	2	1	0	－	－	3							
城南区	公共	1	2	0	－	0	0	3	－	5	5				
	民間	－	0	2	0	－	－	2							
西　区	公共	1	3	0	－	1	0	5	－	11	8	3			
	民間	－	5	0	0	－	1	6							
小　計	公共	9	7	4	0	2	1	23		61	54	3	1	2	1
	民間	0	18	17	1	0	1	37	1						
合　計		9	25	21	1	2	2	60	1						

Ⅱ．発掘調査概要

平成13年度発掘調査地点位置図

２）平成13年度発掘調査一覧表（調査番号順）

調査番号	審査番号	遺跡名	遺跡略号	次数	地図番号	登録番号	事業名	予算種別	所在地		開発面積	調査対象面積(㎡)	調査面積(㎡)	古墳	調査開始	調査終了	調査終了
0101	12-2-874	比恵遺跡群	HIE	74	37	0127	社屋建設	民受	博多	博多駅南６丁目18-2	1290	400	365		01.04.02	01.05.31	佐藤一郎
0102	12-2-932	博多遺跡群	HKT	130	49	121	専用住宅建築	国補	博多	御供所町3-17	342	50	42		01.04.09	01.04.27	上角・長屋
0103	12-2-887	有田遺跡群	ART	201	82	309	専用住宅建築	国補	早良	小田部１丁目16-2	201	105.6	105.6		01.04.09	01.04.11	蔵富士寛
0104	12-1-1014	箱崎遺跡	HKZ	25	34	2639	街路新設改良	令達	東	箱崎３丁目地内	6000	87	87		01.04.16	01.04.26	杉山富雄
0105	13-1-043	樋井川B遺跡	HIB	1	64	210	道路新設	公受	城南	桧原１丁目地内	4500	4,500	2,300		01.05.07	01.11.09	常松幹雄
0106	12-1-506	立花寺遺跡	RGG	6	11	38	東部市民リフレッシュ農園	令達	博多	立花寺2丁目地内	1500	1,500	840		01.05.17	01.10.20	長家伸
0107	10-1-273	席田青木遺跡群	MAI	5	22	80	都市計画道路福岡空港線	令達	博多	青木1丁目地内	1500	1,500	706		01.05.17	01.08.17	井上繭子
0108	—	箱崎遺跡	HKZ	26	34	2639	土地区画整理	令達	東	箱崎1丁目、馬出5丁目	8500	8,500	3155		01.05.15	継続中	佐藤・松浦
0109	—	福岡城跡	FUE	47	60	193	確認調査	国補	中央	城内 1-1	—	—	2,000		01.05.21	02.02.15	池崎譲二
0110	—	元岡・桑原遺跡群	MOT	26	129	2782	九大移転用地造成工事	公受	西	元岡・桑原地区	2750000	2,300	5,487		01.04.05	01.11.30	二宮忠司
0111	13-2-079	大橋E遺跡群	OOE	7	39	2382	共同住宅建築	民受	南	大橋4丁目16-18	1053	430	425		01.06.01	01.07.10	阿部泰之
0112	12-2-1000	博多遺跡群	HKT	131	48	121	共同住宅建築	民受	博多	奈良屋町84・85地内	411	244	190		01.06.01	01.07.23	吉武学
0113	10-1-020	箱崎遺跡	HKZ	27	34	2639	街路新設改良	令達	東	馬出5丁目地内	15652	2,500	1,560		01.06.07	02.01.31	中村・上角
0114	12-2-1016	藤崎遺跡	FUA	31	81	307	寺院建築	国補	早良	高取2-285	1020	16	16		01.05.30	01.06.04	蔵富士寛
0115	—	下月隈C遺跡群	SHC	7	10	2625	調節池建設	公受	博多	下月隈地内	65000	12,000	9,139		01.04.13	02.03.29	山崎龍雄・荒牧宏行
0116	13-2-219	井尻Ｂ遺跡群	IGB	20	25	90	共同住宅建築	国補	南	井尻１丁目283-1	344	68.5	68.5		01.07.24	01.08.04	阿部泰之
0117	13-2-021	有田遺跡群	ART	202	82	309	共同住宅建築	民受	早良	南庄3丁目255の一部、256	811	700	502		01.06.21	01.09.07	米倉秀紀
0118	13-2-241	箱崎遺跡	HKZ	28	34	2639	専用住宅建築	国補	東	馬出５丁目24-8	82	41.3	41.3		01.07.02	01.07.12	中村啓太郎
0119	11-2-841	三宅Ａ遺跡	MYA	1	39	135	集合住宅建築	民受	南	南大橋1丁目1176-2、-6、-44	4409	200	61		01.07.12	01.07.23	阿部泰之
0120	13-2-001	博多遺跡群	HKT	132	48	121	店舗付専用住宅建築	国補	博多	上呉服町480,482	320	184	184		01.07.27	01.09.14	杉山富雄

調査番号	審査番号	遺跡名	遺跡略号	次数	地図番号	登録番号	事業名	予算種別	所在地		開発面積(㎡)	調査対象面積(㎡)	調査面積(㎡)	古墳	調査開始	調査終了	調査終了
0121	—	比恵遺跡群	HIE	75	37	127	確認調査	国補	博多	博多駅南５丁目３番	—	—	51.8		01.08.30	01.08.30	吉武学
0122	13-2-242	那珂遺跡群	NAK	80	38	85	専用住宅建築	国補	博多	那珂１丁目681-1	581	50	50		01.08.16	01.08.16	吉武学
0123	13-2-116	飯倉古墳群第４号墳	IKK	1	73	250	分譲戸建住宅造成	国補	城南	七隈２丁目20-51	772	256	256		01.08.13	01.08.13	蔵富士寛
0124	12-2-867	今宿五郎江遺跡	IZG	6	112	626	共同住宅建築	民受	西	今宿136-2・-13・-16・109-5	1768	385	385		01.10.16	01.10.16	蔵富士寛
0125	13-1-175	上月隈Ｂ遺跡	KMB	1	10	2814	県道水城下臼井	令達	博多	月隈３丁目地内	8360	1,066	1,066		02.02.08	02.02.08	井上繭子
0126	13-2-123	井尻Ｂ遺跡群	IGB	21	25	90	線道路改良工事	民受	南	井尻5丁目9	1223	350	366		01.11.05	01.11.05	久住猛雄
0127	13-2-352	比恵遺跡群	HIE	76	37	127	共同住宅建築	民受	博多	博多駅南6丁目64-1	450	180	110		01.10.29	01.10.29	吉武学
0128	12-2-647	博多遺跡群	HKT	133	49	121	社屋建設	民受	博多	祇園町355・357	80	285	285		01.12.26	01.12.26	杉山富雄
0129	—	福岡城跡	FUE	48	60	193	確認調査	国補	中央	城内1-1外	—	—	379		01.10.02	02.04.30	井澤洋一・榎本義嗣
0130	12-2-791	吉塚遺跡	YSZ	9	35	123	共同住宅建築	民受	博多	吉塚３丁目19	1700	256	256		01.11.07	01.11.07	長屋伸
0131	12-1-136	大橋E遺跡群	OOE	8	39	2382	都市計画道路建設	令達	南	大橋４丁目14-41	235	235	151.9		01.11.09	01.11.09	阿部泰之
0132	11-1-1057	梅林遺跡	UBY	6	74	2775	地下鉄出入口	公受	城南	梅林４丁目451-10	456	370	368		01.11.02	01.11.02	池田祐司
0133	13-2-502	井尻Ｂ遺跡群	IGB	22	25	90	専用住宅建築	国補	南	井尻１丁目735-5	251	140.5	140.5		01.12.5	01.12.5	久住猛雄
0134	13-2-560	那珂遺跡群	NAK	81	38	85	専用住宅建築	国補	博多	竹下５丁目85・82	213	135.4	135.4		01.12.15	01.12.15	本田浩二郎
0135	13-2-525	比恵遺跡群	HIE	77	37	127	共同住宅建築	民受	博多	博多駅南４丁目132	419	250	250		01.12.10	01.12.10	吉武学
0136	13-2-493	橋本一丁田遺跡	HTI	4	91	390	大型店舗建設	民受	西	福重２丁目463-1他９筆	11418	5,201	5,201		02.02.15	02.02.15	池田祐司・阿
0137	13-2-192	飯倉B遺跡群	IKR-B	1	73	243	共同住宅(木造２階)	国補	城南	七隈１丁目1277-1・1279外５筆	2997	92	92		01.11.16	01.11.16	部泰之
0138	12-1-218	羽根戸原C遺跡	HNC	5	92	399	道路拡幅工事	令達	西	大字羽根戸575-10外	1300	187	187		02.01.11	02.01.11	米倉秀紀
0139	13-2-567	麦野Ａ遺跡群	MGA	11	12	48	専用住宅建設	国補	博多	麦野４丁目11-5	285	130	130		01.12.01	01.12.01	蔵富士寛
0140	13-2-578	麦野Ｃ遺跡群	MGC	6	12	50	専用住宅建築	国補	博多	銀天町３丁目13-2・-4	90	32	32		01.11.27	01.11.27	本田浩二郎
0141	13-2-429	博多遺跡群	HKT	134	48	121	専用住宅建築	国補	博多	上呉服町516	138	23	23		01.11.30	01.11.30	長屋伸
0142	13-2-590	那珂遺跡群	NAK	82	38	85	専用住宅建築	国補	博多	那珂１丁目197～202・287～290	324	80	80		01.12.21	01.12.21	長屋伸

調査番号	審査番号	遺跡名	遺跡略号	次数	地図番号	登録番号	事業名	予算種別		所在地	開発面積（㎡）	調査対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	古墳	調査開始	調査終了	調査終了
0143	13-1-106	椎原A遺跡	SBA	1	早12・19	786	確認調査（圃場整備）	国補・令達	早良	椎原大字原田他	37000	—	200		01.11.05	01.11.09	常松幹雄
0144	12-1-508	浦江遺跡群	URA	5	94	444	圃場整備	国補・令達	西	金武字浦江	120000	30,000	6,000	1	01.11.20	継続中	米倉・常松ほか
0145	13-2-666	千里向川原遺跡	SMK	1	121	695	専用住宅建築（掘り車庫）	市単費	西	大字千里字天蓋190-3	331	—	58		01.12.14	01.12.14	田上・大塚・大庭
0146	13-2-652	那珂遺跡群	NAK	83	38	85	共同住宅建築	国補	博多	那珂２丁目213-2・214-1・214-3	662.4	—	233		01.12.20	01.12.28	吉武学
0147	13-2-523	博多遺跡群	HKT	135	49	121	店舗兼用専用住宅	国補・民受	博多	店屋町95-2	197	197	72		02.01.10	02.03.20	長屋伸
0148	13-2-682	青木遺跡群	AOK	4	112	628	共同住宅建築	民受	西	今宿東１丁目121・122-1	996	400	373.8		02.01.07	02.02.06	久住猛雄
0149	13-2-603	博多遺跡群	HKT	136	49	121	校舎建設（専門学校）	民受	博多	博多駅前２丁目184	114	114	52		02.01.17	02.02.15	本田浩二郎
0150	12-1-1106	三宅廃寺	MKG	3	39	144	宅地分譲	公受	南	南大橋１丁目1157	4458	800.0	562(13年度) 1023.5(合計)		02.01.15	02.05.27	吉武学
0151	13-2-591	羽根戸古墳群G群	HDK-G	2	105	557	無線局建設	民受	西	大字羽根戸	230	230	230		02.01.15	02.02.21	蔵富士寛
0152	13-2-089	博多遺跡群	HKT	137	48	121	共同住宅建設	民受	博多	中呉服町7-5	358	358	70		02.02.01	02.03.19	上角智希
0153	—	元岡・桑原遺跡群	MOT	27	129	2782	九大移転用地造成工事	公受	西	大字桑原	2750000	2,400	4,495		01.12.01	継続中	二宮忠司
0154	—	元岡・桑原遺跡群	MOT	28	130	2782	九大移転用地造成工事	公受	西	大字桑原	2750000	2,500	2,200		02.02.01	継続中	吉留秀敏
0155	13-2-624	麦野Ａ遺跡	MGA	12	12	48	専用住宅	国補	博多	麦野3丁目11-28、57、81～84	163	162.9	80		02.01.30	02.02.04	杉山富雄
0156	13-2-731	麦野Ａ遺跡	MGA	13	12	48	宅地造成	国補	博多	麦野２丁目1-8	1060	250	250		02.02.18	02.03.09	本田
0157	12-1-120	梅林遺跡	UBY	7	74	2775	都市計画道路建設	令達	城南	梅林4丁目1-10他	1000	650	479.8		02.02.04	02.04.04	阿部泰之
0158	12-2-867	今宿五郎江遺跡	IZG	7	112	626	共同住宅建築	民受	西	今宿136-2・-13・-16・109-5	1768	386.2	386.2		02.02.18	02.03.06	久住猛雄
0159	—	吉塚遺跡群	YSZ	10	35	123	史跡整備	市単費	博多	吉塚３丁目-20-37	—	77	77		02.02.27	02.03.28	榎本
0160	13-2-572	重留村下遺跡	SGM	2	84	324	店舗建設	民受	早良	重留１丁目504-1・510-1・511-5	3,916.30	280	199.4		02.3.4	02.3.29	池田
0161	—	西新町遺跡	NSJ	14	71	240	学校校舎建設	公共	早良	西新町	1900	1500	1500		01.09.07	02.03.11	県教委

0001 元岡・桑原遺跡群第20次調査（MOT－20）

所在地	福岡市西区大字桑原字戸山	調査面積	13,000㎡
調査原因	大学移転に伴う造成工事	担当者	菅波正人
調査期間	2000.4.5～継続	処置	調査中

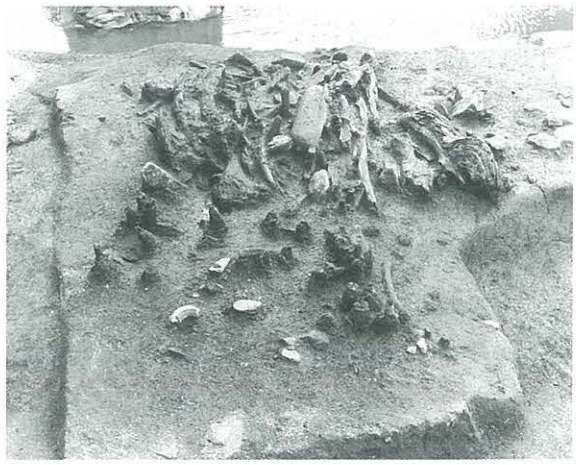
位置・環境　調査は平成12年度から継続中で、調査面積約13,000㎡となる。調査開始から現在までに検出された遺構は古墳時代の竪穴住居跡69軒＋α、掘立柱建物、溜池状遺構、土坑他、古代（奈良時代～平安時代）の掘立柱建物32棟＋α、池状遺構、製鉄炉、鍛冶炉、土坑他となる。遺物は各遺構から須恵器、土師器等の土器類、池状遺構から木簡をはじめとする木製品、鉄鏃、刀子等の鉄製品などが多量に出土した。現在遺物の総量はコンテナ約2000箱程度になる。

主な遺構　古墳時代の竪穴住居跡は古代の倉庫群の下層にも遺構が存在しており、更に20～30軒の竪穴住居跡が予想される。竪穴住居跡は古墳時代前期から見られ、６世紀後半～末までの長期にわたる。また、調査区北側中央で幅20m、長さ50mを超える溜池状遺構SD044を検出した。SD044からは古墳時代前期～後期の各時期の土器、木器（農耕具、建築部材等）が多量に出土した。この遺構は堆積状況から常に水が溜まっていたと考えられ、下流に堰を設けた溜池状の遺構と考えられる。

古代の遺構はそれまでの集落域に営まれている。主な遺構は池状遺構SX001と掘立柱建物（倉庫）である。倉庫群は東側の浅い谷部と西側の丘陵に挟まれた幅約30m程の整地面の上に造られており、南北長60m程度の範囲に約30棟余りが分布する。池状遺構SX001は谷を幅約３m、長さ約14mの築堤により堰きとめたもので、長さ約35m、幅約20m、深さ約50～80㎝を測る。築堤の中央部分では木材を埋め込んだ排水用の施設を確認した。また、池状遺構からは舟形木製品や斎串等の祭祀具が出土しており、この場所で何らかの祭祀が行われていたと考えられる（現在、調査中）。

1．調査地点の位置（129　桑原　2782　1：8000）

2．第20次調査地点全景（北から）



3．SX001排水施設（北から）

0027 井尻B遺跡群第17次調査B・C・D・E区（IGB-17）

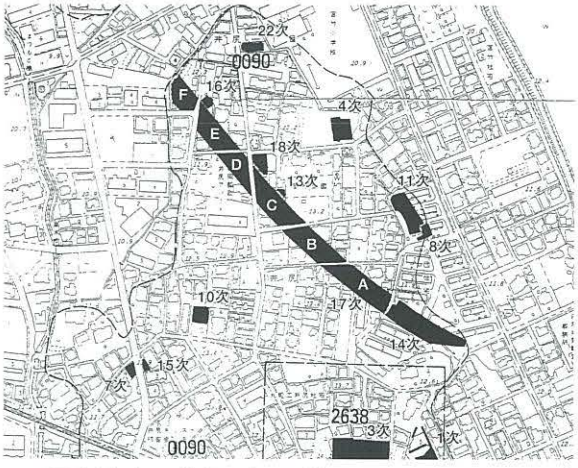
所在地	南区井尻１丁目地内	調査面積	3,250㎡
調査原因	道路建設（御供所井尻線）	担当者	横山邦継　屋山 洋
調査期間	2001.4.1～2002.3.31	処置	記録保存

位置と環境　井尻Ｂ遺跡群は福岡平野の中央部付近の那珂川と御笠川に挟まれた春日丘陵から博多湾に向かって北に延びる台地上に位置する。平成13年度は南北に長い台地の中央部の発掘調査を行った。遺構検出面は鳥栖ロームで、各区とも表土直下で遺構面に達した。各区とも以前の住宅や桑畑による攪乱が著しい。

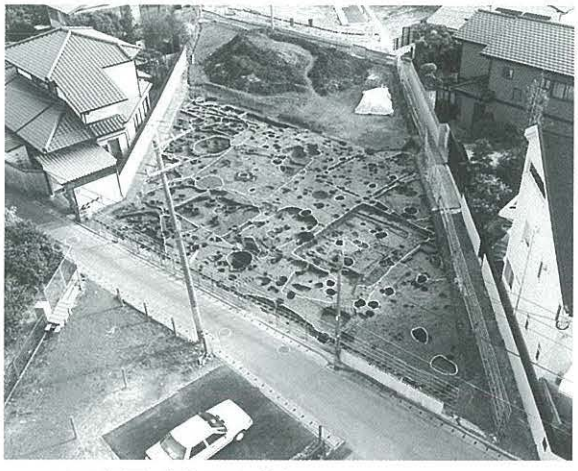
検出遺構　各区で弥生時代中期前半と後期後半～終末の遺構を確認した。中期の遺構は円形竪穴式住居、貯蔵穴とＥ区の甕棺墓で、各区の井戸のうち幾つかは中期に遡る可能性を持つ。貯蔵穴は方形を呈し、城ノ越式土器や無文土器が出土した。円形竪穴式住居は７軒出土し、中には径10ｍを測る大型住居も存在する。井戸は全部で22基確認した。古代寺院官衙遺構はＢ・Ｃ・Ｄ区で出土した。特にＣＤ区間で南北方向の道路とそれに伴うと考えられる溝が検出されており、その道路がどこに延びるかが遺構の性格を判断する上で重要な材料の一つとなると思われる。

出土遺物　約520箱の遺物が出土した。遺物の大部分は貯蔵穴及び井戸からの出土である。重要な遺物としては青銅器製作関連でＢ区から坩堝・銅戈鋳型・小銅鐸、Ｃ区から銅鏡と青銅が付着した壺片が出土し、ガラス製作関連としてはＢ・Ｃ区で勾玉鋳型が出土している。

まとめ　すでに江戸時代から瓦が多く出土することが判っていたが、調査例が少なかったため遺跡の内容はよくわからなかった。今回の道路新設に伴う発掘調査によって検出した弥生時代の中～後期集落・古代寺院官衙遺構ともに大規模で重要な遺構であることが判明してきた。調査報告書は平成14年度から平成17年度にかけて順次作成していく予定である。



1. 調査地点の位置（25 井尻 0090 1：8000）
白抜きは17次調査の調査区



2. Ｂ区全景（北西から）

3. Ｅ区全景（北西から）

0052 元岡・桑原遺跡群第25次調査（MOT-25）

所　在　地　西区大字元岡字別府
調査原因　大学移転に伴う造成工事
調査期間　2000.11.22～2001.11.30
調査面積　古墳７基
担　当　者　星野恵美・松浦一之介
処　　置　記録保存

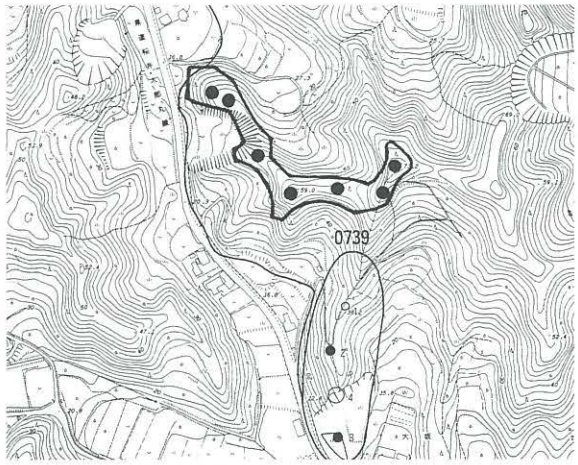
位置と環境　元岡・桑原遺跡群は玄界灘に突出する糸島半島の丘陵地帯に位置する。第25次調査（桑原古墳群A群）は標高36m～71mを測る尾根上に立地する。調査は２号墳から８号墳の円墳、計７基を行った。現況は山林である。

検出遺構　古墳群が立地する尾根は狭い谷と後世の削平を受け、非常に痩せている。古墳の遺存状況は悪く、石室は完存せず、墳丘も大半が流失する。２号墳、３号墳は竪穴系横口式石室をもち、ともに東側に周溝を巡らす。墳径は２号墳が9m、３号墳が13mを測る。２号墳の石室からは鍛冶工具である金鉗、金槌が床面から出土する。４号墳は墳径11mを測り、東側に周溝が巡る。横穴式石室を主体部にもち、３度の閉塞を確認した。閉塞石中からは鉄滓が１点出土する。５号墳は石室プランが一辺2mの正方形をなす横穴式石室である。床面敷石の遺存状況は良好で、まとまって須恵器、土師器、鉄製刀子、碧玉製切子玉が出土する。６号墳は北側と南側を大きく削平される。周溝は東側、西側で確認でき、墳径は10mを測る。西側周溝からは６世紀後半の須恵器坏身が出土する。７号墳は長さ2.4m、幅0.8mの細長い長方形プランの石室をもつ。墳丘流土中から５世紀後半の須恵器坏身、坏蓋のセットが出土する。８号墳は墳丘、石室は遺存しないが、墳丘造成面に置かれたと思われる須恵器の器台、滑石製紡錘車がまとまって出土する。

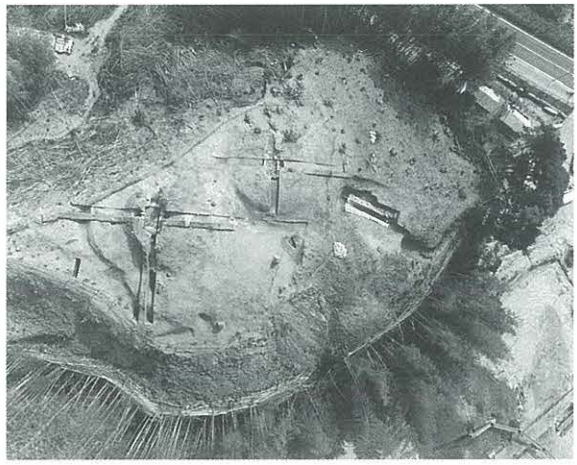
出土遺物　コンテナで16箱の遺物が出土した。

まとめ　尾根上に７基の円墳を調査したが、初葬時の遺物はほとんど出土せず、大半の遺物が６世紀代の追葬時のものと考えられる。時期変遷は石室プラン、出土遺物から７号墳→５号墳→２・３号墳、４・６号墳、８号墳と思われる。

調査報告書は次年度以降刊行の予定である。



1. 調査地点の位置（129 桑原 2604 1：8000）



2. ２・３号墳（東から）

3. ６・７号墳（南から）

0101 比恵遺跡群第74次調査（HIE－74）

所在地	博多区駅南６丁目18－2	調査面積	365㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	佐藤一郎
調査期間	2001.4.2～5.31	処置	記録保存

位置と環境　比恵遺跡群は福岡平野を北に流れる那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に立地する。本調査地は比恵遺跡群の南端、第18・68次調査地南に隣接する。遺構面は現地表下1.2m、耕作土直下の八女粘土上面で確認した。標高5.5～5.8mを測り、南側へ向かってやや低くなっている。

検出遺構　溝

SD03　調査区を東西に走る幅約１mの溝で、延長32m検出した。遺構の時期は6世紀中頃。

SD04　幅50cmの東西溝で、SD03の一部を切る。延長22m検出した。

井戸SE01　2m×3mの不整楕円形を呈し、深さは1.4mを測る。遺構の時期は12世紀前半とみられる。井戸枠等の施設はみられなかった。

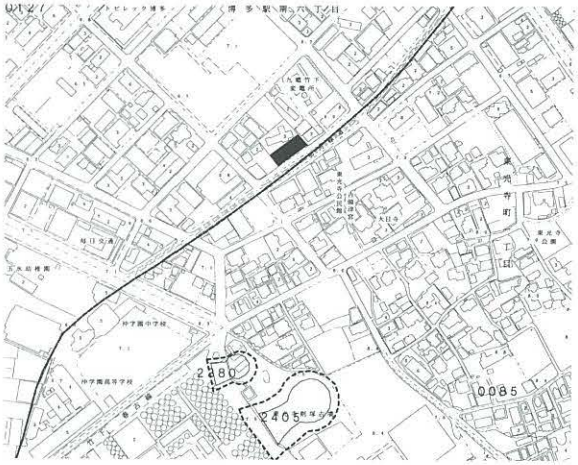
土坑、柱穴・ピット状遺構は多数検出した。直径50～80cmの土坑SK29～31の時期は6世紀中頃から後半にかけてのもので、その性格は不明。

SK24　径１mの隅丸方形の土坑に須恵器杯身が完形で底面より10㎝浮いた状態で出土した。土壙墓の可能性が考えられる。時期は６世紀後半。

SK37　4m×6mの不整楕円の土壙で、深さ60cmを測る。時期は４世紀前半とみられる。

柱穴は直径40cm前後もので、90個を越える。古いもので、弥生時代中期の２間×１間以上の掘立柱建物を１棟復元できた。新しいものでは６世紀後半。

SB01　直径40cm、深さ30㎝の円形の柱穴から構成される。調査区域内では4個の柱穴が検出され、柱間の距離はそれぞれ1.4mを測り、内２個の柱穴には柱根が残存していた。



1. 調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）

2. 調査区全景（南西から）

3. 掘立柱建物（南から）

0102 博多遺跡群第130次調査（HKT－130）

所　在　地　博多区御供所町３－１７
調査原因　専用住宅建築
調査期間　2001.4.9～4.27
調査面積　42㎡
担　当　者　長家伸、上角智希
処　　置　記録保存

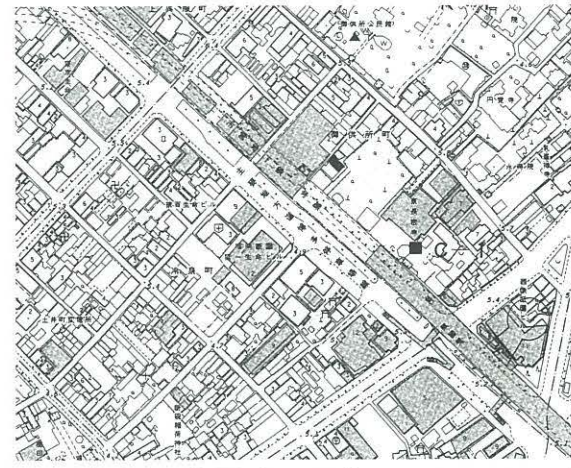
位置と環境　博多遺跡群は福岡平野を貫流する那珂川、御笠川によって挟まれた古砂丘上に立地する。本調査区は内陸側の砂丘「博多浜」のほぼ中央に位置し、中世から存続する著名な禅寺、聖福寺境内の前面の路地に位置する。ここ祇園町交差点周辺は博多遺跡群の中でもとくに遺構密度が高い場所である。北側隣地では62次調査が行われ、弥生時代から14世紀までの各時期の遺構が発見されている。

検出遺構　標高3.7Mの第1面、標高3.45Mで地山の淡黄色砂直上の第2面の２面にわけ調査を実施した。主な検出遺構は、中世前期の井戸３基、溝２条、土壙２４基である。井戸SE０２６では、井筒底から18枚の土師器小皿が整然と正置された状態で出土し、井戸祭祀に関わる遺物と考えられる。井戸SE０２４からは花弁文軒丸瓦を含む瓦類が多く出土した。12～13世紀の遺構がほとんどで、14世紀のものが少数存在する。また、弥生時代の竪穴住居1棟を検出した。

出土遺物　コンテナ２６箱の遺物が出土した。土師器、輸入陶磁器、瓦等が主で、古代の須恵器、弥生土器も少量存在する。墨書土器が数点見られる。

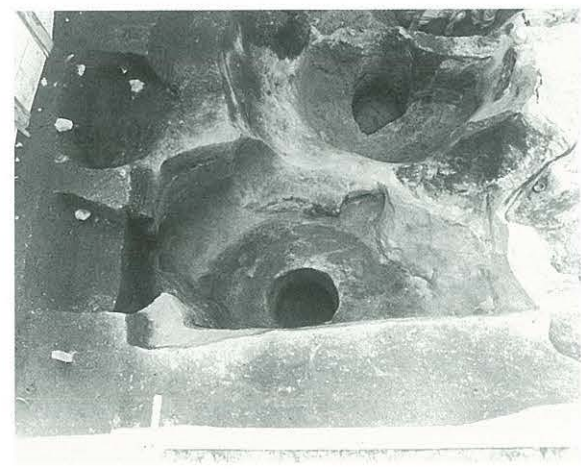
ま と め　中世の生活関連遺構が密に分布する。宋商人との関係が指摘されている花弁文軒丸瓦や擬宝珠形の陶器（仏具か蓋か）の出土は宋商人や寺院との関連を示すものか。本地点は弥生時代にはすでに生活の場となっており、古代の遺物も少量であるが出土している。

報告書は2002年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（49 天神 0121 1：8000）

2. 調査区全景（西から）



3. SE026（南から）

0103 有田遺跡群第201次調査（ART－201）

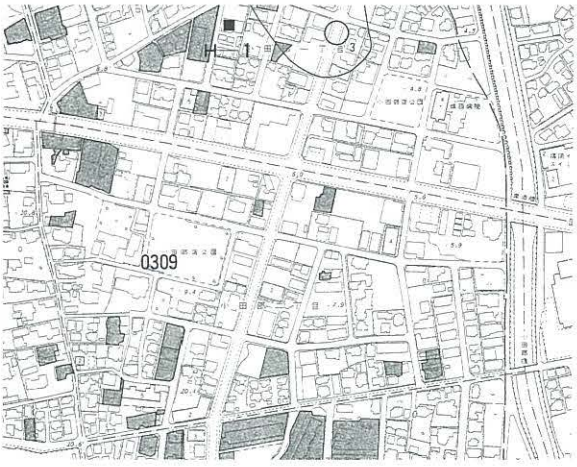
所在地	早良区小田部１丁目16－２	調査面積	105.6㎡
調査原因	専用住宅建築	担当者	藏冨士寛
調査期間	2001.４.9～4.11	処置	記録保存

位置と環境　有田遺跡は早良平野のほぼ中央、室見川東岸に位置する有田台地上にある。当調査地点は第161次調査地点の北側、第171次調査地点の西側に位置する。遺構は表土下30cmほどの鳥栖ローム上にて検出した。遺構面は東側に向かって、約１ｍの傾斜をみせる。

検出遺構　ピット（時期不明）

出土遺物　土師器等がごくわずかに出土。

まとめ　遺構としてはピットのみを検出した。「窪み」の大半は木根痕であり、確実に遺構であると判断できるものは数少ない。ピットに伴う遺物は無く、遺構の所属時期は不明。



1．調査地点の位置（82 原 0309 1：8000）

2．調査区東半部（西から）

3．調査区東半部（西から）

0104 箱崎遺跡第25次調査（HKZ-25）

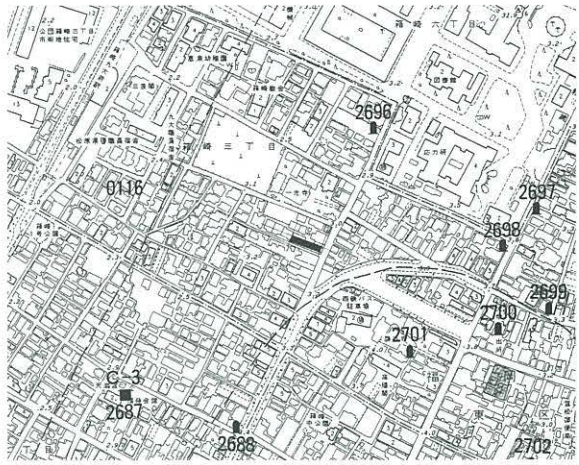
所在地	東区箱崎３丁目地内	調査面積	87㎡
調査原因	道路建設	担当者	杉山富雄
調査期間	2001.4.16～4.26	処置	記録保存

位置と環境　箱崎遺跡群の北端縁部に位置する。遺跡は低い砂丘上に立地する。調査地点はそれの海側の斜面にかかる部位にあり、現況は、ほぼ平坦で標高3.2m、調査面は標高2.1mほどの位置にある。

検出遺構　地山砂層上で遺構を検出した。土層断面の観察から、遺構面は１面と見える。遺構は、調査区南半部に集中し、北半部は近世の攪乱が散漫に分布するのみである。円形・方形の土壙の他に柱穴、小穴を検出した。土壙には礫の詰まったもの、柱穴には根石を据えるものがある。

出土遺物　ごく少量の陶磁器、糸切底の土師器が、遺構覆土中から散漫に出土した。細片の資料が多く、総量でコンテナ１箱ほどの分量である。

まとめ　調査区内では、海側に向かって遺構が急にまばらになる。この位置が箱崎遺跡の北辺を限る位置となり、遺跡範囲が北西側に拡大することとなるが、最終的な判断は道路本体部の調査を俟ちたい。



1．調査地点の位置（34　箱崎　2639　1：8000）

2．１区（西から）

3．２区（西から）

0105 樋井川Ｂ遺跡第1次調査（HIB－１）

所在地	福岡市南区桧原１丁目30番ほか	調査面積	2,300㎡
調査原因	外環状線道路建設 （国土交通省福岡国道工事事務所）	担当者	常松幹雄・池田祐司
		処置	記録保存
調査期間	2001.5.7～11.9		

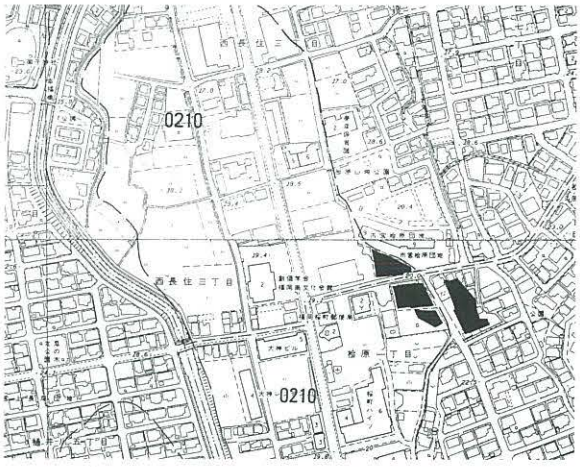
位置と環境　樋井川Ｂ遺跡は、樋井川の東岸、片縄山から北へ派生する低丘陵と東油山から北へのびる丘陵にはさまれた狭長な平野の東南端に位置する。旧況は田で、遺構検出面の標高は17mから18mをはかる。昭和30年頃の航空写真によると調査地の南側には低平な丘陵が位置している。道路予定地は、丘陵部と丘陵が東に向かって傾斜する谷部に相当する。

検出遺構　検出された遺構は、住居跡11基と土坑、柱穴群などである。住居跡の時期はすべて古墳時代に属し、このなかで２基は出土した須恵器の型式から６世紀前半代に比定される。その他は古墳時代前期後葉に比定される。

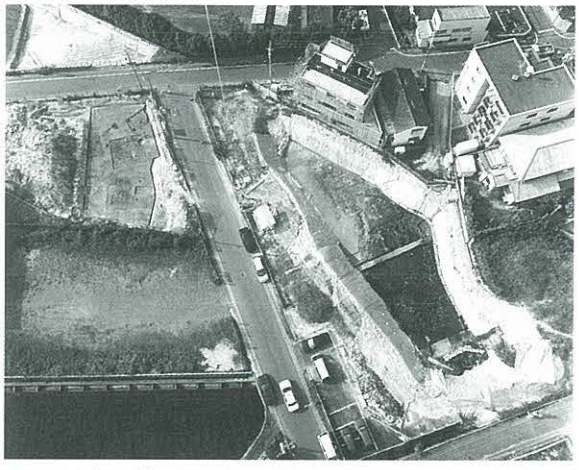
出土遺物　谷部にむかう斜面では古墳時代前期後葉の土師器が検出された。土器の多くは、西側の集落から流れ込んだ感じをうける。出土遺物には甕・壷・高杯・鉢のほか土製勾玉やミニチュア土器のような祭祀関係の遺物が含まれている。腐植土層には自然木のほか、三又鍬・大足・横槌・竪杵などの木器や建築部材などがみられる。谷の底に近い砂層からは、条痕文のある土器や石匙など縄文時代の遺物が検出された。弥生時代の遺物としては石包丁２点が出土した。

まとめ　今回の調査では従来知られていなかった古墳時代の集落と谷部の状況が明らかとなった。集落が形成された古墳時代前期後半から後期にかけては、鉄器の普及にともなって生産力が増大した技術革新の時代といわれている。墓制では小平野にも前方後円墳が造営されるようになり主体部に横穴式石室が導入される時期に相当する。今回の調査は集落を主体とする生活遺構の断片であり墓域との関係など明らかでない部分も多い。今後平野内における集落の位置づけや出土遺物から検討をすすめ様相を解明したい。

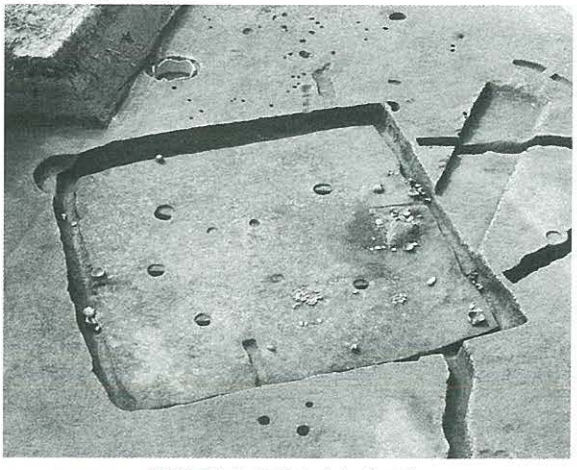
報告書は2003年刊行予定である。



1．調査地点の位置（63　長尾　0210　1：8000）



2．調査区全景（南から）



3．SC18　遺構検出状況（東より）

0106 立花寺遺跡第６次調査（RGG－６）

所 在 地 博多区立花寺２丁目地内　　**調査面積** 840㎡
調査原因 農園建設　　**担 当 者** 長家伸
調査期間 2001.５.17～10.20　　**処　　置** 記録保存

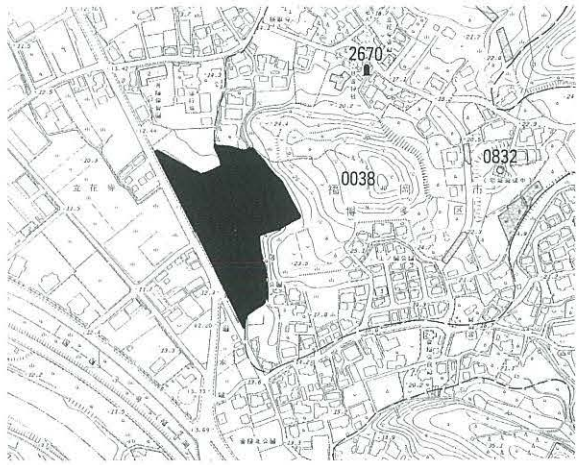
位置と環境　立花寺遺跡は福岡平野の東側を画する月隈丘陵の西側斜面上に立地する。本遺跡内ではこれまでの調査で古代を中心とした建物群や初期貿易陶磁器などが確認されている。特に２次調査では官衙的様相を示す遺構・遺物群が検出されている。

検出遺構　古墳時代～中世前半の遺構を中心に確認している。検出遺構は掘立柱建物、井戸、溝、土坑、鍛冶関連遺構、ピット等である。遺構は斜面上に重層的に形成されており、調査区北端部分では６面の遺構面を確認した。１・２面が中世に位置付けられ、掘立柱建物・鍛冶関連遺構等を検出している。鍛冶関連遺構は鍛冶炉・排滓土坑からなり、鍛冶滓・粒状滓・鍛造剥片が出土している。３～５面が古代以前に位置付けられる。この時期は本調査で最も遺構・遺物が確認される時期であり大型の掘立柱建物が３棟確認されている。６面が地山面となるがここでは遺構は希薄である。

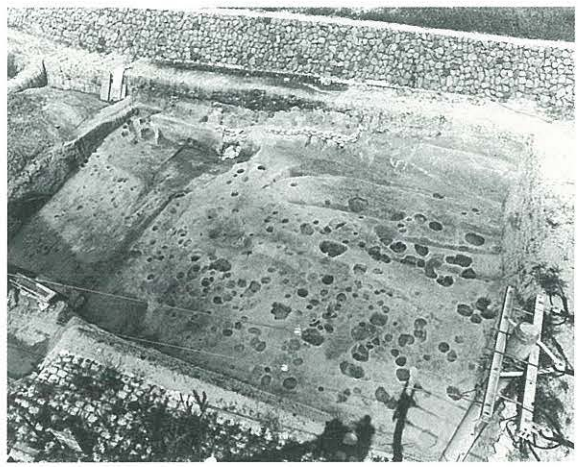
出土遺物　遺物はコンテナ67箱分出土した。時期的には弥生時代中期～中世前半代の遺物がある。前述したように古代の遺物が主体を占めている。弥生時代は遺構の確認はできなかったが、包含層中から遺物が出土している。また新羅土器の破片が数点出土しており注目される。

ま と め　今回の調査では丘陵斜面上に展開する遺構群の様相の一端を確認した。中でも古代の掘立柱建物群は周辺の調査事例を含め検討する必要がある。

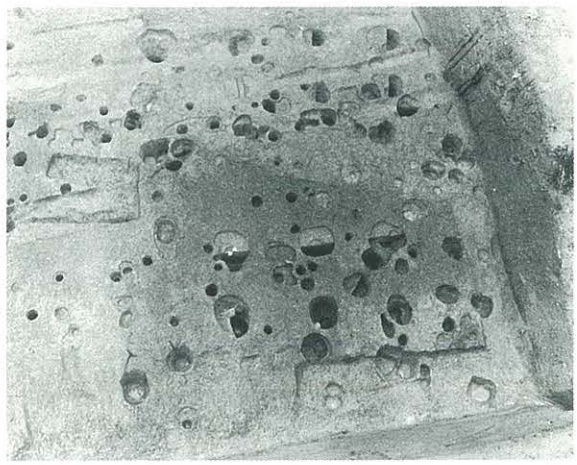
調査報告書は2002年度刊行予定である。



１．調査区の位置（11　金隈　0038　1：8000）



２．Ⅲ区全景（西から）



３．掘立柱建物群（西から）

0107 席田青木遺跡第５次調査（MAK-5）

所在地	博多区青木１丁目１番地内	調査面積	706㎡
調査原因	道路改良工事	担当者	井上繭子
調査期間	2001.5.17～8.17	処置	記録保存

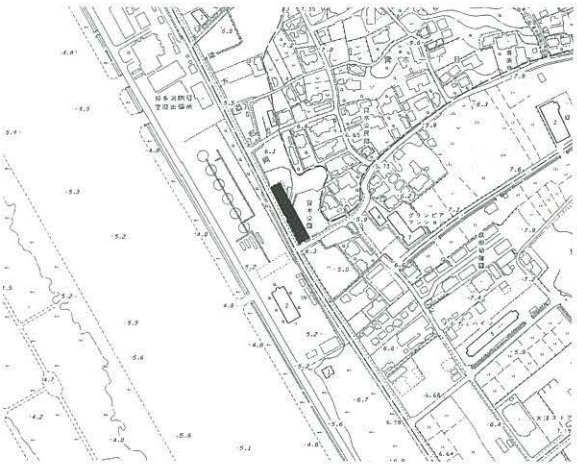
位置と環境　席田青木遺跡群は、月隈丘陵の北端近くにある派生した小丘陵上に立地する。本調査区は遺跡群をやや外れた南西部、福岡空港際の沖積地上に位置する。現耕作土より20～200㎝で遺構面である黄褐色粘質土が検出された。標高約3.9～5.6mである。遺構面は調査区の南南東から北北西へ傾斜し落ちる。

検出遺構　弥生時代中期の小児甕棺３基、弥生時代後期の溝（SD100）１条、中世の溝、ピット多数が検出された。小児甕棺は内１基（K1）が単棺、１基（K2）が合口でそれぞれ横位である。弥生時代後期の溝は、幅１m、深さ20～30㎝南西－北東方向に走る。また中世の溝は、第４次調査地点で検出された中世の溝と何らかの関連があると推定される。

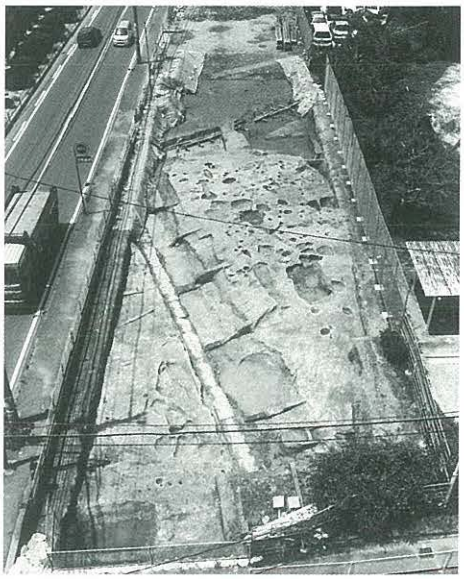
出土遺物　弥生時代後期の溝からは、弥生時代中～後期の土器が多数出土した。甕棺片も含まれている。小児甕棺（K1、K2）はいずれも上半部が削平されていた。また、中世の溝、ピットからは東播系のすり鉢や鎬蓮弁文の青磁片が出土している。

まとめ　本調査区の南側に位置する第４次調査地点では、弥生時代後期、中世の遺構・遺物が検出されている。今回の調査でもそれらに続く遺構が検出され、席田青木遺跡群がさらに広がりを示すことが明らかになった。

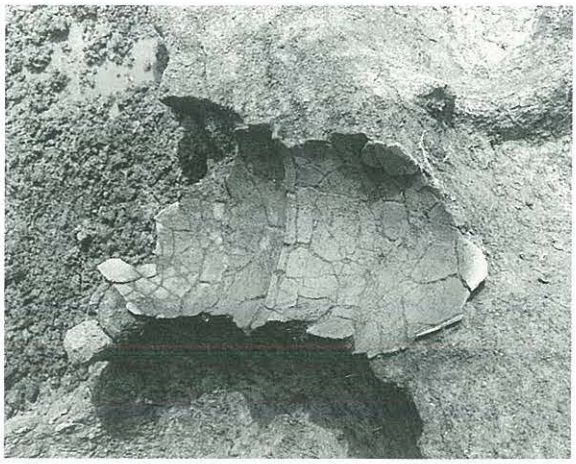
報告書は2002年度に刊行予定である。



１．調査区の位置（22 上臼井 0080 1：8000）



２．調査区全景（南から）



３．甕棺２（東から）

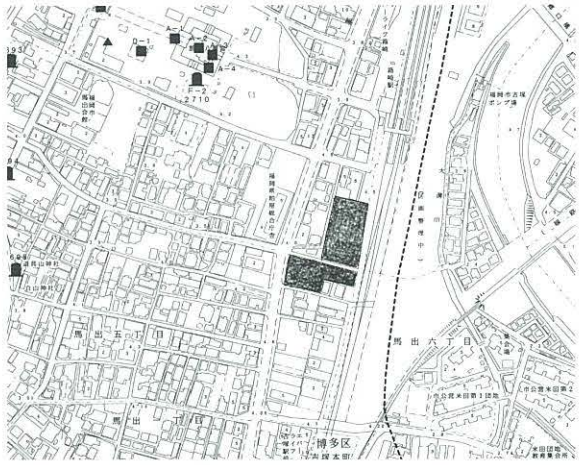
0108 箱崎遺跡第26次調査（HKZ－26）7･8区

所在地	博多区箱崎１丁目１番他	調査面積	７区1296㎡・８区1859㎡
調査原因	土地区画整理事業	担当者	佐藤　一郎
調査期間	2001.6.1～2002.3.31	処置	記録保存

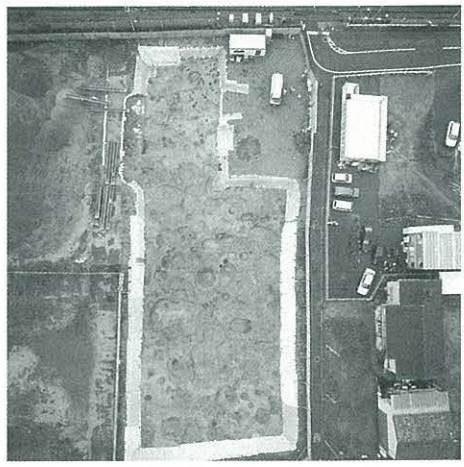
位置と環境　調査地は箱崎遺跡群の南東部、筥崎八幡宮の南東250mに位置する。1987年福岡県教育委員会調査の第２次調査地の東40mに位置する。遺構面は現地表下、1～1.5mで表土（撹乱層）直下の砂層上面で確認され。東側へ高くなっている。

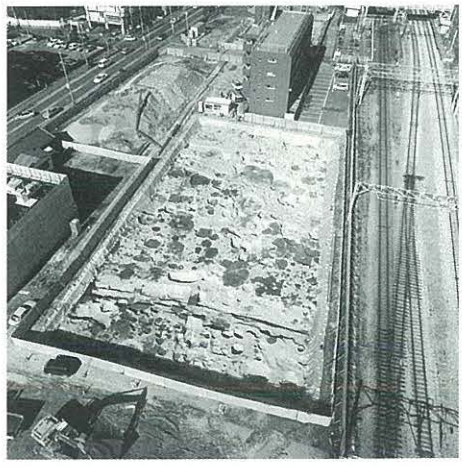
検出遺構　検出した遺構は10世紀前半から15世紀後半にかけての井戸・土坑・柱穴・ピット状遺構の他、弥生時代終末の甕棺墓２基である。土坑の中、土師器を大量に廃棄したものが数基検出されている。井戸は直径3～4m、深さ2.1～2.5mを測る。底部中央に直径60cm前後の桶側（11世紀後半以降）、刳り抜きの木枠（10世紀後半～11世紀前半）を据えている。柱列や方形の土坑が取る方位は11世紀後半以降のものが現況の地割りと同じくするのに対し、10世紀後半～11世紀前半のそれは真北に取っている。

出土遺物　各遺構出土の遺物はコンテナ500箱を超え、その中で平安時代中期の遺物群が注目される。土師器椀・杯・小皿、黒色土器椀、瓦片の他、越州窯系青磁（図上完形）が多く出土している。「今昔物語」などに筥崎宮の神官が宋人と交渉を持ち膨大な利益を得ていたことが記されており、ほぼその時期の遺物である。11世紀後半以降は日宋貿易の要地として宋人居住の記事がみられる。その時期の遺構の密度、遺物の出土量、中国陶磁の比率は博多遺跡群の中心部に及ぶものではないが、畿内系の土器・瓦、豊前系の土師器、高麗青磁などは博多に匹敵もしくはそれ以上に高い頻度で出土している。



1．調査区の位置（34 箱崎 2639 1：8000）


2．箱崎26次７区空中写真（上が南東）


3．箱崎26次８区空中写真（南から）

0108 箱崎遺跡第26次調査（HKZ－26）6・9・10区

所 在 地　東区馬出５丁目・箱崎１丁目
調査原因　区画整理
調査期間　2001.4.1～2002.3.31
調査面積　2,100㎡
担 当 者　佐藤一郎・松浦一之介
処　　置　記録保存

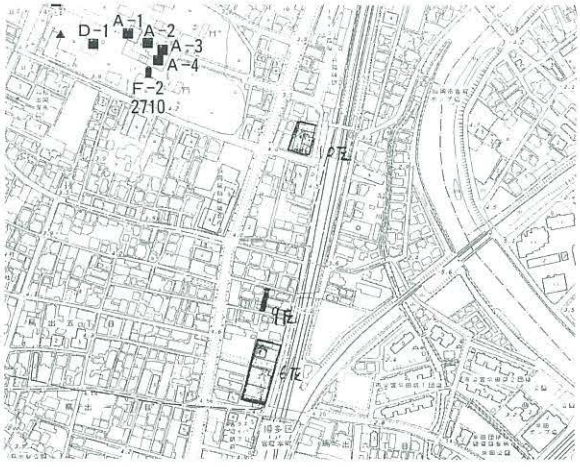
位置と環境　本調査区は、県道550号線（妙見通り）と鹿児島本線に挟まれた南北約300mの範囲を数地点に分けて発掘した。

検出遺構　遺構は、現地表下約１～1.6m付近の黄白色砂層（地山）上で検出した。地山面の標高は約３～3.4mで、東側の宇美川に向かって落ちていく。検出された遺構は、古墳時代と古代以降の２時期に大別される。古墳時代の遺構としては、４世紀代の方形周溝墓・円形周溝墓や土師器甕を利用した墓を検出した。周溝墓の内部主体は削平されている。古代以降の遺構としては、井戸・土坑・溝・方形竪穴・墓・柱穴・石組遺構・性格不明な遺構などが多数確認された。これらの時期はおおむね11～13世紀に位置付けられる。

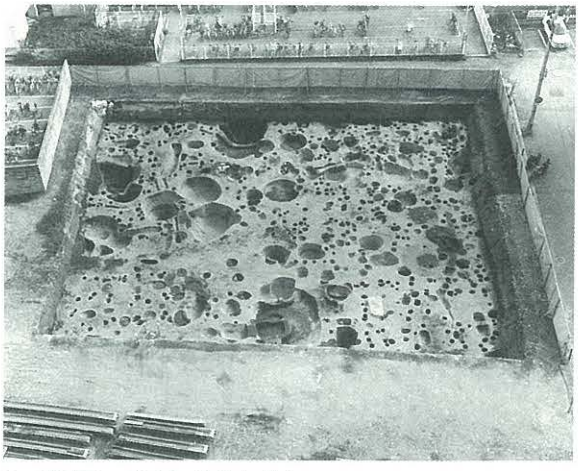
出土遺物　遺構及び包含層からコンテナケース約120箱分の遺物が出土している。古墳時代の遺物としては古式土師器の甕や小型丸底壺が、また古代、中世の遺物としては、土師器（皿・坏）・瓦器（碗）・施釉陶器（甕）・越州窯系青磁（碗）・龍泉窯系青磁（碗・皿）・同安窯系青磁（碗・皿）・白磁（碗・皿・四耳壺・水注）・高麗青磁（碗）・鉄製品（刀・刀子・釘）・石製品（碁石・石鍋）・瓦・人骨などが出土している。

ま と め　今回の調査は、筥崎宮の後背部を広範囲にわたって調査することができた。11世紀以降の遺構群は、現在の町割りの方位と同じ方向をとるものも見られ、筥崎宮創建以後、この地域が発展する様子を示しているものと考えられる。また、今後の検討課題であるが、豊富な舶載陶磁器が出土しており、同宮に関連する「筥崎津」と調査地点との関係が想起される。

報告書は2004年に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（34 箱崎 2639 1：8000）



2. 10区　全景（西から）

3. 10区　SK-018遺物出土状況（西から）

0109 福岡城跡第47次調査（FUE－47）
（鴻臚館跡第19次調査）

所 在 地 中央区城内1－1
調査原因 確認調査
調査期間 2001.5 .21～2002.2.15
調査面積 約2000㎡
担 当 者 折尾学・池崎譲二
処　　置 埋め戻し保存

位置と環境　国指定史跡福岡城跡内に所在した古代の迎賓館－鴻臚館跡の全容解明を目的とした確認調査である。平成13年度調査は、平和台野球場跡地の南半を対象とした第Ⅳ期調査の３年次となる。

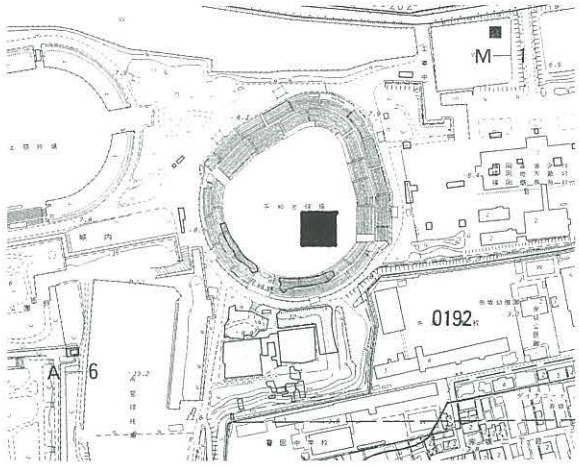
検出遺構　旧陸軍24連隊関係遺構、福岡城関係遺構、中世遺構の調査も行った。

平成13年度の調査は、前年度検出された第Ⅱ期（奈良時代）建物区画（布掘掘立柱列）の南東隅の確認を目標とした。調査区南端では平成11年度調査で確認された、鴻臚館施設を南北に区切る堀の延長を検出し、遺構はこの北側平坦面に所在する。目標とした第Ⅱ期建物区画は想定通りの位置で南列、東列が検出され、さらに東列北端ではこれに取り付く門の一部が検出された。規模、構造、軸線は堀南側第Ⅱ期建物区画と一致しており、奈良時代には堀を挟んで南北に、同一構造、規格の建物区画が併存していたことが明らかになった。第Ⅲ期（平安時代）礎石建物も堀北側で初めて確認され、史料に名が残る「鴻臚北館」の一部であることが明らかになった。建物柱間寸法、軸線は堀南側礎石建物と共通する。この他、第Ⅱ期建物以前の土地造成にともなう石垣も検出され、時代変遷とともに敷地の拡幅を行っている様子がうかがえる。

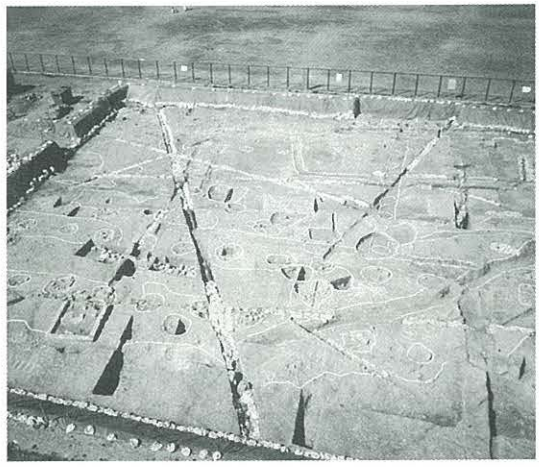
出土遺物　コンテナ約420箱分がある。大半は鴻臚館関係瓦であるが、輸入陶磁器等も多い。特筆すべき遺物に、国内初出土となる長沙窯青緑釉陶枕、鎮壇遺物と考えられる矢尻形金製品、水晶、ガラス小玉などがある。

ま と め　野球場建設時の削平で遺構の遺存が危ぶまれていたグランド部分で、堀北側の具体的な鴻臚館関連建物が見つかったことにより、鴻臚館跡全容解明に向け、大きな一歩となった。

報告書は2002年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（60 舞鶴 0193 1：8000）


2. 調査区全景（南から）

3. 第Ⅲ期礎石建物（北西から）

0110 元岡・桑原遺跡群第26次調査（MOT-26）

所在地	福岡市西区大字桑原字戸山472外	調査面積	5,487㎡
調査原因	九州大学移転用地造成工事	担当者	二宮忠司
調査期間	2001.4.6～11.30	処置	記録保存・一部保存

位置と環境　調査地点は事業地の東側、第20次調査の西側、戸山城の南側斜面に位置する。調査地は東西に延びる斜面(2,045㎡)Ⅰ区と南北の谷部(3,442㎡)Ⅱ区を調査対象とした。東西に延びる斜面には遺構の検出は認められなかった。南北の谷部には、奈良時代～弥生時代の遺構がほぼ全面に検出され、試掘トレンチの結果、約三面の遺構が重なっていることが判明した。

検出遺構　第20次調査の奈良時代遺構と同時期の遺構を検出する目的で調査を行った。その結果、第一面の奈良時代の遺構は、掘立柱建物が11棟、伏焼土壙2基、溝状遺構が1条、古墳時代中期の竪穴式住居址が2軒が検出された。段造成を３面持ち、特に１段目には石組遺構、横穴石室と思われる破壊された古墳１基を検出した。

掘立柱建物

幅約35m、奥行約70mの中に掘立柱建物11棟が検出された。１×１間が５棟、１×２間が３棟、２×２間が１棟、２×３間が２棟である。柱穴自体は50～80cmであるが、柱痕は20～30cm程度で大型のものはない。

伏焼土壙

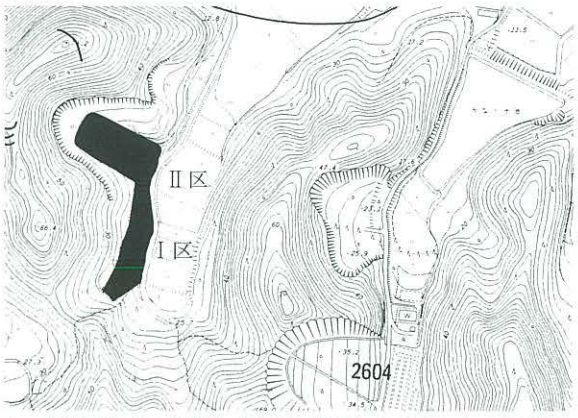
北西の奥部に１基検出した。壁面の全面は赤褐色に焼け堅く焼けている。大きさは長軸2.5m、短軸1.3m、深さ0.3mを測る。周辺部にも焼けた痕跡がある土壙が見られ炭焼き窯状の遺構と考えられる。覆土から須恵器の破片が出土している。東側端にも１基検出した。壁面はあまり焼けていない。大きさは長軸1.2m、短軸0.7m、深さ0.5mを測る。

石組状遺構

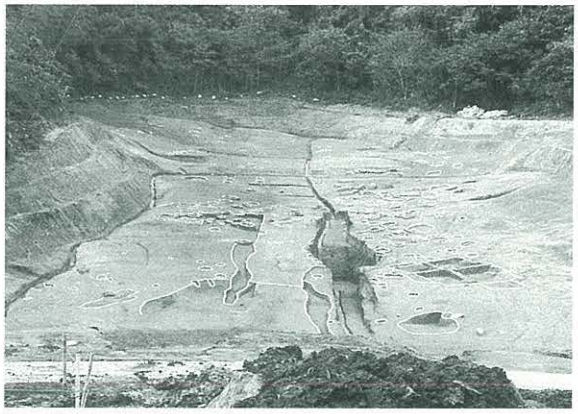
第１段目の段造成部分に幅５m、高さ0.7mで石組を行っている。他の部分は約50～80cmの段差があるが、緩やかな段造成であるのに対して石組部分はほぼ垂直である。石組部分から奈良時代の須恵器が出土していることから、掘立柱建物と同時期の遺構と考えられる。

古墳時代竪穴住居址

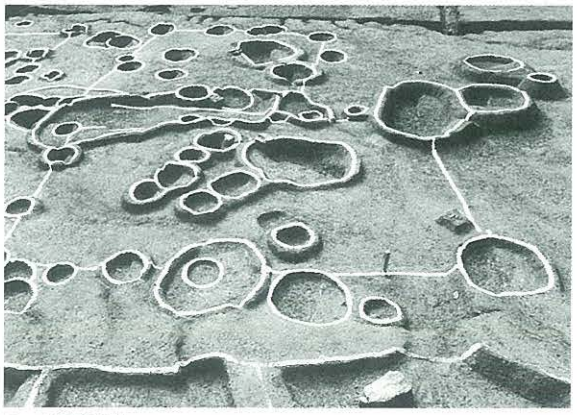
東側端の岩盤を削り竪穴式住居址３軒が検出した。２軒は切り合い関係が認められる。１軒の大きさは、約3.2mの方形と約3.5mの方形で、時期的には非常に近い時期であることが、出土遺物から窺える。



1. 調査地点の位置（129 桑原 2782　1：8000）



2. 全景（南東から）



3. SB05他

0111 大橋E遺跡第7次調査（OOE－7）

所在地	福岡市南区大橋4丁目16-18	調査面積	425,3㎡
調査原因	店舗付共同住宅建設	担当者	阿部泰之
調査期間	2001.6.1～7.10	処置	記録保存

位置と環境　本調査地は、那珂川の中流域に広がる沖積地に立地し、遺跡のほぼ中央部に位置する。

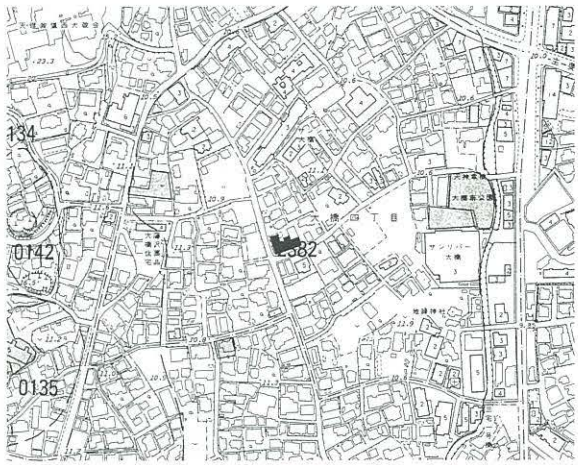
検出遺構　検出した遺構は、現地表面よりマイナス1.3m、明黄褐色シルト質土上にて井戸5基・溝6条・土坑7基・柱穴多数を検出した。時期は、14世紀後半～15世紀前半および17世紀初頭～前半である。井戸は、いずれも直径2m前後の円形で、現地表面からマイナス約3mで湧水する。土坑は、深さ50cm前後と浅く、調査地周辺は、大きく削平されていると思われる。溝は、幅1m・深さ50cm前後で、溝同士が調査区内で直角に切り合う。東西方向の溝は掘り直しが行われている状況がみられた。

出土遺物　出土遺物は、コンテナ15箱分である。土坑からは肥前系染付類・土師器・瓦質土器・瓦類、溝・井戸からは上記遺物のほか、龍泉窯系青磁類が出土した。特異なものとして土坑から馬を象ったと思われる土製品が出土している。

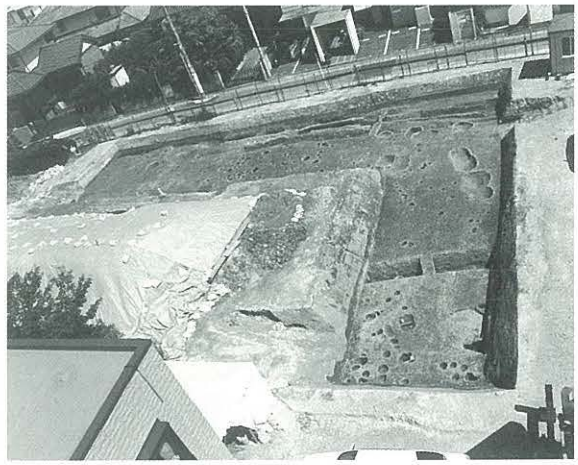
まとめ　今回の調査によって、調査地周辺では、中世段階には集落が形作られていたことが明らかになった。溝は、現在の生活道路と平行して掘られており、中世に作られた区画の痕跡が現在まで残存している可能性が高い。この溝の外側には、遺構が少ないため、溝で区画された屋敷地に、いくつかの掘立柱を用いた建物が建っていた状況が推定される。

今回の調査面積は狭く、遺構の広がりを捉えたのみで、中世から近世初頭にかけての集落の詳しい様相は不明である。周辺の調査を待ちたい。

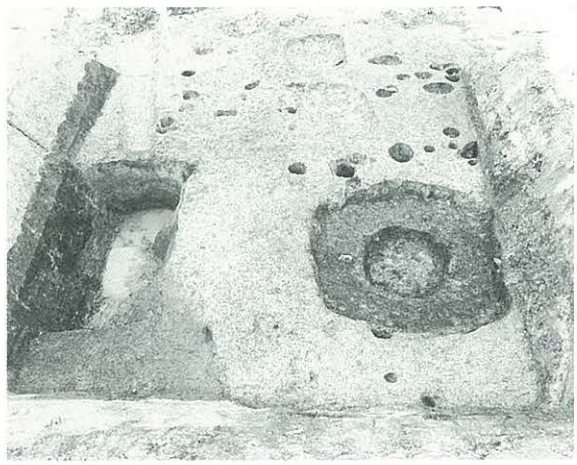
調査報告は2002年度刊行予定。



1. 調査地点の位置（39　三宅　2382　1：8000）



2. 調査区全景（北から）



3. 拡張区全景（北から）

0112 博多遺跡群第131次調査（HKT-131）

所在地	博多区奈良屋町84、85	調査面積	243,5㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	吉武　学
調査期間	2001.6.1～7.23	処置	記録保存

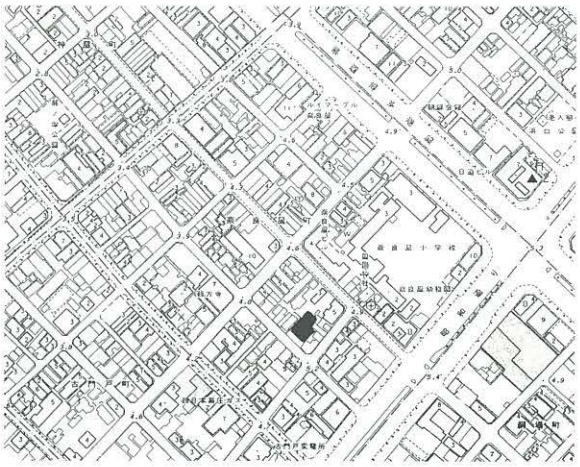
位置と環境　調査地点は博多遺跡群の北部、通称「息浜」の砂丘尾根線付近に位置する。調査前の現況は駐車場で、標高は海抜５m前後である。排土処理の関係から調査区を南北に二分し、北側の調査区から着手した。試掘の所見をもとに、２枚の遺構面を調査の対象として予定したが、各遺構面でほとんど時期差のないことが分かったため、南側では上層遺構面の調査を省略した。

検出遺構　中世にさかのぼる可能性のあるものは土坑３基のみであり、他には近世墓14、近世～近代の井戸４及び土坑多数がある。なかでも近世後期以降のものが大半を占め、かつ遺構の規模が大きいため、古い遺構は断片的に残っているのみであった。

出土遺物　近世人骨を含めてコンテナケース90箱を数える。土師器や国産陶磁器などの日常土器や、瓦、銅銭、中国より輸入された陶磁器などが出土した。この他、日露戦争を表現したとみられる大正時代の「いけどうろう」なども出土している。

まとめ　本調査では中世の遺構・遺物が極めて少なかった。これは調査地点が「息浜」の砂丘頂上部付近に位置しており、北風を直接受けるため居住には適さなかったことによるものと思われる。これは、ここが中世都市博多の北限にあたることを示しており、今回の調査成果としてあげることができよう。また、西側の博多遺跡群第68・108次調査で発見された防塁遺構の延長は今回の調査範囲では確認できなかった。しかしながら、防塁の用材を用いたと思われる近代の遺構などがあり、周辺部、特に南側の比較的近い位置に防塁が存在した可能性を示した。

報告書は2002年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（48 千代博多 0121 1:8000）

2. 北側調査区第２面全景（南西から）

3. 近世墓人骨出土状況（南東から）

0113 箱崎遺跡第27次調査（HKZ-27）

所 在 地 東区馬出5丁目地内
調査原因 道路建設
調査期間 2001.6.7～ 2002.1.31
調査面積 1,500㎡
担 当 者 中村啓太郎　上角智希
処　　置 記録保存

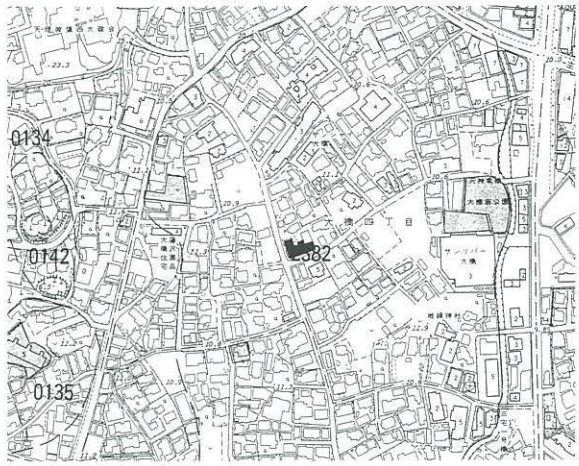
位置と環境　箱崎遺跡群は博多湾に面した古砂丘上に立地する。本調査区は遺跡群を東西に横断するように3地点に分かれ、標高2.5m～3.5mの地点に位置する。箱崎八幡宮は調査地点の北側約100mに位置する。

検出遺構　検出した遺構は井戸、溝、土壙墓(木棺墓)、土坑、柱穴等である。柱穴は現在のところ、建物にまとめきれていない。時期は12世紀初頭から近世に至る。土壙墓(木棺墓)は13世紀代を中心とする。井戸は各時代見られるが近世のものが多いようである。

出土遺物　出土遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、輸入陶磁器類(青磁、白磁)、国産陶器類、瓦、木棺墓に使用されたと思われる釘、古墳時代と考えられるガラス製小玉等、コンテナ150箱出土している。遺構は検出されていないが、古墳時代～古代前半期の土器類が見られることから、周囲を含め、該期の遺構が存在する可能性がある。また遺構に伴わないが、瓦経の細片が1点出土している。

ま と め　今回の調査では中世～近世の集落の一端が判明したもののその区画、配置等不明な点が多い。溝の方向や井戸の配置、2002年度以降の調査成果を合わせ検討することで集落の区画、配置等が明らかになるものと思われる。

報告書は2003年度以降発行予定である。



1. 調査地点の位置（34　吉塚　2639　1：8000）

2. A地点東側全景（南から）

3. C地点全景（西から）

0114 藤崎遺跡群第31次調査（FUA－13）

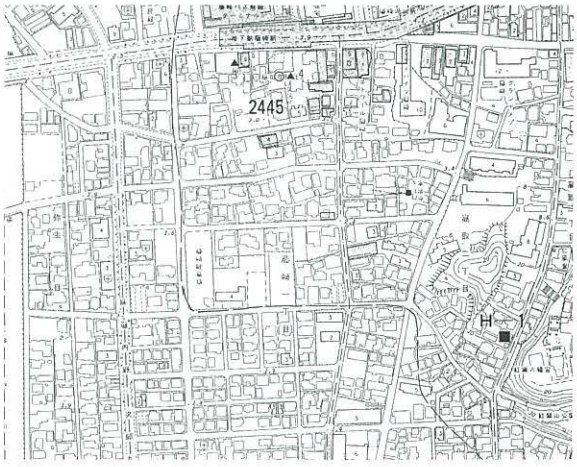
所在地	早良区高取２－285他	調査面積	16㎡
調査原因	寺院建築	担当者	藏冨士寛
調査期間	2001.5.30～6.4	処置	記録保存

位置と環境　藤崎遺跡は、藤崎・高取・百道地域に広がる標高５～６ｍの砂丘上に広がる遺跡であり、当調査地点は第24次調査地点の南東側に位置する。遺構面は褐色砂質土上で、表土下約１ｍの位置で検出した。

検出遺構　ピット１６（時期不明）

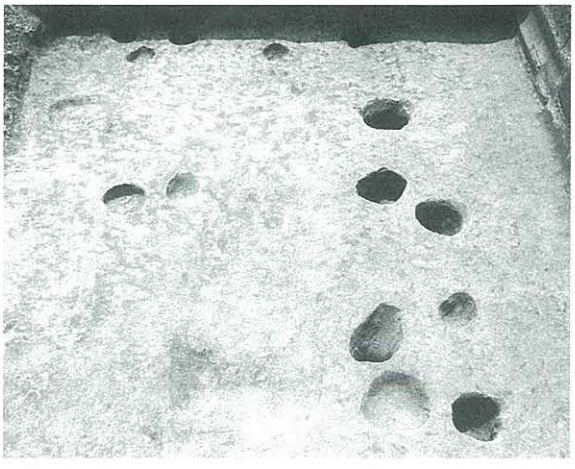
出土遺物　土師器等の細片が数点出土した。

まとめ　ピットの埋土は黒褐色土、灰褐色土の２つに分かれ、遺構は２時期にわたるものであったのだろう。ピットのいくつかは列状の配置をみせる。出土遺物はごくわずかで、遺構の時期特定には至らない。

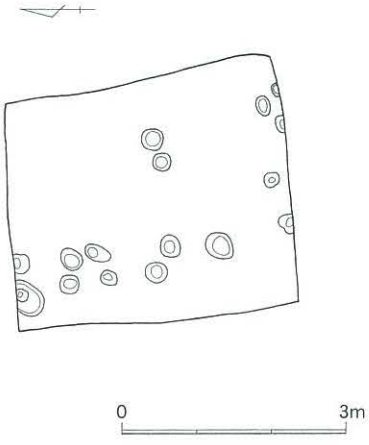


1．調査地点の位置（81　室見　0307　1：8000）

2．調査区全景（南から）



3．調査区全景（西から）



4．遺構配置図（１／100）

0115 下月隈C遺跡第７次調査（SHC-７）

所在地	博多区月隈４丁目	調査面積	12,000㎡
調査原因	調節池建設	担当者	山崎龍雄　荒牧宏行
調査期間	2001.4.13～2002.3.29	処置	記録保存

位置と環境　調査区は福岡空港の南側、御笠川右岸の沖積微高地上に広がる下月隈C遺跡るの中央部に位置する。現在の標高は９～10mを測る。調節池建設に伴う調査は今年度で４年目を数え、弥生時代から鎌倉時代にかけての各時代の遺構が調査されている。

今年度は調査地点が２ヶ所に分かれる。

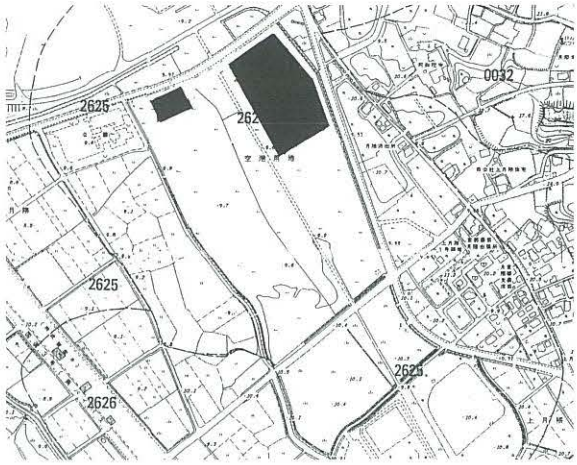
検出遺構　Ⅰ区は建設予定地の北東側で、主に３時期の遺構面を調査した。上から第１面、古代後期から中世前期の面では席田郡の条里方向に沿う大溝や堰と水田。第２面、古墳時代後期から古代前期の面では水田と溝・川、土壙。第3面、弥生時代中期から古墳時代前期の面では、複数の竪穴住居跡や掘立柱建物群、溝、土壙・柱穴群などを検出した。

Ⅱ区は西側第６次調査の北側である。第６次地点から続く川とその中に構築された堰や護岸杭列などを検出した。

出土遺物　弥生時代中期から中世前半にかけての時期の遺物が出土した。出土量は土器・陶器・磁器・石器と木製品・種子・獣骨などの自然遺物が総量でコンテナ461箱である。

特筆すべき遺物として、Ⅰ区では第２面の奈良時代から平安時代初めの川跡内の堰から「皇后宮職」と書かれた木簡が墨書土器などと共に出土し、また３面の弥生時代後期の溝からは青銅器の鋳型片が1点と銅鏃が2点出土した。Ⅱ区では堰や護岸杭列から人形や舟形木製祭祀具が出土している。

まとめ　第２面の古代の川跡から出土した「皇后宮職･･･」と書かれた木簡は全国でも出土例が少なく、出土場所も兵庫県の袴狭遺跡を除いて平城京跡など都城遺跡に限られる。この遺物から当時、当地が中央と何らかの関わりを持っていたことが考えられる。（表紙写真参照）



1. 調査地点の位置（10下月隈 2625 1:8000）

2. Ⅱ区の古代の川跡で検出した護岸遺構と堰

3. 掘立柱建物の柱穴礎板に使われていたネズミ返し

0116 井尻B遺跡第20次調査（IGB－20）

所在地	福岡市南区井尻1丁目283-1	調査面積	68.5㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	阿部　泰之
調査期間	2001.7.24～8.4	処置	記録保存

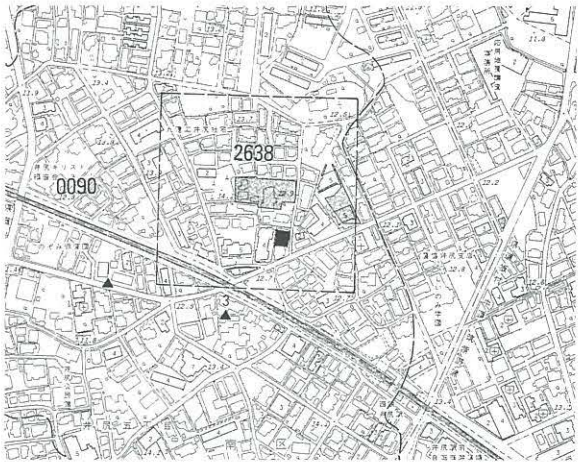
位置と環境　本調査区は那珂川の中流域右岸、須玖丘陵から高度を漸減させながら北西に伸びる洪積台地上に分布する、井尻B遺跡の南端に位置する。遺構は、標高約12m、ローム質土上にて検出される。

検出遺構　検出した遺構は、弥生時代中期の土坑1基・弥生時代後期の溝１条・古墳時代前期の井戸１基・掘立柱建物１棟・他、ピット多数で、遺構は、調査区北半部に集中する。

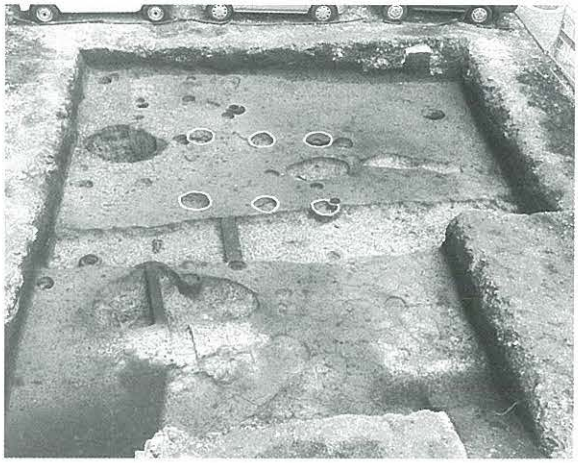
出土遺物　出土した遺物は、多くが弥生土器の細片である。遺構の埋土に含まれる形で土師器、溝から高坏、井戸の底面直上より、完形の甕１個体、遺構検出面より、黒曜石の剥片１点が出土している。特に、黒曜石はロームと黒色土層の境界から出土しており、旧石器の可能性が考えられる。

まとめ　遺構検出面のロームは、調査区北西隅が最も高く、東および南に向かって標高を下げている。調査区中央を東西に横断する溝を境に遺構が見られなくなることから、区画的な役割を果たしていたとも考えられる。掘立柱建物は、東西棟で、１間×２間の柱間を持ち、溝を切っていることから、溝より時期は下るものと思われる。建物からの出土遺物は、弥生土器の細片のみで詳細は不明であるが、弥生後期末から古墳時代初頭であろうか。また、特に調査区南側では、検出面上での遺構は浅い。調査区の壁面の土層観察からロームの上面には黒色土層が堆積していたことが確認でき、遺構は、ロームの上に堆積する黒色土層から掘り込まれていたと思われる。

調査報告は2004年度刊行予定。



1. 調査地点の位置（25 井尻 2638 1：8000）



2. 調査区全景（南から）

3. 井戸内置物出土状況（南から）

0117 有田遺跡群第202次調査（ART－202）

所在地	早良区南庄３丁目255の一部、256	調査面積	502㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	米倉秀紀
調査期間	2001.6.21～9.7	処置	記録保存

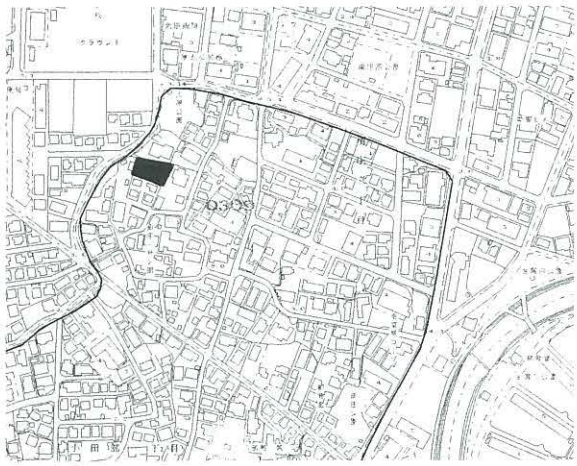
位置と環境　有田遺跡群は早良平野最北部近くに位置する独立の低台地にある。調査区は台地の北端近くに位置し、往事は博多湾が一望できた。調査区の周囲は古墳時代前期の墳墓が集中する地区で、円形周溝墓などが検出されている。

検出遺構　弥生時代中期の土坑２基、時期不明の土坑１基、中世等のピット群と古墳時代の墳墓。古墳時代の墳墓は、方形周溝墓１基と円形周溝墓２基である。方形周溝墓は一辺12～15mを測る大型のもので、主体部は箱式石棺である。溝の埋土の状況等から墳丘があったものと考えられる。主体部の石材はほとんど抜かれていたが、石棺内埋土上部から小型仿製鏡１面が出土した。円形周溝墓は部分的な検出で、１基からは刳貫式木棺が検出された。

出土遺物　土坑内から半完形の甕１個体と弥生土器片が、ピットから中世の土師器皿が出土した。墳墓に直接伴う遺物は土師器数点と鏡１点のみである。他に弥生土器片などコンテナ半分の量が出土した。また昭和初期のごみ捨て穴の中からは「昭和７年伊佐第二酒場」銘の徳利など、戦前の生活を物語る遺物がコンテナ５箱出土した。

まとめ　当地区周辺ではこれまで、円形周溝墓など古墳時代の墓が検出されており、主体部は木棺・石棺・土壙など様々な形態がある。また鏡が１面と装飾品などが出土している。今回初めて方形周溝墓が検出されたが、これまで最大級である。ただし、有田遺跡には消滅したものも含まれて３基の円墳があり、うち１基は30m近い墳丘を有していると思われる。すなわち有田遺跡群の古墳時代前期の大きく３段階の階梯が考えられ、様々な墳丘形態や主体部の型式をとっており、古墳時代の墳墓研究にとって重要な資料と言える。

報告書は2002年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（81　室見　0309　1：8000）

2．調査区全景（西から）

3．１号方形周溝墓主体部箱式石棺（北東から）

0118 箱崎遺跡第28次調査（HKZ - 28）

所 在 地　東区馬出5丁目24－8
調査原因　専用住宅建設
調査期間　2001.7.2～7.12
調査面積　41.3㎡
担 当 者　中村啓太郎
処　　置　記録保存

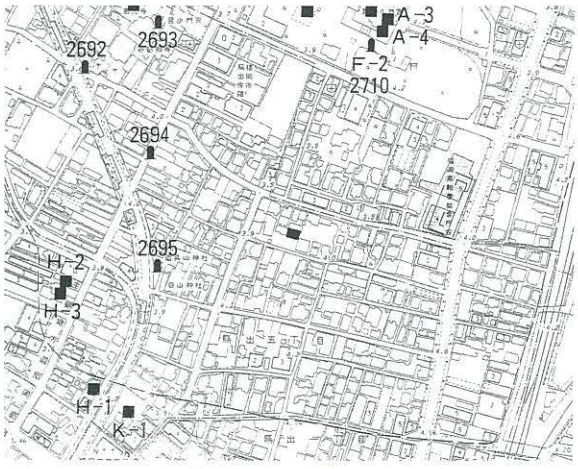
位置と環境　箱崎遺跡群は博多湾に面した砂丘上に立地し、本調査区は標高約3.5mの地点に位置する。箱崎八幡宮は調査地点の北側約100mに位置する。

検出遺構　検出した遺構は土坑、柱穴等である。柱穴は現在のところ、建物にまとめきれていない。時期は中世から近世に至る。

出土遺物　出土遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、輸入陶磁器類(青磁、白磁)、国産陶器類、瓦、コンテナ３箱出土している。

ま と め　今回の調査では中世～近世の集落の一端を検出したと考えられるが、調査面積の関係からその性格については不明な点が多い。今後行われる周辺の調査の成果と併せて検討したい。

報告書は2003年度以降発行予定である



1. 調査地点の位置（34 箱崎 2639 1：8000）

2. 調査区全景（北から）

3. 東壁土層（西から）

0119 三宅A遺跡第１次調査（MYA-１）

所在地 福岡市南区南大橋1丁目1176-２他
調査原因 共同住宅建設
調査期間 2001.7.11～7.23
調査面積 61.0㎡
担当者 阿部泰之
処置 記録保存

位置と環境　三宅A遺跡は、那珂川中流域右岸の沖積地・丘陵上に立地する。昭和52年に調査が行われた三宅廃寺が遺跡の範囲内に含まれ、今回の調査地は、それらの北方に伸びる丘陵上に位置する。

検出遺構　遺構は、造成土の直下、明黄褐色極細砂上にて検出した。遺構面の標高は53.4m～54mを測り、西から東に向かって緩やかに低くなる。検出遺構は、すべて墳墓と思われる土坑で21基検出した。時期は、出土遺物から幕末～近代の所産と思われ、完掘はせず遺構検出にとどめることとした。

SK01土坑（４）調査区南半部にて検出した。長径1.1m・短径0.9cmを測り、長軸を南北方向に向ける。備前の甕を口縁を上にして据え置き、蓋をした後に円礫を投入したものと思われる。

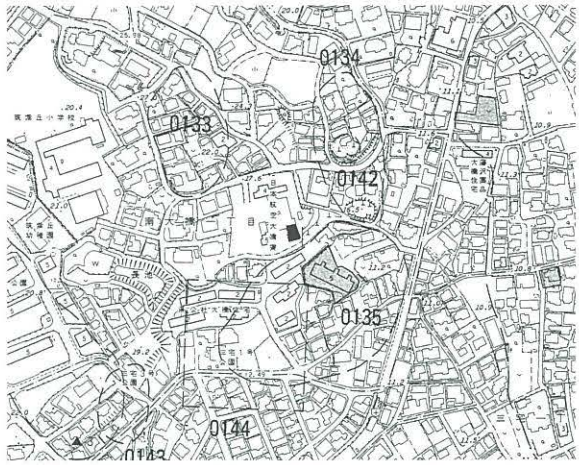
出土遺物　出土遺物（５）１は、染付の香炉である。いわゆる「線香立て」か。完形。口径7.6cm・器高4.6cmを測る。外面に文様を施文し、高台には3カ所切り欠きを入れる。内面下半は露胎。

SK02土坑（４）調査区南半部にて検出した。東側を別遺構に切られる。長径90cm以上・短径75cmを測る。径10～20cmの円礫が楕円形に投入され、SK01土坑と同じく、下部には甕が据えられていると思われる。

出土遺物（５）７は、青銅製釘である。頭部は半円形をなし、器長3.3cm・頭部径4.5mm・身部幅1.5mmを測る。

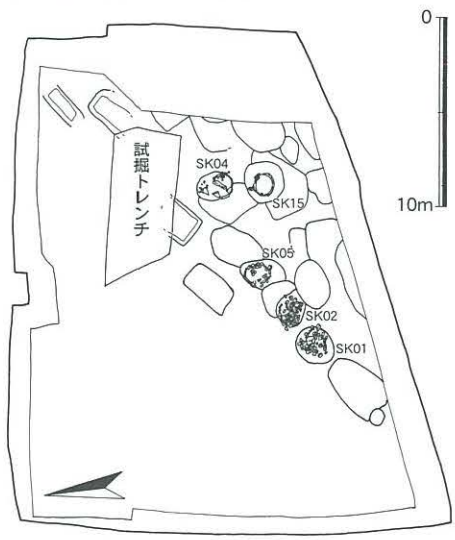
SK04土坑（４）調査区北半にて検出した。長径1.5m・短径1.0mを測る。備前の甕を口縁を上にして据え置き、粘板岩と思われる岩石を粗割りし、蓋とする。

出土遺物（５）３は、唐津焼の碗である。口縁部を欠失し、底径4.8cmを測る。畳付部の釉を掻き取る以外は全面に暗茶褐色の釉が施釉される。８は、硯である。黒色を呈する石材で作られ、長辺7.5cm・短辺4.2cmを測る。海部



1．調査地点の位置（39 三宅 0135 1：8000）

2．調査区全景（東より）



3．調査区全体図（１／400）

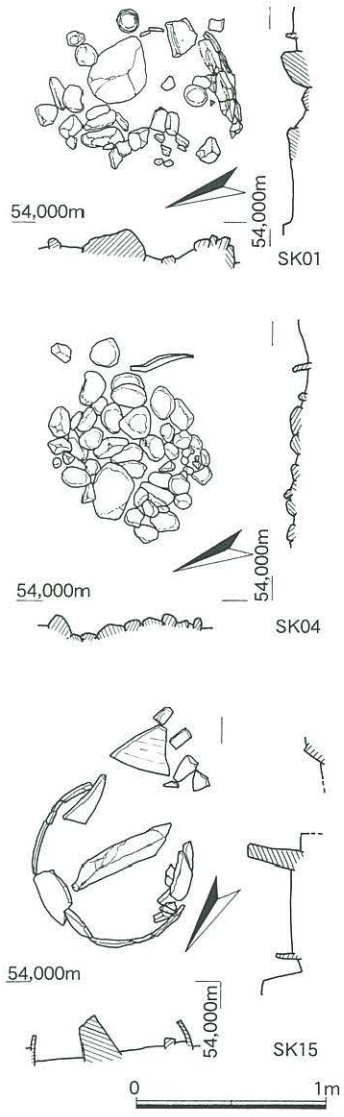
に黒色顔料が付着し、陸部との境界付近に横方向の擦痕が観察される。４は、備前焼の甕である。口縁部のみを取り上げた。暗褐色の釉が施釉され、口縁を内側に折り曲げ、外面に沈線が１条観察される。

SK15（４）調査区東半部にて検出した。直径１mの不整な円形の平面プランを呈する。未完掘のため全容は不明であるが、備前の甕を口縁を上にして据え置き、蓋をしたものと思われる。

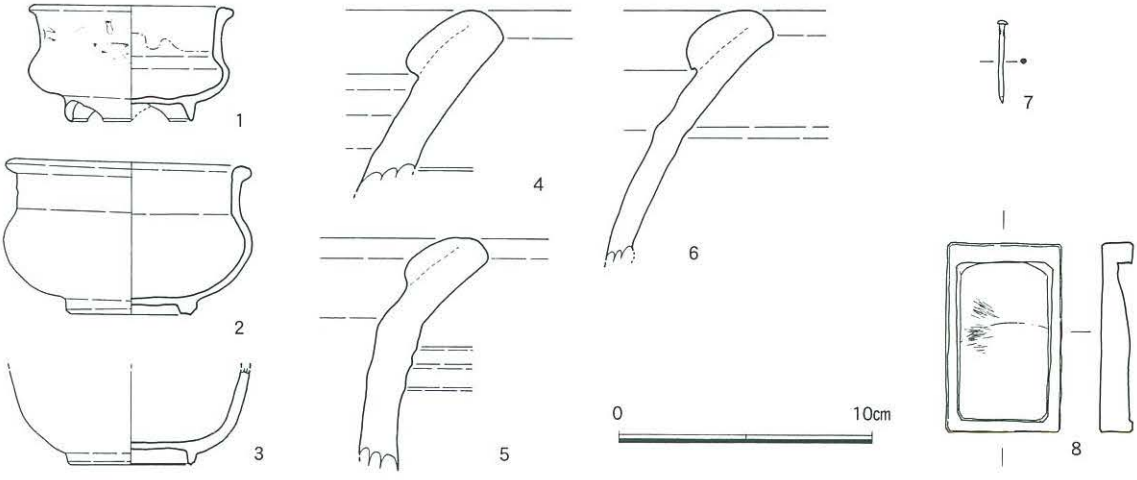
出土遺物（５）２は、土師質土器の香炉である。ほぼ完形で出土した。口径9.0cm・器高6.2cmを測る。薄手で焼成がよく胎土は精良堅緻。口縁部付近に直径1mm程度の黒斑が観察できる。５は、備前焼の甕である。口縁部のみ取り上げた。暗褐色の釉が施釉され、口縁を内側に折り曲げ、外面に沈線が3条観察される。

まとめ

調査地は、東側と西側を、江戸～現代に至る墓地に挟まれていたため、当初から墳墓の存在が予想されていたが、今回の調査によって、南大橋周辺の、江戸時代から近代にかけての埋葬のあり方を確認することができた。主に集落に近い丘陵上に墓地を設定し、ある程度方位を意識して墓を作っていったものと思われる。棺に使われている甕の外形がそれぞれ酷似しているため、時間をおかずにいくつもの墓が作られたと考えられる。本調査区周辺には、現在も墓地が多いことから、この調査区が位置する丘陵は、当時の大規模な墓地であったことが推定されよう。



４．SK01.02.15実測図（１／40）



５．出土遺物実測図（１／３）

0120 博多遺跡群第132次調査（HKT-132）

所在地	福岡市博多区上呉服町480,481,482	調査面積	184㎡
調査原因	店舗付専用住宅建築	担当者	杉山富雄
調査期間	2001.7.26～9.13	処置	記録保存

位置と環境　通称博多浜の北縁部、旧称「富士見坂」という傾斜地に立地する。現況地形が、調査地内の地境で1.5m程の段を成す。

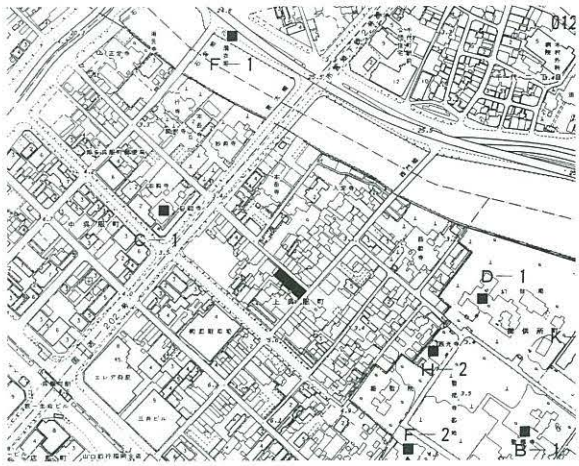
検出遺構　調査の結果により、遺跡は、基盤である河成の粗砂層上に盛土造成された地盤の上に営まれたものであることを確認した。盛土は、おそらく砂丘奥部の高まりを切り崩した土砂を利用したもので、北に向かい、1.5mほどの厚さに埋め立てていったことが土層の状況からわかる。

盛土層を掘り込む遺構面は１面で、井戸４基の他に土壙、柱穴等がみられる。井戸側は桶組である。柱穴の配置から建物を復原することはできなかった。

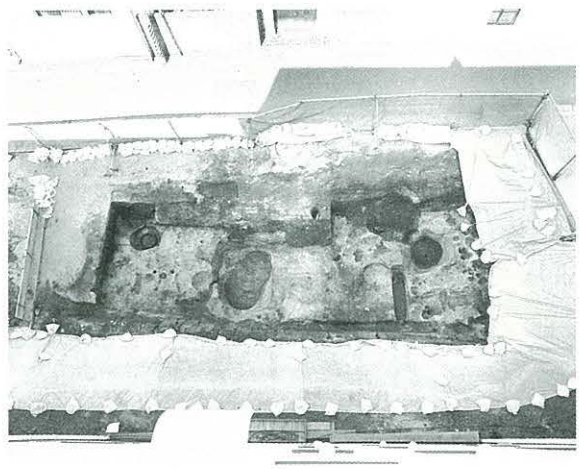
出土遺物　盛土層からは弥生土器、土師器、須恵器、龍泉窯系青磁、白磁(皿)を主とする輸入陶磁器等、弥生時代以降、鎌倉時代に至る各時代の遺物が出土する。最も量の多いのは糸切底の土師器坏・皿である。遺構からは、龍泉窯系青磁、白磁皿を主とした輸入陶磁器及び、糸切底土師器の坏・皿が出土しているが、それに続く時期の遺物は皆無であり、近世以降の攪乱がみられるのみである。このことから、本地点では、盛土造成直後に居住が行われ、その後、集落として継続することが無かったのではないかと思われる。遺物は、陶磁器、中世土師器などコンテナ39箱が出土した。

まとめ　博多浜北辺部について、今回調査により、本地点で示されるような周縁部の地形が、中世に行われた人工的な改変の結果をよく残すものであることを確認したことは、今後の周辺地域の同様な地形の成立について、示唆を与えてくれるものとなった。

調査報告書は2003年度刊行予定。



1. 調査地点の位置（48 天神 0121 1：8000）


2. １区の遺構（西から）

3. ２区の遺構（西から）

0121 比恵遺跡群第75次調査（HIE-75）

所在地 博多区博多駅南５丁目３番（春住小学校運動場内）
調査原因 範囲確認
調査期間 2001.8.22～8.30
調査面積 167㎡
担当者 吉武 学
処置 試掘後埋め戻し

位置と環境 西側に隣接する比恵遺跡群第72次調査で確認した官衙遺構の範囲確認と、周辺の旧地形復元を目的として実施した試掘調査である。調査地は那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵の北西端部に位置し、北方より谷が入り込む部分に相当する。現地表面の標高は5.7～5.8m。

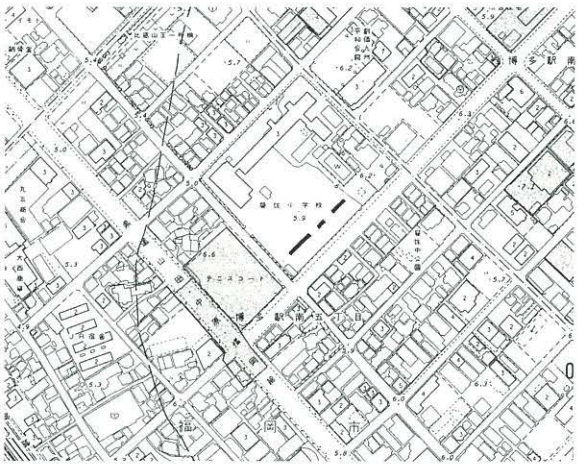
検出遺構・出土遺物 運動場を横断する形で試掘トレンチを３ヵ所設定し、西より１～３トレンチとした。

１トレンチは、西端から2.7mの位置に沖積作用によって生じた比高差1.05mの段丘崖があり、急激に東へ落ちる。谷底は緩やかに東へくだり、この上に汚泥が堆積する。遺物は全く出土せず、３つのトレンチのうちでは最も早い段階に埋没したと考えられる。

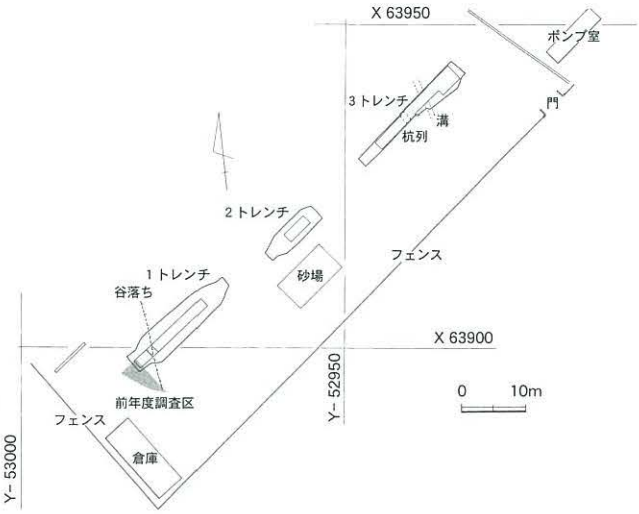
２トレンチも谷の内部にあたることを示し、土層は東へゆるく下る。一部シルト質へと土質が変化しているが、やはり水流がよどむなかで埋没したとみられる。弥生時代中期の土器片と石鎌片が出土したが、埋没時期は不明である。

３トレンチも谷の内部に含まれるが、１・２トレンチとは異なり砂層が厚く堆積しており、河川内であったことを示している。地表下2.4mまで掘削したが、湧水のため掘り下げを断念した。砂層の上位より近世染付片が出土した。

まとめ 春住小学校運動場南半部では、西端から15mで地形が落ちて谷部となることが判明した。落ち際はほぼ磁北方向に伸び（谷側に突き出）ており、１・２トレンチがよどみ、３トレンチが古河川内であった状況を示すことからみて、下流側にせり出した丘陵によってよどみが生じて西側から順次埋没し、近世のある時期には一帯が水田化したようである。以上のような成果が得られた反面、官衙遺構と直接結びつくような時期の遺物等は全く得ることができなかった。



1. 調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）



2. トレンチ位置図（1／1200）

3. 1トレンチ全景（東から）

0122 那珂遺跡群第80次調査（NAK-80）

所在地	博多区那珂１丁目681-1	調査面積	52.5㎡
調査原因	専用住宅建築	担当者	吉武　学
調査期間	2001.7.31～8.16	処置	記録保存

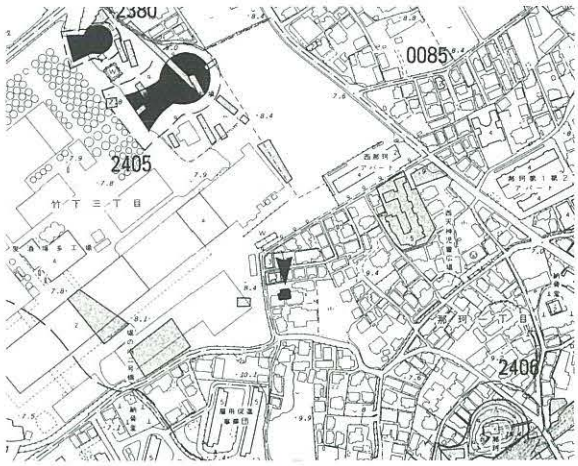
位置と環境　那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵上に立地する那珂遺跡群の西端部付近に位置し、南東200mに那珂八幡古墳、北西200mに剣塚古墳を遠望する場所にある。北側に第３次調査地点が隣接するほか、アサヒビール工場内の調査など、周辺には過去に調査が行われた箇所が多い。調査前の現況は駐車場であり、地表面の標高は海抜9.4m前後である。

検出遺構　地表から遺構検出面までの深さは約0.3mと浅く、基盤土は鳥栖ロームで、小児用甕棺が輪切りにされた状態で出土したことから、0.5m前後の削平を受けたものと推定される。

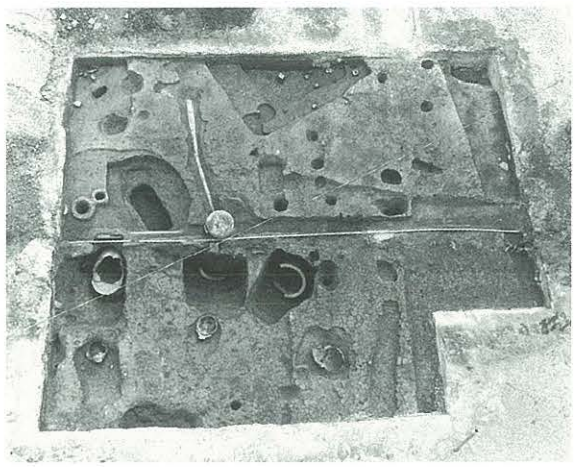
弥生時代中期後半～後期初頭の甕棺墓10・土壙墓１・土坑１・溝１、古墳時代後期の竪穴住居１・溝１、及び中世の土坑１を検出した。甕棺墓のうち３基は成人棺で、うち２基は単棺、１基は合口である。他は小児棺で、調査区内で５基を確認したほか、壁面に２基の小児棺が認められた。土壙墓を含め、副葬遺物はまったく認められなかった。

出土遺物　おもに甕棺が占め、ほかに弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器など、コンテナケース24箱を数える。

まとめ　狭い面積の調査ではあるが、予想外の甕棺墓の発見など、比較的濃密に遺構が分布する状況を確認することができた。周辺では、北側の第３次調査において甕棺墓が確認されており、墓域が調査区の北側へ伸びることは間違いない。また、甕棺墓の配置からみて、東側へも展開していくものと予想される。



1. 調査地点の位置（37 東光寺 0085 1：8000）



2. 調査区全景（北から）

3. 甕棺墓出土状況（北東から）

0123 飯倉古墳群第１次調査（IKK－1）

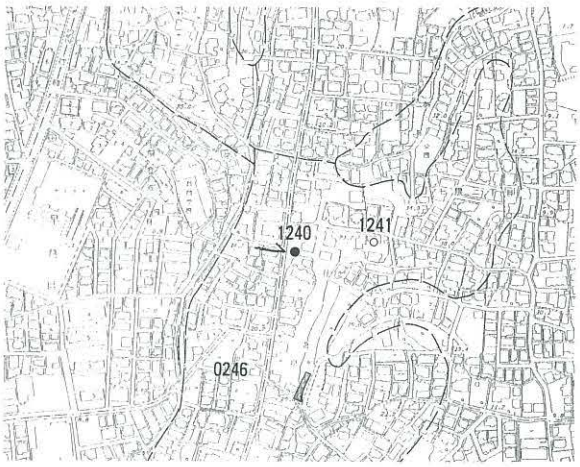
所在地	城南区七隈２－２０－５１	調査面積	256㎡
調査原因	分譲戸建住宅造成	担当者	藏冨士寛
調査期間	2001.8.6～8.13	処置	記録保存

位置と環境　飯倉古墳群は早良平野の東側に位置する飯倉丘陵上に散在する古墳群である。今回の調査では、第４号墳とその周辺の調査を行った。

検出遺構　なし

出土遺物　土器の細片が数点出土。

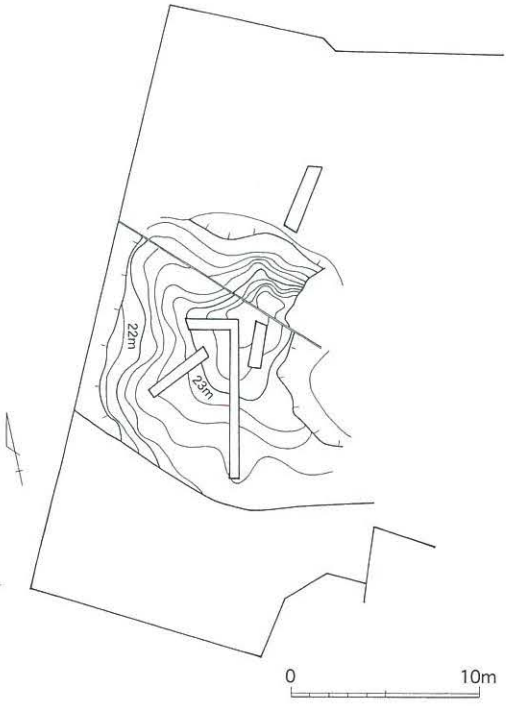
まとめ　調査はまず、古墳と目される高まりの上に４本のトレンチを設定し、人力による掘削を行った。その結果、各トレンチのいずれも表土直下から地山を検出した。今回の調査では、この高まりが盛土のような、人造のものではないことが判明した。古墳であることを裏付けるような、遺構・遺物は検出できず、「４号墳」は自然の残丘である可能性が高い。



1．調査地点の位置（73 茶山 1240 1：8000）

2．調査前現況（南から）

3．トレンチ調査後（南から）



4．トレンチ配置図（１／400）

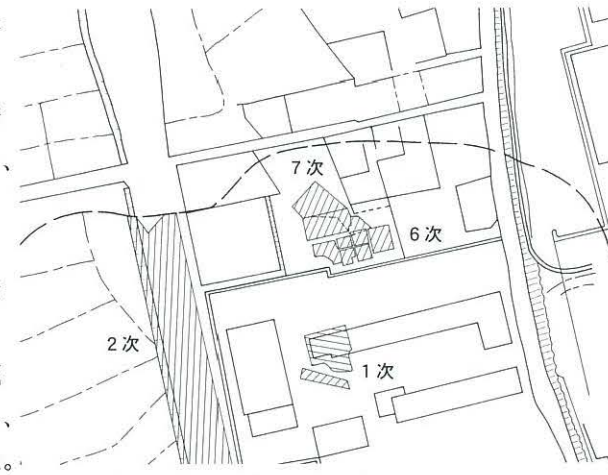
0124・0158 今宿五郎江第６・７次調査（IZG-6・７）

所在地	西区今宿町136番地内	調査面積	385㎡（６次）386㎡（７次）
調査原因	共同住宅建設	担当者	藏冨士寛（６次）久住猛雄（７次）
調査期間	2001.9.12～10.16（６次） 2002.2.18～3.6（７次）	処置	記録保存

１調査の経緯

平成13（2001）年１月29日、西武ハウス株式会社（代表取締役 豊福 清）から、西区今宿町136番２・13・16、109番5における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前審査申請（12-２-867）が福岡市教育委員会埋蔵文化財課に提出された。申請地は、今宿五郎江遺跡として福岡市文化財分布地図に掲載、周知されている埋蔵文化財包蔵地の範囲内であり、開発の内容が遺跡に影響を与えることが予想された。そのため埋蔵文化財課は申請者の承諾の上、平成13年２月21日に試堀調査を行い、わずかながら遺構を検出した。ただしこの時点では既存建物のために試堀範囲が限られ、調査の必要の有無が判断できなかったため、建物解体後の平成13年８月23日に再度試堀調査を行った。その結果、申請地は近代以降の撹乱と削平を受けているものの、建設予定範囲には中世の集落跡が遺存していることが判明し、調査の必要ありと判断された。埋蔵文化財課は、関係者と協議を行ない、開発により埋蔵文化財に影響を与えると判断される範囲について記録保存のための発掘調査を実施することで西武ハウス株式会社との合意に達し、平成13年９月５日に受託調査の契約を交わした。

1．調査地点の位置（112 今宿 0626 1：8000）



2．調査区周辺図（1：3000）

調査は、平成13年９月12日に開始し、平成13年10月16日に終了した（第６次調査）。ところが、周辺住民の共同住宅建設に対する要望などから西武ハウスは共同住宅建設計画の設計内容を変更することになった。西武ハウス株式会社と埋蔵文化財課は再度の協議の上、新たな計画で調査が必要となる部分についての受託調査の契約を平成13年１月30日に交わし、これを受けて再度の記録保存のための調査を平成14年2月18日に開始した（第7次調査）。調査は、平成14年3月6日に終了した。整理については、平成14年度に行なった（本報告は久住が一括して担当・記述した）。

２遺跡の立地

今宿五郎江遺跡は、糸島平野東縁部の高祖山から今津湾に向かって舌状に派生する丘陵の先端に立地する。調査地点は、遺跡の推定範囲の北側端に立地し、標高4.５m前後を測る（図１・２）。

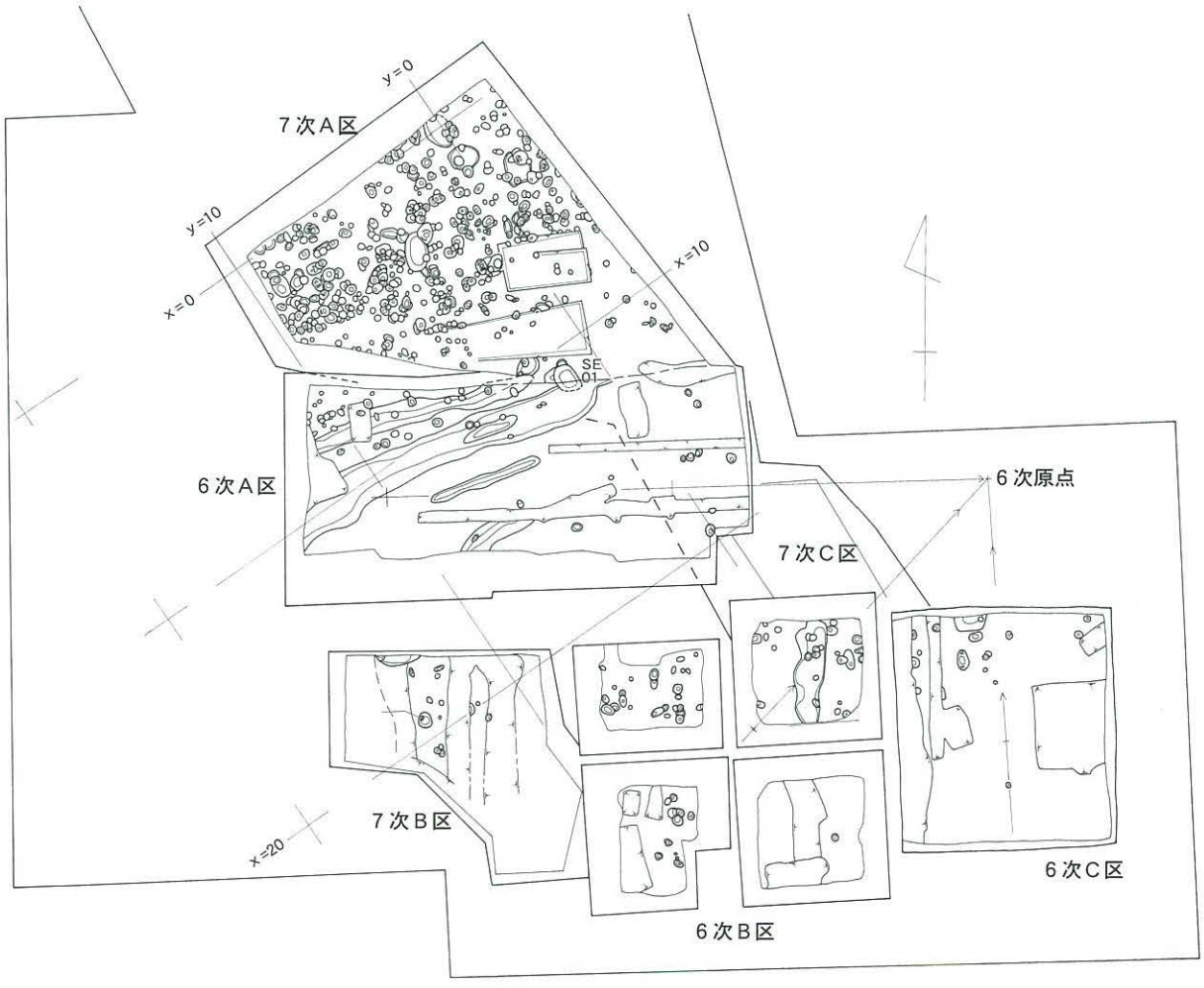
これまでの調査は遺跡の中央から西側でなされており、環濠を有する弥生時代中期から後期の集落を主とした遺構が検出されている。環濠や遺物包含層からは、弥生時代中期後半から後期前半の大量の土器が検出されている。

3 調査の概要と検出遺構

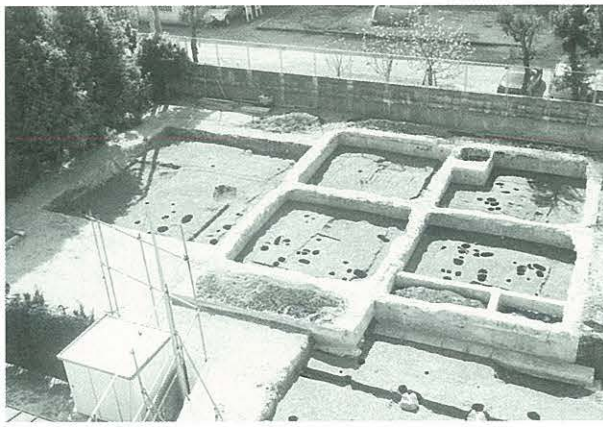
第6次調査は対象地の南半分、第７次調査は主に北半分と南側の一部を調査している（図３）。遺構検出面の標高は、調査区北側で4.1m前後、南側で3.7m前後である。基本層序は、調査前のGLから－20～40cmが表土、GL－４０～70cmが暗褐色土（耕作土か）、その下に灰褐色土（水田床土か）を挟んで、GL－60～100cmで地山になりこの上面で遺構が検出される。地山は水成堆積の明褐色粘質土を主とし、一部は灰青色粘質土、また未風化花崗岩媒乱土粒を含む明赤褐色土となる部分がある。遺構の覆土はばらつきがあるが、灰褐色～淡褐色、暗灰色の粘質土・砂質土などである。

なお６次調査では平板測量を用い、７次調査では任意グリッド（座標）を組んで測量しているが、同一の座標系でないので周囲の地境で図面を合わせているためやや不正確な部分がある。

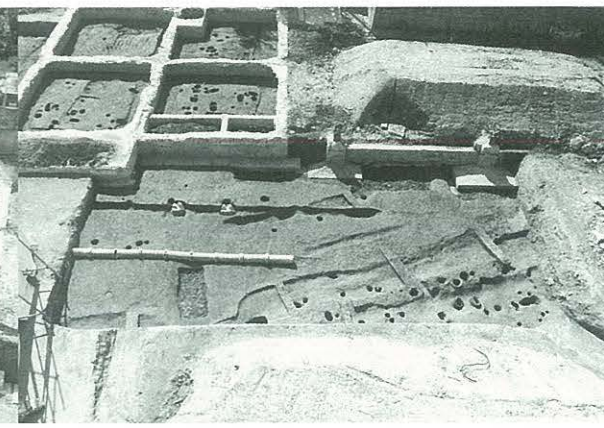
調査範囲南半分の6次調査側および７次B区では撹乱が多く、かつ６次調査B・C区では既存基礎のために調査範囲が変則的になってしまった（写真４・５）。概してこれらの部分の遺構の密度は薄く、20～45cm前後の柱穴がまばらに分布する。ピットは深いものでも50cm程度で概して浅い。柱痕跡が判明するものもあったが、調査範囲の制約と撹乱のために建物の復元が難しい。結果的に調査区中央となった6次A区では北西側において遺構密度がやや濃くなり、これを画するように南西から北東にかけて浅い溝が数本走る。もっとも幅のあるSD04でも深さは20cm強である。６次調査の担当者は自然流路の可能性を考えたが、７次調査の濃密な柱穴



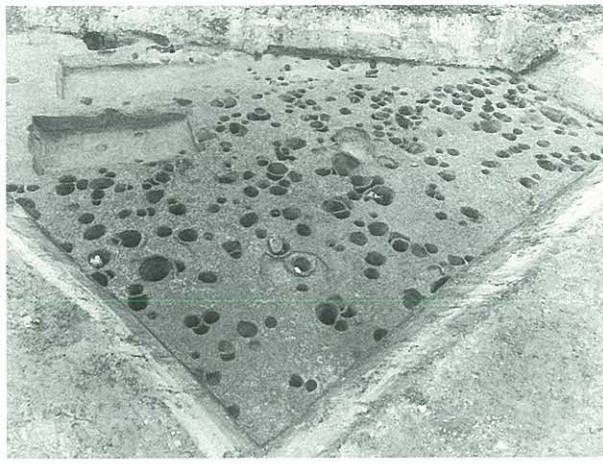
3．調査区全体図（1：300）



4．６次Ｂ．Ｃ区全景



5．６次Ａ区全景



6．７次Ａ区全景（北から）

7．７次Ａ区全景（南から）

8．７次Ａ区東半・Ｃ区調査状況（北から）

9．７次Ａ区西半調査状況（東から）

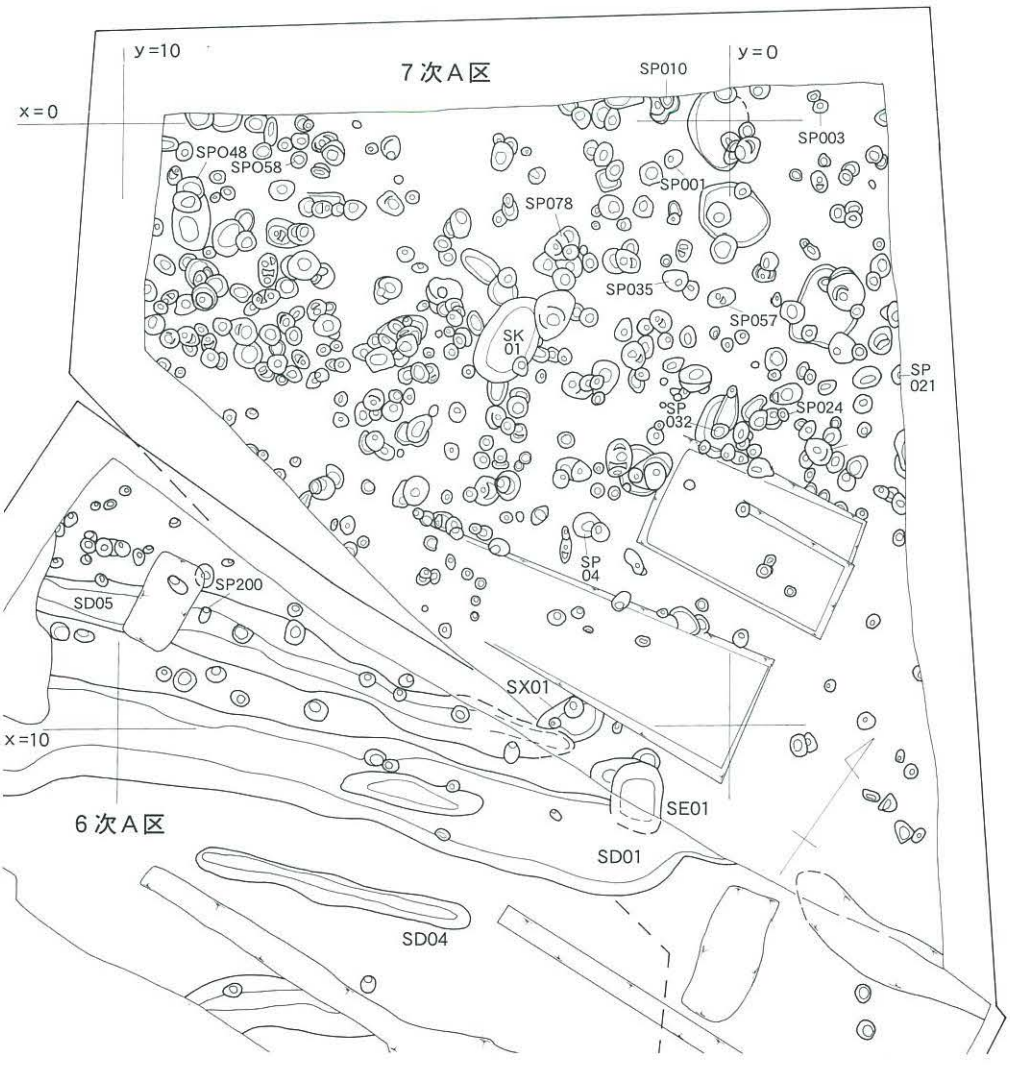
群を区画することから人工的な区画溝であろう。

調査範囲北半分となる７次調査区（７次A区）では、６次調査側と異なり濃密な遺構を検出した。一部撹乱により遺構が失われている部分を除き、柱穴がいくつも重複して検出された。柱穴は径20～60cm前後で、深いもので80cm前後の深さのものもある（６次調査側に比べ削平の度合いも小さいか）。柱痕跡が認められるものも多く、地下水位が高いため柱材自体が一部残存する柱穴もあった。いくつか柱筋が認められ、掘立柱建物を構成すると考えられたが、柱穴の重複が多く、また柱

穴自体の数が多いためかえって不明瞭であった。さらには7次調査は6次調査の遺構密度を見込んで調査期間を設定したために、現場での十分な検討ができず、結果として建物の復元をなしえていない。ただし、柱穴の多くが類似した柱筋で重複し、近い場所での建替えの累積があると推定される。また柱筋の方向は、6次調査側のSD01およびSD05と平行ないし直交の方位を採るものが多い(図10)。柱穴のうち、SP01上層より銅銭が6枚以上出土した（図11-22～25）。７次A区では柱穴の他に、径100cmまでの浅い土坑数基と、南側には約90×135cm前後の平面隅丸長方形の井戸（SE01)が一基ある（６次A区に一部かかる）。SE01は深さ120cm前後で、暗灰色粘質土を覆土とする。なお７次B区は撹乱が多く、６次調査同様のまばらな遺構分布であり、７次C区ではほとんど遺構がなかった。出土遺物は、６次調査に比べやや多いが、小破片が多く集中して出土する遺構は無い。

４　出土遺物（図11）

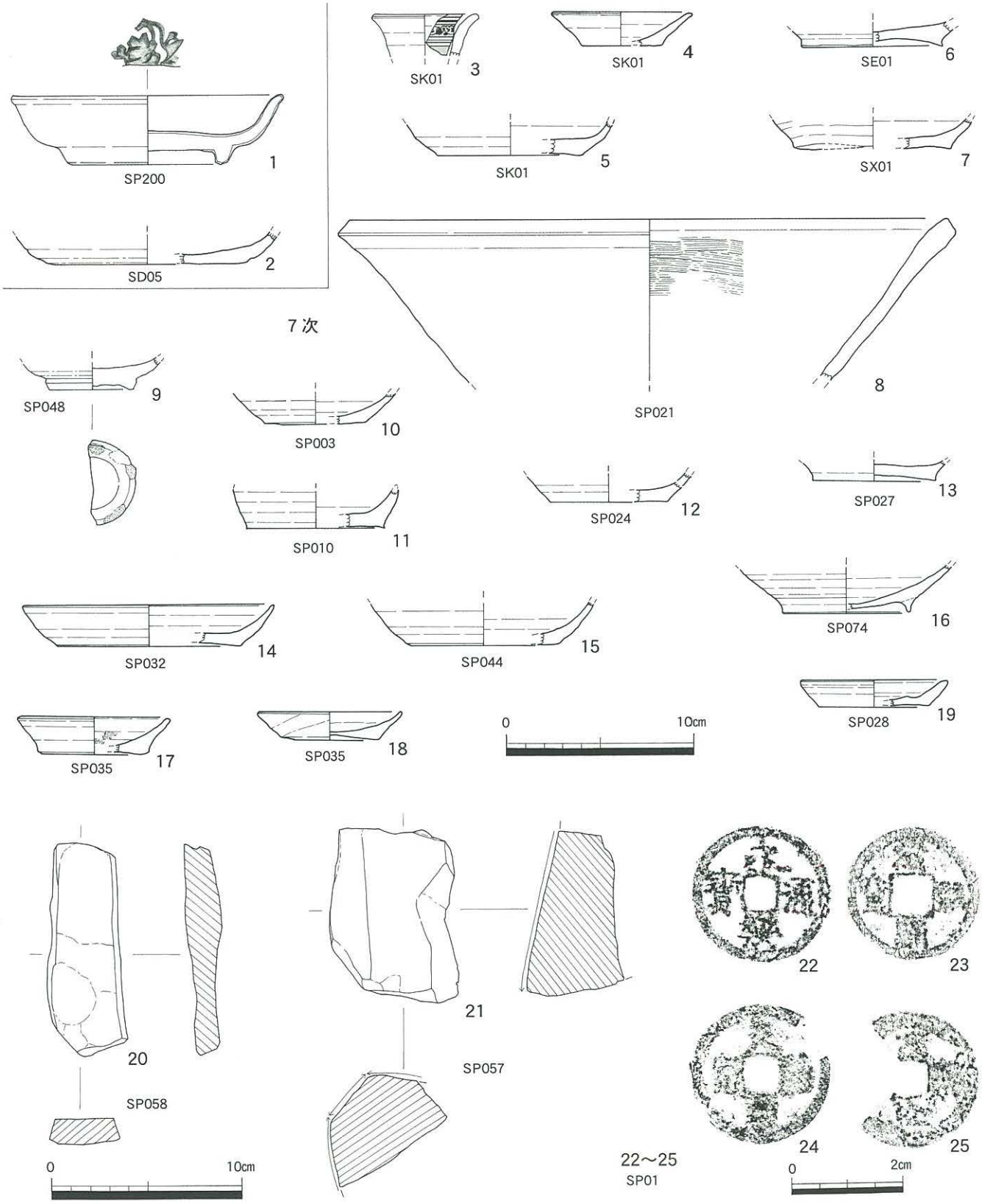
出土遺物は、6次・7次調査ともに、中世から近世初頭までの輸入陶磁器（青磁、白磁、染付、朝鮮陶磁）、国産陶磁器、土師器（鍋、鉢、坏、皿）などの破片、石製品、銅銭などがある。土器・陶磁器の個体の遺存率は小さく、小破片が大部分である。遺物の総量はパンケース４箱程度（うち



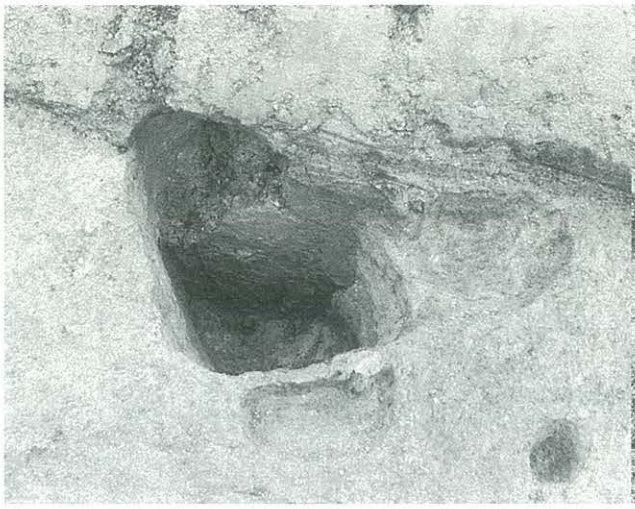
10. 調査区主要部分（1：125）

７次調査が３箱程度）である。

遺物の一部を図11に示した。出土遺構は図中に示している。11－1,2は６次調査出土。１は、龍泉窯系青磁で、碗Ｖ－２類（博多分類）に相当する浅形碗ないし坏。内面見込みに型押？の陰刻花文。



11．今宿五郎江６・７次出土遺物（S＝１／３、銅銭は実物大）



12. ７次SE01（北から）

13. ７次Ｂ区全景（北から）

器壁・釉が厚い感じ。底部外面に施釉が及ばず、砂目が少し残る。15世紀前後。２は土師器の皿。底径10.7cm（復元）。体部立ち上がりに丸みがあり、14世紀頃か。11－３～19は７次調査出土。３は肥前系陶器の象嵌小瓶。胎土がにぶい灰色で砂っぽい。17世紀か。4は土師器の小皿。15～16世紀か。５は土師器の杯。13世紀頃か。６は土師器の杯。糸切りが上げ底状に彎曲し粘土の溜りが付着する。土師器の杯・皿の底部は、判明するものは全て糸切り。７は土師器の杯で、底部は板目圧痕あり。８は土師質の鍋形土器で、外面に煤あり。胎土は橙色～橙灰色。９は初期の肥前系陶器か朝鮮王朝陶器の碗。灰色の砂質気味のやや粗い胎土（黒色微砂含む）に、わずかに緑色味のある灰色半透明釉がかかる。高台畳付に砂目あり。10は土師器の杯で、底部に板目圧痕あり。11は土師器の小皿。12は土師器の杯。13は土師器の杯で、底径小さく体部が外へ広がるタイプか。体部器壁が薄いもので15～16世紀のものか。14は土師器の杯で、口径13.6cm前後（復元）。13世紀か。15は土師器の坏。16は低く小さい高台の付く土師器の坏。丁寧な作りで器壁が薄い。底部外面に板目圧痕あり。17は土師器の小皿で、内面に油煤が付着。14世紀前後か。18,19も土師器の小皿である。11－20,21は７次調査出土の砥石。20は灰色を呈し、石英斑岩か。11－22～25は７次調査SP01出土の銅銭。SP01上層からは、銅銭６枚＋３枚前後が出土しているが、掘削時の不注意と一部の銅銭は遺物自体の銹化により遺存度が悪かったため、小破片に分かれてしまったものがある。そのため銭名が判明できないものも多く、4枚のみ図示できた。図示できなかったものの１枚に「淳化元年」銭がある。22は「永楽通寶」、23は「元祐通寶」、24は「天禧通寶」、25は「元符通寶」である。23～25は北宋銭で、22の明銭が最新である（初鋳は永楽６年＝1408年）。以上の遺物は、北宋銭を除くと13～17世紀のものであり、他の未図化遺物も同様の時間幅に入り、集落の存続期間を示す。

5　まとめ

今回の調査では、弥生時代の確実な遺構は確認できなかった。弥生時代における遺跡の中心は、現在の今宿小学校側である。今回の調査により、中世の遺構が多数検出され、中世の遺跡の主要部分は今宿五郎江遺跡の北側に広がるものと推定できることになった。調査を行った北側の７次調査側では、北端でも遺構の途切れる気配はない。１～５次調査の弥生時代集落遺跡（中世遺構はほとんど無い）とは異なり、今宿五郎江遺跡北側に中世集落遺跡の広がりが推定できる。この場合、遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の推定範囲を現状よりも北側へ拡張する必要が認められ、今後の開発に注意が必要である。今回の調査では、ほとんど柱穴群のみの検出であり、さまざまな制約により建物群の復元に至らなかったが、今宿五郎江遺跡の北側における今後の調査においては、当地区における中世の集落の様相の解明が期待されよう。

0125 上月隈B遺跡第１次調査（KMB－１）

所在地	博多区月隈６丁目地内	調査面積	1,066㎡
調査原因	道路建設	担当者	井上　繭子
調査期間	2001.9.1～2002.2.8	処置	記録保存

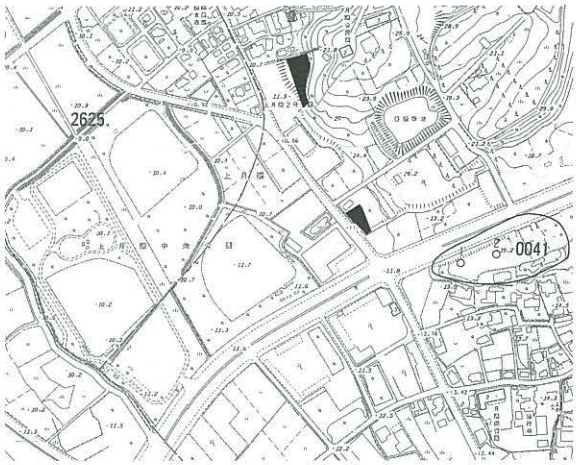
位置と環境　上月隈B遺跡群は、月隈丘陵から発生する小丘陵上に位置する。北には上月隈遺跡群、西には下月隈C遺跡群、南には立花寺遺跡群が位置し、そろぞれ弥生時代から中世に至る集落、墓地等が検出されている。調査地点は２カ所あり、第１調査区は遺跡群南側端の沖積地上に、第２調査区は遺跡群の西側端で、丘陵の落ち際に位置する。第１調査区は現地表下約２m、標高８～10mの暗褐色粘土質土上面、第２調査区は現地表下約50㎝の」標高約13～15mの黄褐色（花崗岩バイラン土）上面が遺構面となる。

検出遺構　第１調査区では、ピット、溝が検出された。遺物は少なく時期を決めたい。第２調査区は、西側に向かい遺構面が傾斜して落ち、南西部に包含層が堆積していた。検出遺構は中世の井戸（SE76）、溝、土坑、柱穴、弥生時代の貯蔵穴、土坑、ピット等である。

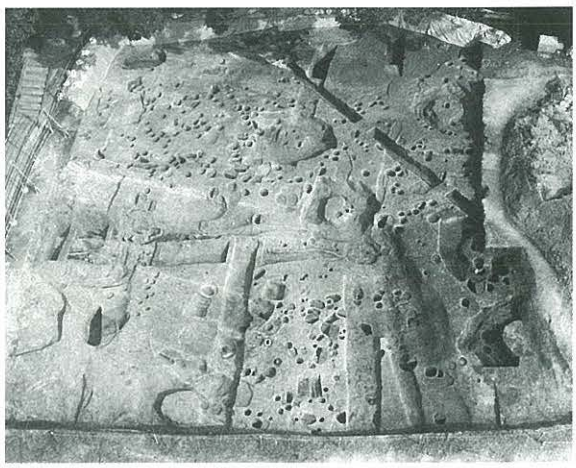
出土遺物　SE76の底部付近で４段重ねられた結物の木桶が検出された。中から建築部材と木製臼が出土している。また、貯蔵穴（SU44）の底部に弥生時代前期の甕がほぼ完形で据えられていた。

まとめ　第１調査区は検出遺構た遺物も少なく、集落の外れであると考えられる。第２調査区は、弥生時代、中世を中心に集落が広がっていたと推定される。

報告書は2002年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（11 金隈 2814 1：8000）



2. 調査区北側全景（西から）

3. SE76　遺物出土状況（南から）

0126 井尻B遺跡群第21次調査（IGB-21）

所　在　地　福岡市南区井尻5丁目９番地地内　**調査面積**　366㎡
調査原因　共同住宅建設　**担　当　者**　久住猛雄
調査期間　2001.9.17～11.5　**処　　置**　記録保存

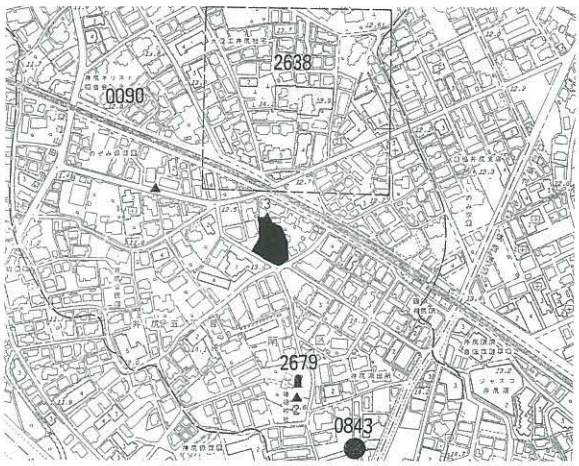
位置と環境　井尻B遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた段丘上にあり、須玖・岡本遺跡群と比恵・那珂遺跡群の中間に位置する。調査地点は井尻B遺跡群の中央南側に位置する。なお1920年代の現在の西鉄の軌道建設造成時に、中山平次郎氏が甕棺墓や竪穴を報告した地点はこの南側隣接地である。周囲の標高は13.5～13.8mを測る。

検出遺構　弥生時代の甕棺墓群を中心に、弥生時代中期～古墳時代初頭、奈良～平安時代の遺構を検出した。対象地の北部は近代以降の著しい削平を受けていた。甕棺墓は大型棺３基、小型～中型棺３基があり、全て合口式である。甕棺の型式は弥生時代中期の汲田式～須玖式である。副葬品の出土はない。小型棺１基を除き列状に分布するが、中山平次郎の甕棺発見推定地はこの延長上である。そのほか、弥生時代後期の竪穴住居１棟、主に弥生時代の柱穴多数（建物５棟以上）、弥生時代の土坑５基、古代の溝３条を検出した。古代の溝の１条は、ほぼ南北方向で幅1.5mの断面逆台形を呈し、瓦片を出土する。９世紀前後であろう。

出土遺物　コンテナ45箱分があるが、大半は弥生時代の甕棺である。他に弥生土器、古式土師器、古代の土師器・瓦、鉄器、黒耀石剥片がある。

ま　と　め　甕棺墓群は、成人棺の墓壙に比較的大きいものがあり、列状をなすが大規模でないのが特徴である。柱穴の一部は甕棺墓に切られ、弥生時代でも古い時期からの集落の展開が考えられるまた古代の溝の一つはほぼ真北方向に延び、「井尻廃寺」と関連する周辺地割の可能性がある。今回の調査により、やや内容が不明であった井尻B遺跡群の段丘中央部の様相の一端が明らかになった。

報告書は2003年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（25 井尻 0090 1：8000）

2. 調査区全景（北から）

3. ST07（手前）・ST08（後方）・甕棺墓（北から）

0127 比恵遺跡群第76次調査（HIE-76）

所 在 地	博多区博多駅南６丁目64-1	**調査面積**	110㎡
調査原因	共同住宅建築	**担 当 者**	吉武　学
調査期間	2001.10.1～10.29	**処　　置**	記録保存

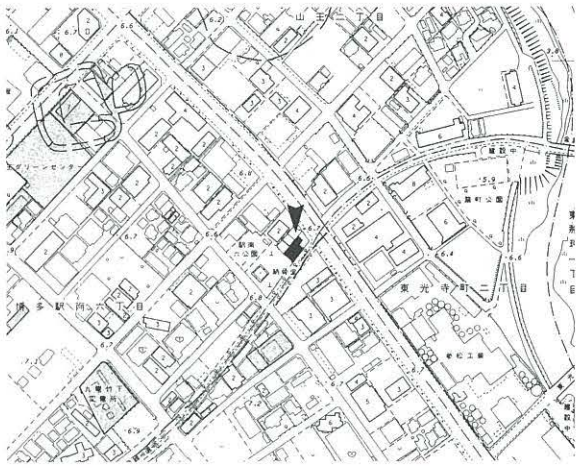
位置と環境　調査地点は、那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵の東端部に位置する。調査前の現況は駐車場で、地表面の標高は6.9mを測る。遺構面の標高は6.6mであるが、これは1930年代の区画整理によって地形が著しく削られた結果であり、検出した遺構の残り具合からみると、本来は0.5～１mほど高い地形だったと考えられる。また、丘陵が東へ下る位置に相当しているとみられ、西側の遺構の残りが悪い。更に、西端部は近世に１m近い地下げが行われており、この部分は調査対象外とした。

検出遺構　弥生時代中期～古墳時代前期の竪穴住居６、土坑６、および弥生時代～中世の柱穴などのピット150を確認した。竪穴住居は残りが悪かったが、弥生時代後期末と古墳時代初頭の２軒の住居は比較的よく残っていた。

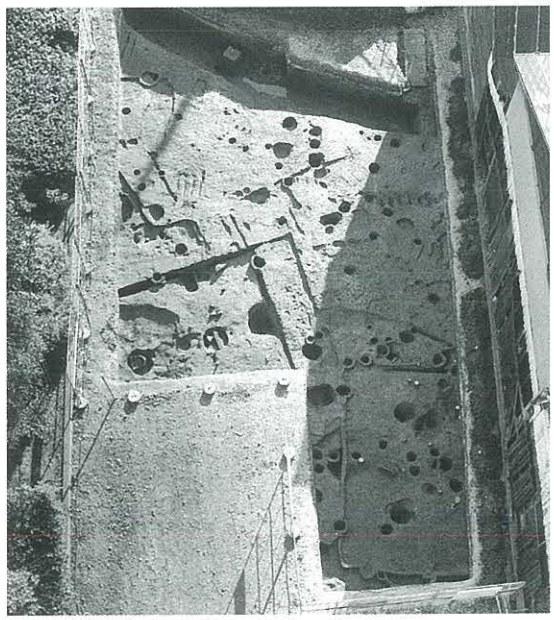
出土遺物　弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、鉄製品など、コンテナケース10箱分が出土した。

ま と め　遺構の残りは悪かったが、竪穴住居に切り合いがみられ、床面まで削平された竪穴住居の柱穴とみられるピットが全域に分布することから、弥生時代中期～古墳時代前期の遺構は比較的濃く分布しているといえよう。注目すべき遺物として、古墳時代初頭の竪穴住居から出土した「ノミ」状鉄製品がある。大陸もしくは朝鮮半島から輸入された舶載遺物とみられ、鉄器の素材として我が国に将来された可能性がある。住居跡覆土の一部を水洗するなどしたが、残念ながらこの住居で鉄の加工をしていたような痕跡は全く確認できなかった。いずれにせよ今後、日本における初期の鉄器生産を解明する上で有益な資料となろう。

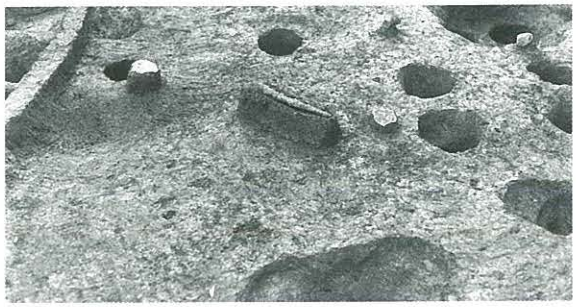
報告書は2002年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）



2. 調査区全景（北東から）



3. 「ノミ」状鉄製品の出土状況（北東から）

0128 博多遺跡群第133次調査（HKT-133）

所在地	博多区祇園町355－1,357	調査面積	285㎡
調査原因	事務所ビル建築	担当者	杉山富雄
調査期間	2001.10.10～12.26	処置	記録保存

位置と環境　博多湾奥に生成した沿岸砂州上に発達した砂丘列のうち、最も奥部の砂丘列で、砂丘稜線よりも北西側の海に面した緩い斜面上に立地する。現況は市街地となって、標高は５～5.5mの位置にある。

検出遺構　調査は、黒褐色砂層（包含層）を基準として層上面（第１面）、層中（第２面）、層除去後の地山面（第３面）に分けておこない、調査遺構は約260基となった。

第１面　平安時代末から鎌倉時代にかけての井戸、土壙及び、柱穴を含む多数の小穴を検出した。土師器を一括投棄する土壙、灰の詰まった土壙等が特徴的である。

第２面　平安時代後半期の土壙、井戸、溝、小穴、土壙墓を検出した。土壙墓は２基近接して検出され、人骨が遺存した。一方には黒色土器が副葬されていた。

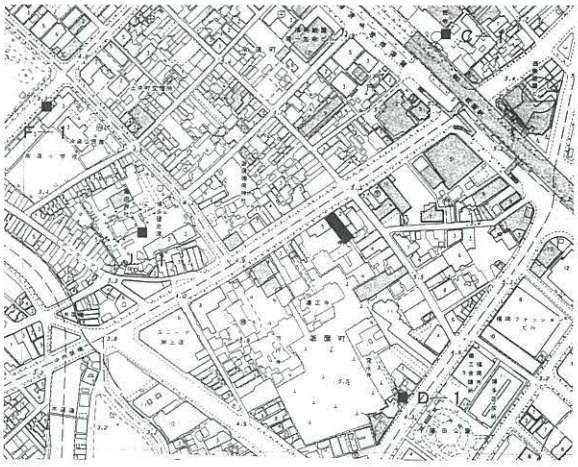
第３面　古墳時代前期の竪穴住居、奈良時代の溝、竪穴住居を検出した。

出土遺物　第１面　白磁を主とする輸入陶磁器と土師器坏皿が大部分を占める。土師器が一括投棄された状態で出土したものがある。

第２面　白磁を主体とする平安時代の輸入陶磁器及び古代から中世にかけての土師器・須恵器が出土した。

第３面　古墳時代前期の竪穴住居からは多数の土師器とともに鈍が出土した。

まとめ　古墳時代前期の竪穴住居は遺存状態が良好で、調査区全体に分布する。この時期の集落は、本地点を含め、砂丘稜線に沿って広い範囲を占めるものと考えられる。



1. 調査地点の位置（49　天神　0121　1：8000）

2. １区３面の遺構（北から）

3. ２区３面の遺構（北から）

0129 福岡城跡第48次調査（FUE－48）

所　在　地　中央区城内
調査原因　大手門復元整備
調査期間　2001.10.2～2002.4.30
調査面積　上の橋244.27㎡　下の橋134.37㎡
担　当　者　井澤洋一
処　　置　現状保存

位置と環境　福岡城は、鶴翼状に広がる博多湾の海岸線の中央にあたり、博多湾に向かって北に延びた舌状丘陵の先端部に立地している。この丘陵の丘尾を切断して独立丘陵となし、丘陵内の谷を埋め立てて本丸、二の丸、三の丸を形成し、また丘陵全面の狭い砂丘を埋め立てて、城下町を形成している。

上の橋大手門は、城の北東側に位置し、正門として使われた門で、下の橋大手門は城の北西側に位置し、裏門として使われた門である。

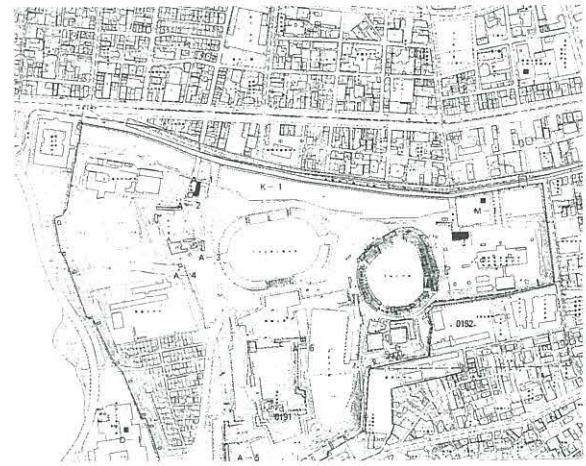
検出遺構　今回の発掘調査は、下の橋大手門を江戸時代の姿に復元することを目的とするものであるが、上の橋大手門も併せて調査を行い、規模や構造等の確認調査を行った。調査の結果、江戸時代の門の礎石、暗渠、また、上の橋大手門では第24連隊の衛門跡を検出した。

上の橋大手門の門間口は約9.4m、奥行は9.4m、礎石桁行は約7.2m、梁間は約4.7m、建物跡の平面積は約33.84㎡を測る。下の橋大手門の門間口は9.1m、奥行は9.2m、礎石桁行は約7.2m、梁間は約4.7m、建物跡の平面積は約33.84㎡を測る。

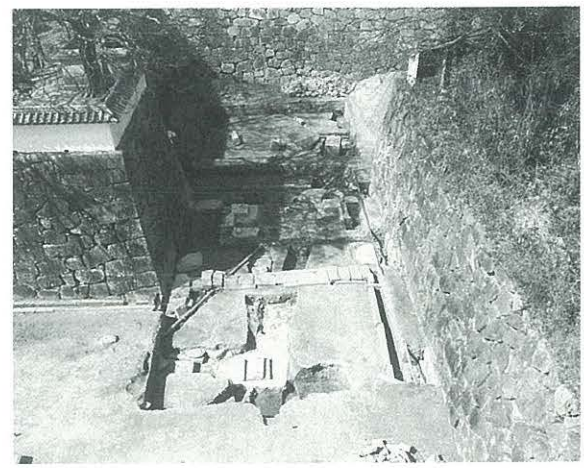
石組みの暗渠は、門の中央を斜めに横切っており、城内排水機能と考えられる。溝の断面形は箱形を呈している。蓋石には、砂岩の板石を用いていた。長さは92～170cm、幅は33～80cmを測る。

出土遺物　土師器、瓦質土器、陶磁器、瓦などコンテナ300箱分の遺物が出土した。

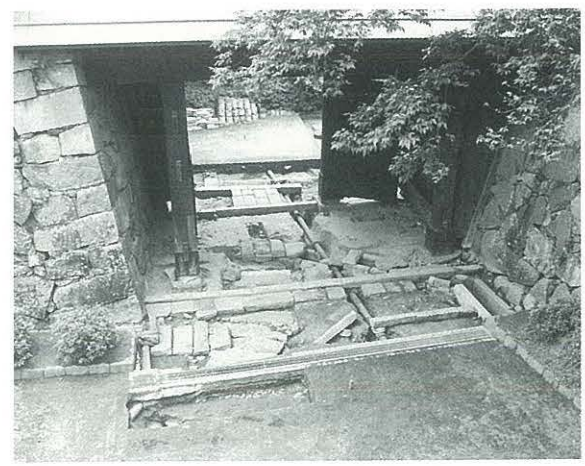
まとめ　今回の調査で、石垣間口や礎石の位置が上の橋大手門、下の橋大手門共に、一致することが判明した。下の橋大手門は当時の写真が残っていないが、上の橋大手門は明治初年に撮影された二層櫓門の写真が残っており、下の橋大手門を江戸時代の姿に復元するための大きな手掛かりとなっている。



1. 調査地点の位置（60　舞鶴　0193　1：8000）



2. 上の橋大手門全景（東から）



3. 下の橋大手門全景（東から）

0130 吉塚遺跡第９次調査（YSZ－９）

所在地	博多区吉塚３丁目19	調査面積	256㎡
調査原因	共同住宅建設	担当者	長家伸
調査期間	2001.10.22～11.7	処置	記録保存

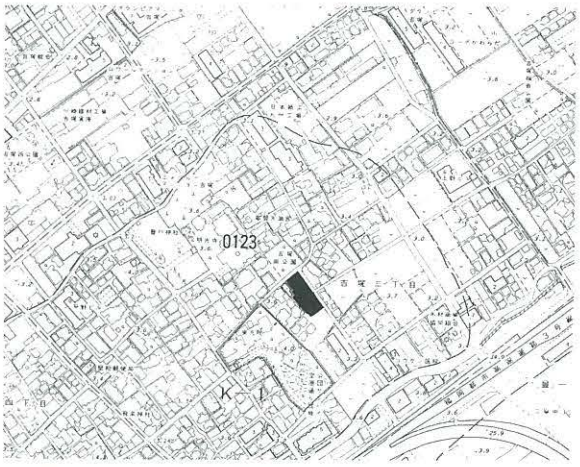
位置と環境　吉塚遺跡は博多湾岸に形成された砂丘上に立地する。箱崎遺跡群から博多遺跡群に至る砂丘の中央部分にあたり、後背地に向かって南北方向に砂丘が張り出す先端部分にあたる。調査地点は東光院の北東側に隣接している。東光院の創建については不明であるが、これまでの確認調査で12・13世紀代の埋め立てが確認されている。

検出遺構　古墳時代～中世前半の遺構を中心に確認している。検出遺構は竪穴住居跡、井戸、溝、土坑、ピットである。井戸は２基確認しておりいずれも古代に位置付けられる。共に方形の井戸枠を有する。古代に属する遺構・遺物は今回の調査の主体を占めるものであり注目される。また中世に位置付けられる溝は東光院調査で確認された埋め立て後に掘削されており、東光院に関連する遺構の可能性も考えられる。また砂丘斜面上には整地層が形成されており、古代以降の整地が確認できた。

出土遺物　遺物はコンテナ26箱分出土した。時期的には弥生時代前期～中世前半代の遺物がある。前述したように古代の遺物が主体を占めている。

まとめ　今回は吉塚遺跡縁辺部分の状況の一部を明らかにすることができた。遺構の形成は古墳時代以降であったが、弥生時代前期の遺構も近辺に存在する可能性が考えられる。また古代には多くの遺構が確認されており遺構の中心をなしている。更に中世には後背地の整地が更に進み、遺構の分布が拡大していくようである。

調査報告書は2002年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（35　吉塚　0123　1：8000）

2. 調査区全景（北から）

3. SE07井戸枠状況（東から）

0131 大橋E遺跡第８次調査（OOE-８）

所在地	福岡市南区大橋4丁目地内	調査面積	151.9㎡
調査原因	都市計画道路建設	担当者	阿部泰之
調査期間	2001.10.15～11.9	処置	記録保存

位置と環境　本調査地は、那珂川の中流域に広がる沖積地に立地する。調査区は遺跡のほぼ中央部に位置しており、既往の調査では、弥生時代から近世初頭の集落、古代の道路と思われる遺構が検出されている。

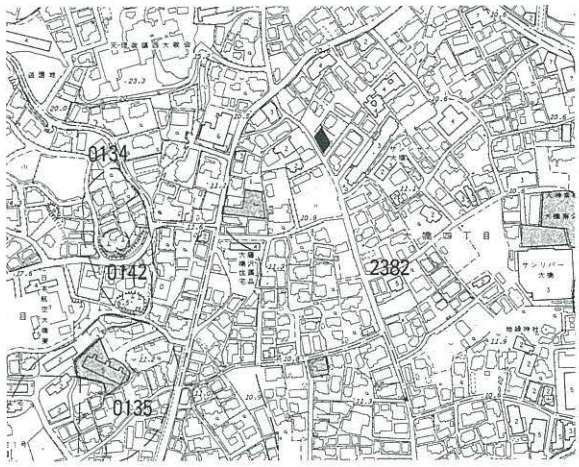
検出遺構　遺構は、現地表面よりマイナス１m、明黄褐色土上にて検出した。内容は、溝１条・ピット多数である。溝は、調査区内を北東～南西方向に貫流し、幅約0.7m・深さ約0.3mを測る。底面には、掘削時の工具痕と思われる半円～三日月形の窪みが２列、並行して残存している。時期は、土器片の胎土から古墳時代中期を下らないと思われるが、細片のみの出土であり根拠には乏しい。ピットは、不整形で浅いものが多く、柱痕跡は、検出できなかった。

出土遺物　出土遺物は、土師器細片が約30点・黒曜石片が4点である。うち１基から、土師器の坏が出土し、その外径・器高からピットは、14世紀後半頃の所産と思われる。

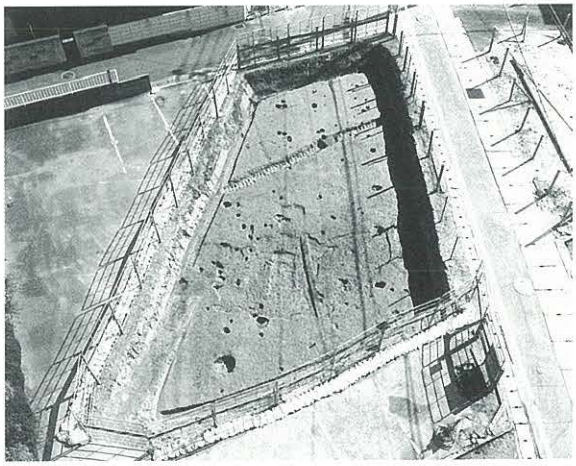
また、特筆すべき遺物として溝よりサヌカイト製の石匙が出土した。

まとめ　今回の調査では、古墳時代の可能性がある溝を検出した。本調査区の北東で、道路側溝の可能性が指摘されている溝が検出されているが、主軸の方位が異なるため、これと接続するとは考えにくい。第7次調査の成果と併せて、大橋周辺は、14世紀～15世紀頃に大きく開発がすすんだ状況が考えられる。また、本調査区以外の道路用地では、遺構が検出できなかったため、遺跡自体が那珂川の水流によって大きく撹乱されていることも考えられる。

調査報告は2003年度刊行予定。



1. 調査地点の位置（39　三宅　2389　1：8000）


2. 調査区全景（北から）

3. 調査風景（南から）

0132 梅林遺跡第６次調査（UBY-６）

所在地	城南区梅林４丁目451-10	調査面積	368㎡
調査原因	地下鉄建設	担当者	池田祐司
調査期間	2001.10.12～11.2	処置	記録保存

位置と環境　梅林遺跡は油山から派生する丘陵のうち、梅林から飯倉と連なる丘陵と、金山へと連なる丘陵に挟まれた狭い谷状平野の最深部に位置する。調査地点は谷の西側の丘陵斜面に位置し、標高２２ｍを測る。

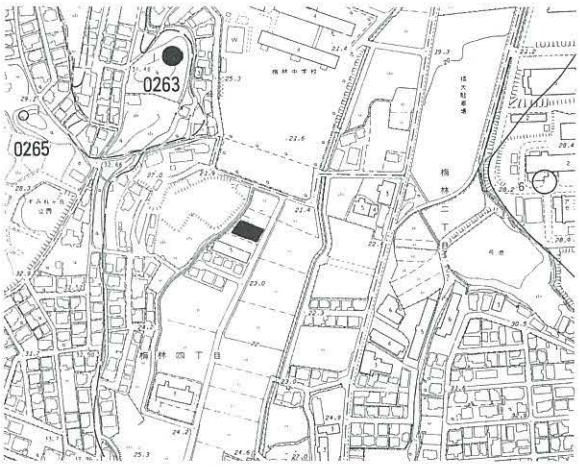
検出遺構　古墳時代の竪穴住居跡、近世の溝、古代、縄文時代の包含層を確認した。

古墳時代の遺構は竪穴住居跡３軒とピットである。住居跡はいずれも方形または長方形と考えられるが、調査区外に広がり全体がわかるものはない。１号住居は全体の1/4を検出した。西側に竈を持ち、床面には焼土、炭が広がる。主柱穴と考えられるピットの位置から４本柱と考えられる。２号住居は全体の約１/3を確認した。３号住居は４次調査の１号住居と同一である。２つの主柱穴と考えられるピットを検出し、４次調査分とあわせて４本柱となる。

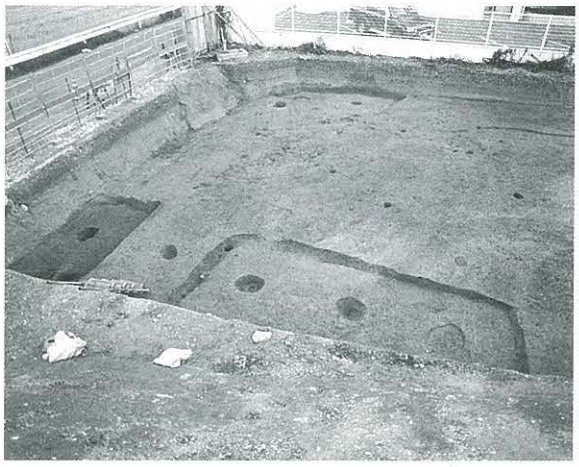
出土遺物　遺構がのる黄褐色粘質土からは旧石器時代から縄文時代の黒曜石、安山岩製の石器、削片が出土した。旧石器時代の遺物として黒曜石を主体とした使用痕を持つ剥片、石核調整剥片などがある。古墳時代の竪穴住居跡からは須恵器の杯、甕、土師器の甕等の土器類が出土した。古代については旧表土直下で遺構にかぶる黄色土からは８世紀代を中心とした遺物が出土した。

まとめ　４次調査に引き続き６世紀代の住居跡を検出した。丘陵斜面には削平を免れた集落が予想以上に広がるものと考えられる。谷部や東側の丘陵裾では、水田や、居館跡が１次から５次調査で確認されており、当該時期の集落景観の一端に近づけるものと考えられる。

2002年度報告書刊行予定。



1. 調査地点の位置（74 七隈 2775　1：8000）



2. 住居跡（北から）

3. １号住居跡（東から）

0133 井尻B遺跡群第22次調査（IGB-22）

所在地	福岡市南区井尻1丁目3番地地内	調査面積	141.33㎡
調査原因	個人住宅建設	担当者	久住猛雄
調査期間	2001.11.6～12.5	処置	記録保存

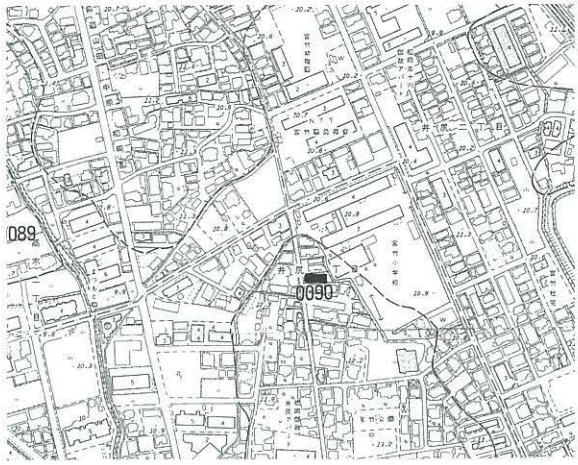
位置と環境　井尻B遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた段丘上にあり、弥生時代から古墳時代前期の集落と墓地、飛鳥時代から平安時代の集落と寺院址などが広く展開する。調査地は遺跡群の北端に位置し、周囲の標高は11.3～11.5mを測る。

検出遺構　溝状遺構４、掘立柱建物１、大型土坑２などを検出した。溝SD001は調査区西端にあり、幅3.5m以上で東側の対岸が不明である。調査地西側の南北道路と平行し、現在の地割りの起源となる溝の可能性がある。深さ１m前後で下部が箱状に落込む。中世後期の埋没だが、最下層の一部はより古い細い溝があったと考えられ、７～８世紀のSD003と連結していた可能性がある。SD003は幅２m、深さ１m強の断面が細い逆台形の直線的な溝で、ほぼ東西である。７世紀後半から８世紀の土師器・須恵器・瓦が出土した。土層からは掘り直しが複数回考えられる。建物SB001は１×２間で、覆土から弥生時代であろう。SX002とSX005は調査区北端に並び、いずれも幅1m以上、長さ６m以上の大型土坑で、土層も類似し下層は水成の自然堆積だが中層以上は埋め戻した可能性が高い。出土遺物がほとんど無く、時期や性格が不明である。

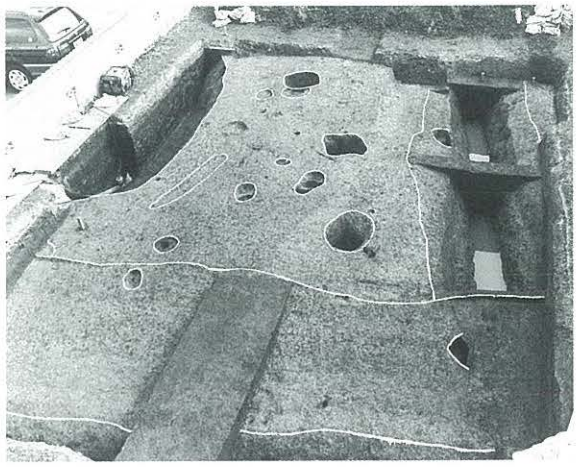
出土遺物　パンケース２箱分の遺物が出土した。弥生土器、７～８世紀の土師器・須恵器・瓦、中世の土師器、輸入陶磁器などが出土している。

まとめ　検出した溝は、飛鳥時代末期から奈良時代に存在した井尻廃寺に関係する段丘上の広域地割の区画溝または道路側溝の可能性がある。御供所・井尻線の道路建設に伴う近年の調査でも、７～８世紀の正方位の溝や道路遺構が検出されており、その関連性が注目される。

報告書は2003年度以降刊行の予定である。



1. 調査地点の位置（25　井尻　0090　1：8000）



2. 西半調査区全景（西から）

3. 東半調査区全景

0134 那珂遺跡群第81次調査（NAK－81）

所在地	博多区竹下５丁目85.82	調査面積	135.4m²
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	本田浩二郎
調査期間	2001.11.7～12.5	処置	記録保存

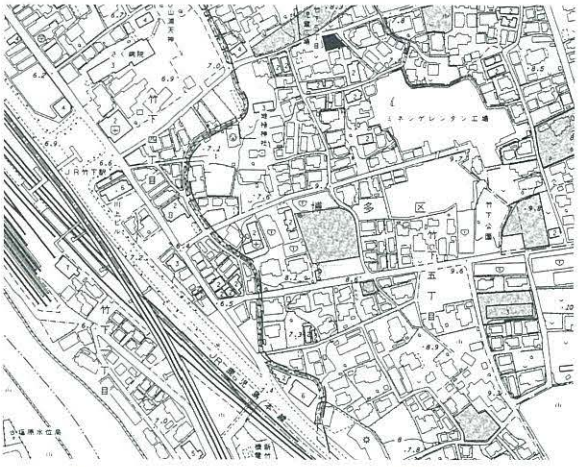
位置と環境　那珂遺跡群は福岡平野中央部に位置し、御笠川と那珂川に挟まれた洪積丘陵の北端に位置している。那珂遺跡群の北側には比恵遺跡群が存在しており、検出される遺構などから両遺跡は一連の遺跡と考えられている。

検出遺構　第81次調査地点は、那珂遺跡群のほぼ中央に位置しており、北側に隣接して第65次調査、西側には第68次調査地点が存在する。調査地点の現状は宅地であり、遺構検出面である鳥栖ローム層上面の標高は8.4m前後を測る。付近は、戦後の宅地造成によって１m程度の削平を受けており、ほとんどの遺構が削平を受けた状況で検出された。

調査では、古代の時期と考えられる溝、古墳時代終末期の溝、９世紀初頭の井戸、15世紀代と考えられる溝、建物としてはまとめられない柱穴などの遺構を検出した。検出された溝遺構は近接する調査区においても検出されており、何らかの施設を画する区画溝の可能性が考えられる。

出土遺物　遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・貿易陶磁器などがコンテナケース４箱分出土している。

まとめ　調査面積が狭く、遺構の遺存状態も良好ではなかったが、古墳時代から中世にかけての空間利用の企画性を復元していく上で貴重な資料を得たと言える。



1. 調査地点の位置（38　塩原　0085　1：8000）

2. 調査区全景（北西から）

3. 古墳時代溝完掘状況（東から）

0135 比恵遺跡群第77次調査（HIE-77）

所在地	博多区博多駅南４丁目132	調査面積	264.4㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	吉武　学
調査期間	2001.11.12～12.10	処置	記録保存

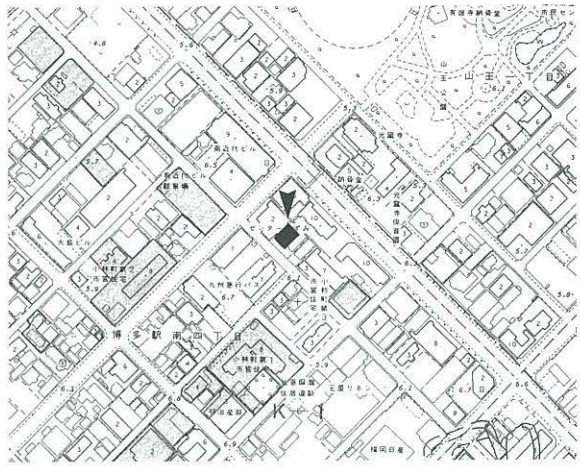
位置と環境　調査地点は、那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵の北東部に位置する。調査前は商業ビルがあり、この基礎により遺構面が大きく破壊されている。海抜標高は、地表面が約６m、遺構面が約５mで、4.5m付近に地下水位レベルがある。遺構面は鳥栖ロームの下部層に相当し、検出した遺構の残り具合からみると、１m弱の削平を受けたものと考えられる。

検出遺構　排土を場内処理するため、まず西側約2/3の範囲を調査し、その後残りの調査を行った。検出遺構は、弥生時代中期～古墳時代後期の井戸１、土坑４、柱穴などのピット約70である。これらの遺構は調査区の南から西の壁ぎわに集中しており、中央から北側には遺構が全く見られない。大きく削平されていることを考慮しても、もともとこの部分には遺構が存在していなかった可能性が強い。このため、全体的にみると、遺構の密度が極めて薄い。

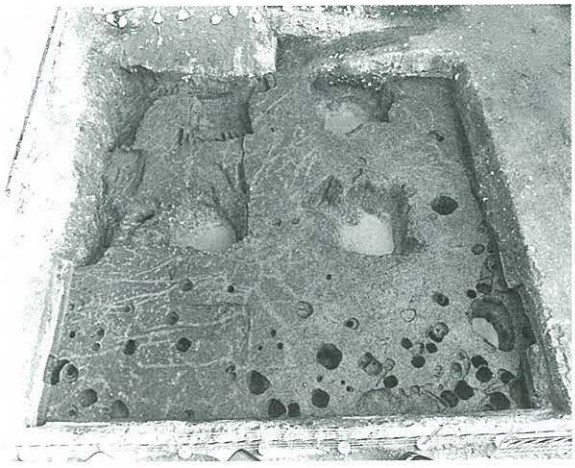
出土遺物　井戸を始めとする遺構からは弥生時代中～後期の土器がコンテナケース10箱分出土したが、これらに混じって古墳時代初頭の古式土師器や６世紀頃の赤焼けの須恵器が少数出土しており、遺構の大半は古墳時代のものと考えられる。

まとめ　古墳時代の遺構に流入して出土した多量の弥生土器は、削平前に厚い包含層がかつて存在したことを示しており、ここが周囲よりも低い谷状地形のなかにあったことを知ることができる。このような地形に制約され、ここは集落の縁辺部に当たっていたと考えられる。調査区の北西隅に検出した甕形土器を埋納した弥生時代中期の土坑は、集落境界に対する弥生人の祭祀の一端を示すものかもしれない。

報告書は2002年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）



2. 西側調査区全景（南西から）

3. 甕形土器を埋納した土坑（北東から）

0136 橋本一丁田遺跡第３次調査（HTI-３）

所在地	西区福重２丁目463-1他	調査面積	5,201㎡
調査原因	店舗建設	担当者	阿部泰之･池田祐司
調査期間	2001.11.12～2002.2.15	処置	記録保存

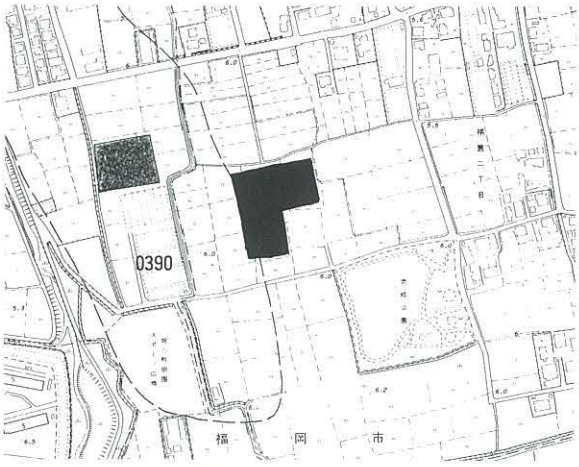
位置と環境　橋本一町田遺跡は室見川、十郎川の沖積作用によって形成された沖積微高地上に立地し、現標高6.5mを測る。２次調査地点の東に隣接する。

検出遺構　遺構は中世の溝５条、古代末の河川１条、古墳時代中期から奈良時代の河川１条、古墳時代の土坑、掘建柱建物、弥生前期の土坑、ピット、刻目突帯文期のくぼみ状遺構、よどみ状の河川等を検出した。中世の溝のうち４条は条理の方向に平行して走る。古墳中期からの河川には、調査区北端で杭が打ち込まれている。掘建柱建物は１×１軒を４棟確認した。突帯文期の河川では矢板列を２カ所検出した。くぼみ状遺構には炭、焼土が集中する炉状の遺構がある。

出土遺物　中世の溝からは土師器、同安窯系の青磁、古代末の河川からは須恵器、土師器、黒色土器等が出土した。弥生前期、刻目突帯文期土器、石鏃、石剣、打製石斧、土製紡錘車等が出土した。また、古代の河川から後漢鏡の破片が出土したが、流れ込みと考えられる。

まとめ　今回の調査では縄文時代晩期から中世までの遺構を確認した。晩期では２次調査に引き続き矢板列を検出し、さらに炉状の集落の一部と考えられる遺構を確認した。この時期の遺構の検出例は少なく、１kmほど北の石丸古川遺跡と同様に、室見川下流域に水田を営む小規模な集落が進出したと考えられる。次に明確な遺構を伴うのは古墳時代で、小規模な集落を営む。古代以降は当地は水田として利用されたと考えられ、条理に沿った区画が成されるのは中世以降と考えられる。

2003年度報告書刊行予定。



1. 調査地点の位置（91　橋本　0390　1：8000）

2. 調査区全景（南から）

3. 矢板列（南東から）

0137 飯倉Ｂ遺跡群第１次調査報告（ＩKR－Ｂ－１）

１　調査に至る経過

平成13年５月29日付けで、城南区七隈１丁目1277の1他における開発事前審査願いが福岡市に提出され、同年10月12日に試掘を行った結果、遺構・遺物が発見されたため、発掘調査を実施した。発掘調査は米倉秀紀が担当し、平成13年11月12日～11月16日に行った。調査面積は92㎡である。

２　位置と環境

飯倉遺跡群は早良平野の東側を南北に細長く伸びる低丘陵上に立地する。Ｂ遺跡はその低丘陵の北端近くにあり、調査区は丘陵の東端に位置している。調査地の南側には谷が入り、南斜面の谷際に位置する。調査区北西側には丘陵が昔のままで残っている。Ｂ遺跡では初めての調査である。現況は宅地で、標高約　ｍを測る。調査区内は元々南向き斜面だが、北半は削平され平坦になっている。

３　検出遺構（図２・３、写真１・２）

検出した遺構は溝状遺構３基、住居址状の遺構１基とピットである。北側は削平が著しく、特に丘陵に近い北西隅はかなりの削平を受けている。

①　溝

ＳＤ０１

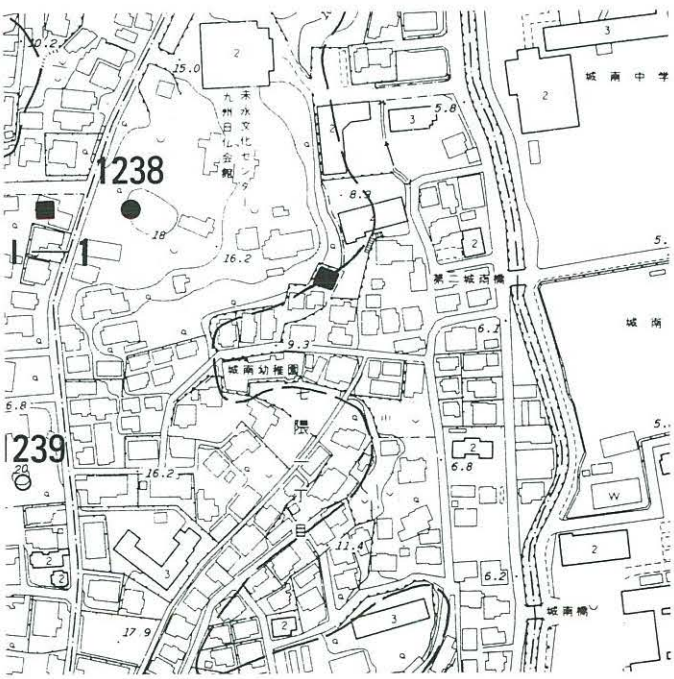
調査区内から始まり北から南に下る溝である。山側が狭く、谷側に広い。床面も凹凸が激しく、最下部には砂礫がたまっており、斜面を下る雨水の流路であろう。最大幅2.3m、最大深　cmを測る。調査区北側に続かないのは、削平のためと思われる。

ＳＤ０２

調査区北東済みで検出した。幅約1.2cm、深さ約30cmを測る。埋土はＳＤ０１の上部に近い。土師器・須恵器の細片が数点出土した。

ＳＤ０３

ＳＤ０１とＳＤ０３の間で検出した。ＳＤ０１と同じく、谷側が広い。最大幅約１ｍ、深さ約20cmを測る。埋土はＳＤ０１上部に近い。土師器・須恵器の細片が数点出土した。



1．調査地点の位置（73　茶山　0243 左1：8000　右１：400）

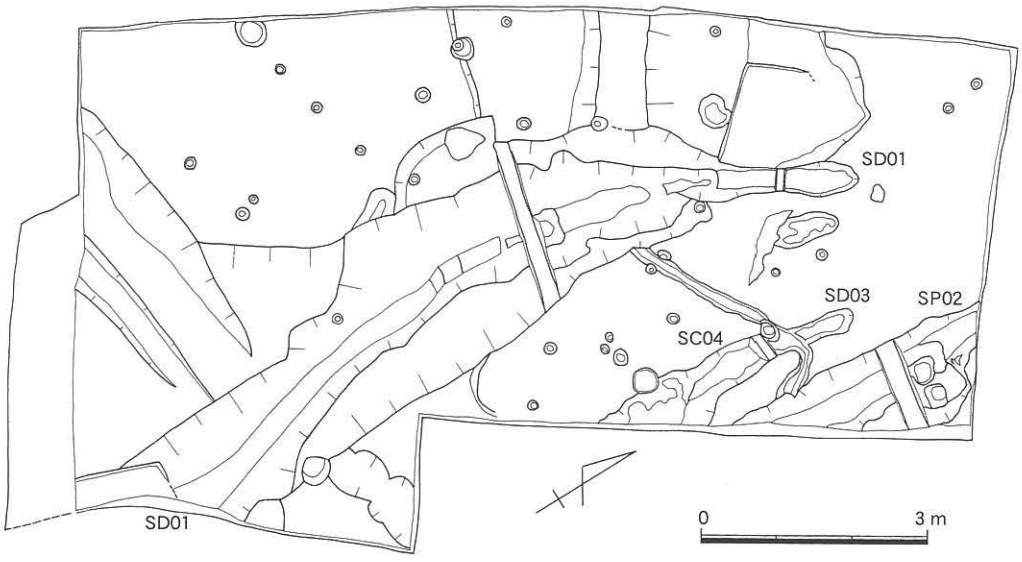


図２　遺構配置図（１／100）

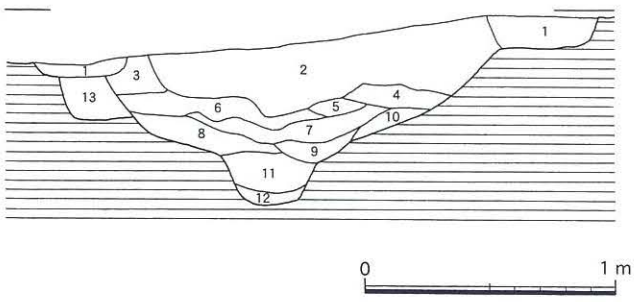
②　住居址

ＳＣ０４

ＳＤ０１とＳＤ０３の間で検出した狭い溝状遺構であるが、形態から住居址の壁溝と思われる。規模等は不明で、出土遺物もない。ＳＤ０１で出土した古墳時代遺物がこの住居のものかもしれない。

４　出土遺物（図４）

土師器・須恵器・瓦がコンテナ３箱出土し、そのほとんどはＳＤ０１の出土である。図示したのはいずれもＳＤ０１の出土で、この他、土師器の把手、土錘片などが出土している。時期が分かるものでは奈良時代が多く、次いで平安時代である。１は須恵器坏蓋で推定口径13cm前後を測る。外面ヘラケズリである。２は須恵器坏身で復元口径8.6cmを測る。調整は回転ナデ。３は須恵器蓋で低平な宝珠形つまみである。４・５は須恵器の高台付碗で、ともに高台端部が外方向に跳ね上がる。４は底径8.4cm、５は8.9cmを測る。６は須恵器高坏で筒部の最上部の径は3.2cmを測る。坏部下部はカキ目を施している。７はＢ種黒色土器の碗で高台径9.7cmを測る。内面はほぼ全面剥離しており、高台の先端が尖っているのは摩滅による可能性が高い。８は須恵器の甕で口径18.5cmを測る。胴部外面には平行叩きを施し、内面には同心円当具痕が残る。９は須恵器の把手で壺の把手と思われる。外面に格子目叩きを、内面には同心円当具痕を施している。図示した以外に瓦の小片が１点出土した。瓦は黒色に近く、内面に眼の細かい布目が確認できる。外面は縄目のようだが、摩滅している。



1．　撹乱
2．　黄褐色土
3．　明黄褐色土
4．　にぶい黄褐色小礫まじり土
5．　橙色粘質土
6．　④に⑤ブロック含む
7．　明黄褐色土
8．　にぶい黄橙色土
9．　黄橙色小礫まじり土
10．　明黄褐色礫まじり土
11．　黄橙色礫まじり土
12．　橙色礫まじり土
13．　明褐色土

図３　SD01土層断面図（１／30）

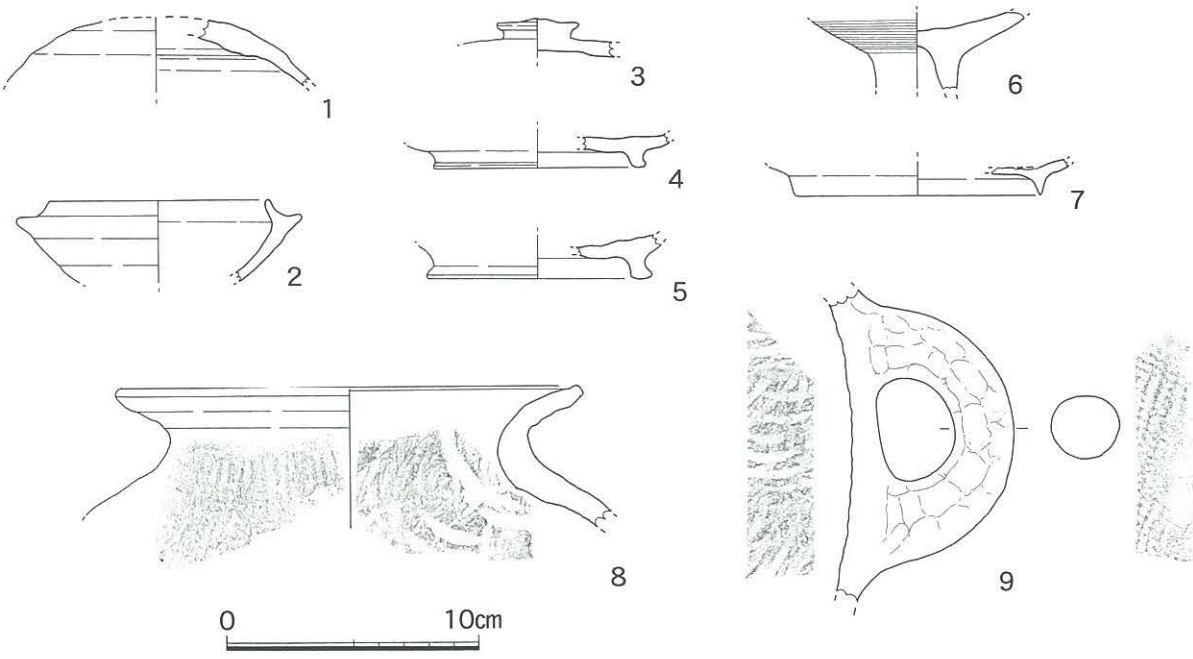


図４　出土遺物実測図（１／３）

５　まとめ

今回の調査は飯倉Ｂ遺跡では初めての調査であったが、小面積で、かつ谷際であったため、住居址状の遺構１基の他は、雨水を流すためとと考えられる溝のみの検出であった。ＳＤ０１から出土した遺物は大きく３時期に分けられる。１・２は古墳時代後期、３～５は奈良時代、７は平安時代後半である。１点出土した瓦は、その特徴から平安時代後期以降のものと考えられ、７と同一時期のものであろうか。量的に最も出土量の多いのは奈良時代の須恵器である。これらから考えると、ＳＤ０１は奈良時代に開削され、平安時代後期に埋没したと言える。溝内から出土した古墳時代須恵器は住居址に伴うものかも知れない。

調査としては、以上のように小さな調査であったが、飯倉Ｂ遺跡初めての調査で、古代の瓦の出土は飯倉遺跡群では初めてであり、当調査区北西側に残る台地上に該期の建物が存在している可能性が出てきたことから、今後の調査に期待がもてる。

写真１．調査区全景（北から）

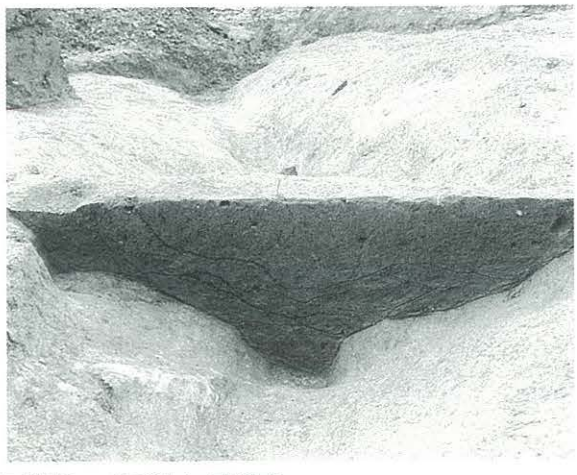


写真２．SD01土層断面

0138 羽根戸原Ｃ遺跡群第５次調査（HNC－５）

所在地	西区羽根戸５７６－３他	調査面積	187㎡
調査原因	道路拡幅工事	担当者	藏冨士寛
調査期間	2001.11.19～2002.1.11	処置	記録保存

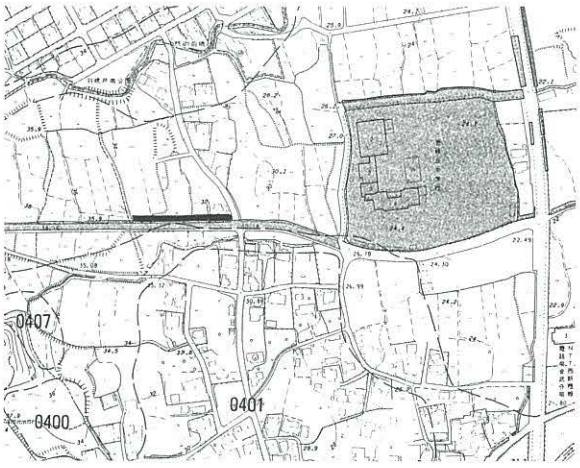
位置と環境　羽根戸原Ｃ遺跡群は飯盛山北麓の中位扇状地に立地する。当調査は第３次調査の北側に沿った、幅３ｍ、長さ100ｍほどの調査対象地における調査である。

検出遺構　調査区は西側から東側へ向かって緩やかに傾斜している。今次調査では計２面の調査を行っている。１面中世か溝、土坑、ピット群古墳終末～奈良土坑、ピット群２面古墳前期住居、ピット群注目すべき遺構として、第１面では径50～70cm程の柱穴群、第２面では２軒の竪穴住居を挙げることができるだろう。柱穴群では、径20cm程の柱痕跡を残すものも存在する。埋土は大きく２つに分けることができ、少なくとも２時期にわたる建物群が営まれていたのであろう。小範囲の調査であったため、建物の状況は不明。また、竪穴式住居はいずれも方形を呈し、それぞれ一辺７ｍ、4.7ｍを測る。

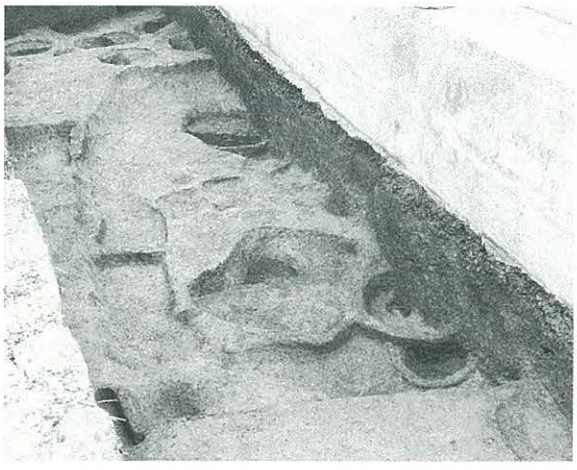
出土遺物　コンテナケースで30箱ほど。

まとめ　今回の調査で、羽根戸原C遺跡では少なくとも２面の遺構が存在することが明らかとなった。いずれの遺構面においても、遺構の密度は高い。また、その上を覆う遺物包含層には弥生時代中期を主体とした遺物が多く含まれている。周辺にはかなりの規模で、各時代の集落が営まれていたのだろう。

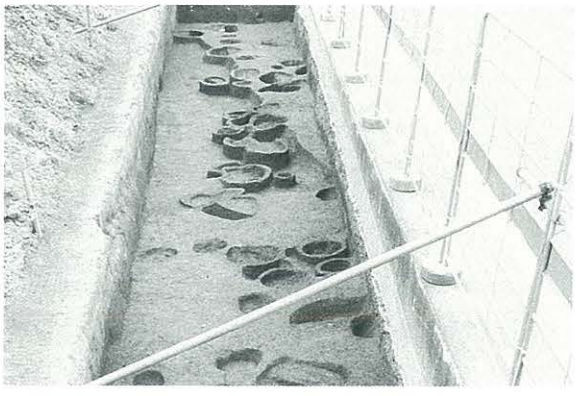
報告書は2003年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（105　叶岳　0399　1：8000）



2．竪穴住居（西から）



3．竪穴住居・柱穴群（西から）

0139 麦野Ａ遺跡群第11次調査（MGA－11）

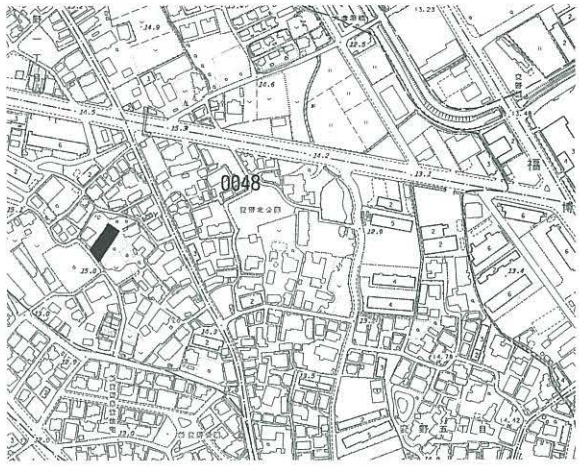
所在地	博多区麦野４丁目11-5	調査面積	130㎡
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	本田浩二郎
調査期間	2001.11.20～12.1	処置	記録保存

位置と環境　麦野Ａ遺跡は福岡市博多区の南端に位置している。周辺には麦野Ｂ・Ｃ遺跡、雑餉隈遺跡、南八幡遺跡、井相田遺跡などが展開する。井相田遺跡を除く、これらの遺跡は近接する舌状台地上の丘陵上に点在するが、その地形的な境界は現在のところ判然としない。

検出遺構　調査区の現状は畑で、遺構面の標高は15.5m前後を測る。調査では、竪穴住居３軒、溝１条、落し穴状土坑１基、建物としてはまとめきれない柱穴群を検出した。竪穴住居は平面形が方形で、一辺３m前後を測るもので８世紀後半から９世紀初頭にかけての時期が考えられる。周辺でも同時期の住居が多く検出されており、一体に大規模な集落が存在していたことが推定されている。落し穴状土坑は上面では崩壊のため、円形プランを呈していたが、下部では１m×60cm前後の長方形の平面形をとる。遺物の出土はなく、時期は特定できないが、近接する麦野Ｃ遺跡においても検出されており、付近が狩猟場として利用されていたものと考えられる。

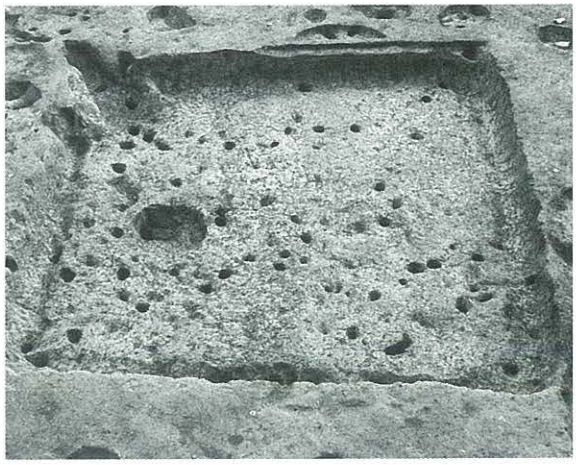
出土遺物　出土遺物はコンテナケース１箱分の土師器・須恵器が出土した。

まとめ　本調査地点付近は８世紀後半から９世紀初頭にかけての大規模な集落の一部であり、今回の調査もその一端を示すものである。なお、この集落の形成の契機については不明な点が多く、今後の資料の増加と検討を必要とする。



1．調査地点の位置（12　麦野　0048　1：8000）

2．調査区全景（南西から）



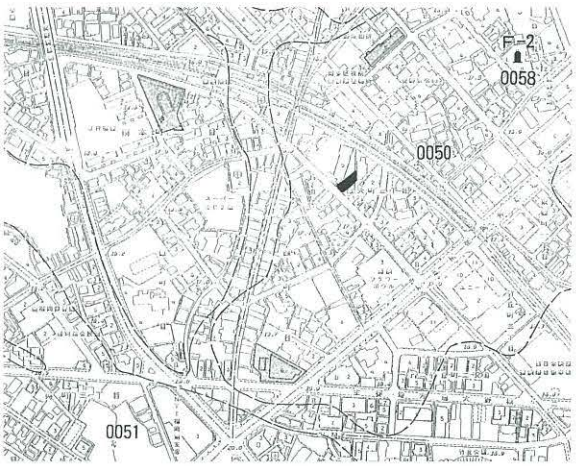
3．竪穴住居完堀状況（西から）

0140 麦野C遺跡第6次調査（MGC－6）

所在地	博多区銀天町13－2他	調査面積	32㎡
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	長家伸
調査期間	2001.11.19～11.27	処置	記録保存

位置と環境　麦野C遺跡は福岡平野の中央を南北に延びる洪積丘陵上に立地する。調査地点は現況標高17.6mの平坦な宅地である。北側隣接地では第3次調査が行われ、古代の竪穴住居跡、土坑、溝、ピットが確認されている。

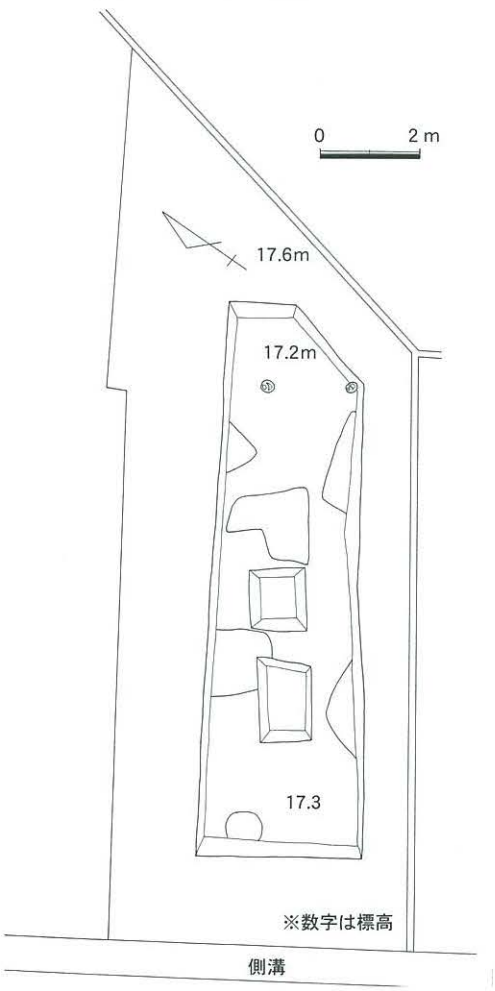
遺構・遺物　遺構面は表土直下のローム層上面であり、標高17.2mでほぼ平坦である。ローム層は東半部分では鳥栖ローム層であるが、西側半分では八女粘土層が露出している。遺構面は削平・撹乱により遺存状態は不良である。検出遺構は調査区北東隅で径20cm強、深さ25cm程度のピット2基を確認するのみである。埋土はいずれもしまりのない黒色土である。調査による遺物は出土していないため時期不詳であるが、埋土や隣接する3次調査の結果から古代の遺構である可能性が考えられる。



1．調査地点の位置（12　麦野　0050　1：8000）

3．西半全景（西から）

4．東半全景（東から）



2．調査区全体図（1／150）

0141 博多遺跡第134次調査（HKT－134）

所在地	博多区上呉服町12―24	調査面積	23㎡
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	長家伸
調査期間	2001.11.28～11.30	処置	記録保存

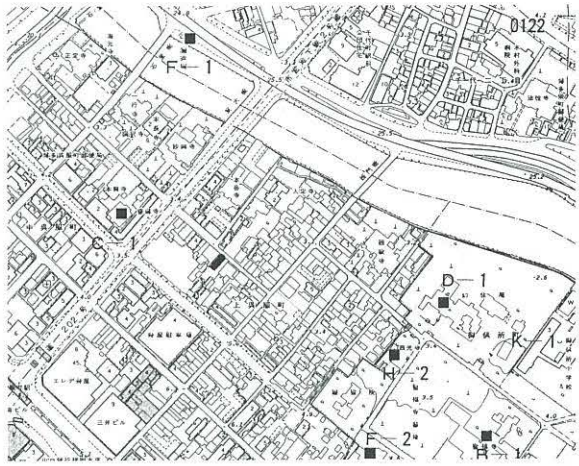
位置と環境　博多遺跡は博多湾岸に形成された砂丘上に立地する。本調査地点は「息浜」の東側縁辺部分にあたる。周辺の調査事例は比較的少ない地域である。

検出遺構　今回の調査では明確な遺構は検出していない。基盤層は砂と粘質土が互層状態を示す部分で、調査区南西側で標高1.8m、北東側で1.2mを測り、傾斜の状態を伺うことができた。ここからは中世前半代の陶磁器が出土している。またこの上層では低地側に向かって土砂を投入している状況が確認できた。

出土遺物　遺物は土師器、陶磁器などコンテナ３箱分出土した。

まとめ　対象地は中世以降の埋め立てにより生活域を拡大してきた地点である。埋め立ての工法等は不明瞭であるが、博多遺跡群縁辺部分の状況の一端を明らかにした。

調査報告書は2003年度以降刊行予定である。



1．調査地点の位置（41 千代博多 0121 1：8000）

2．南西側土層（西から）

3．北東側土層（西sから）

0142 那珂遺跡第82次調査（NAK－82）

所在地	博多区那珂１丁目18－１	調査面積	80㎡
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	長家伸
調査期間	2001.12.３～12.21	処置	記録保存

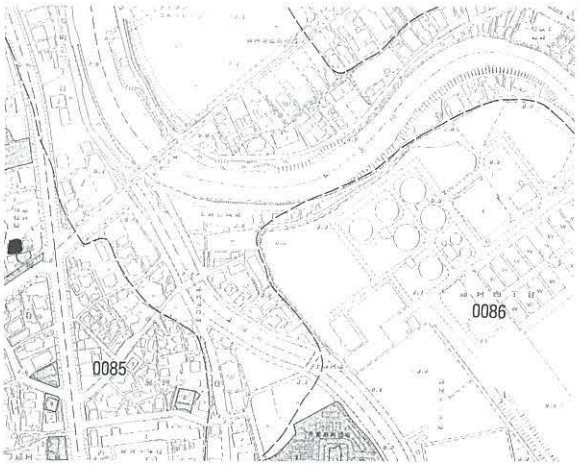
位置と環境　那珂遺跡は福岡平野の中央を南北に延びる洪積丘陵上に立地する。調査地点は遺跡範囲の中央東端付近に位置する。現況標高は8.2mである。

検出遺構　遺構面は表土直下のローム層上面で、標高８mを測りほぼ平坦である。検出遺構は弥生時代後期の井戸１基、竪穴住居跡１棟、古墳時代後期の竪穴住居跡２棟、溝１条、中世の溝１条その他土坑、ピットである。弥生時代の竪穴住居跡はベッド状遺構を有し、古墳時代の竪穴住居には竈が設置されている。また中世の溝は幅８m程度に復元でき、土層観察からは流水の状況は認められない。

出土遺物　遺物は土師器、須恵器、陶磁器などがコンテナ12箱分出土した。

まとめ　今回の調査では弥生時代後期・古墳時代後期の生活遺構の広がりについての一端をうかがうことができた。また中世の大規模な溝は機能・用途が不明瞭であり、周辺の調査事例を待ちたい。

調査報告書は2003年度以降刊行予定である。



1．調査地点の位置（23　雀居　0085　1：8000）

2．西半全景（東から）

3．東半全景（南東から）

0143 椎原Ａ遺跡群第１次調査（SBA－１）

所在地	早良区椎原大字原田他	調査面積	200㎡
調査原因	中山間地域整備事業(遺構確認調査)	担当者	常松幹雄
調査期間	2001.11.5～11.9	処置	記録保存

位置と環境　椎原Ａ遺跡群は、福岡市の西部域にあたる早良平野の南端に位置する。また本遺跡は標高200～230ｍの山間傾斜地に立地し、周辺には椎原Ｂ遺跡群や脇山遺跡群などが所在する。

近世以降の水田遺構および縄文時代早期から前期にかけての遺物包含層が確認された。

検出遺構　整備が行なわれる約37,000㎡の地内において試掘調査を実施した。調査はバックホーで厚さ２０～３０㎝の表土を除去した後、人力による精査を行い遺構の検出にあたった。

対象地内２６地点で計２８本の試掘トレンチを入れた結果、斜線部分の圃場において縄文時代早期から前期にかけての遺物包含層が確認された。縄文時代の遺物は、耕作土下４０cmの褐色粘質土中に包含されていた。この褐色粘質土の下にはプライマリーな礫層や砂礫層の堆積が見られることから、遺物包含層は、流れ込みによる二次的な堆積とは考えがたい。

出土遺物　縄文時代早期から前期にかけての土器や石器が検出された。主なものに隆起線文土器、押型文土器、磨石、石鏃などがある。遺物量はパンコンテナ１箱分。

まとめ　以上から遺物包含層が確認された圃場の立地を考慮すると、南側の丘陵から派生する緩やかな斜面で、水源である椎葉川にも近く、集落を営むのに適した立地だったようである。昨年の確認調査では東接する椎原Ｂ遺跡において押型文土器が採集されており、先史時代の情報は徐々に蓄積されてきているといえよう。

1．調査地点の位置（19 小瓜･椎原 9785 1：8000）

2．試掘調査トレンチ（西から）

3．調査区全景（南から）

0144 浦江遺跡群第５次調査（URA-5）

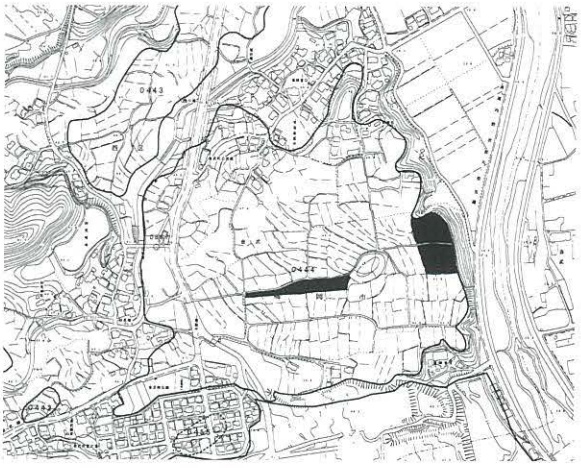
所 在 地　西区大字金武地内
調査原因　金武地区圃場整備
調査期間　2001.11.27～継続中
調査面積　約30,000㎡
担 当 者　常松幹雄・米倉秀紀
処　　置　記録保存

位置と環境　早良平野を南北に貫通する室見川の中流西岸に位置する。川から　mは高い河岸段丘上に立地する。対象面積約13万㎡と広大で、最も高い西側の標高約51m、東側の標高は41mを測る。

検出遺構　13年度は試掘と道・水路、地下げ部分の２カ所計約6,000㎡調査を行った。室見川に最も近い調査区（１区）では、弥生時代中期の周溝を有する方形区画墓や弥生時代前期の住居・土坑などを検出した。区画墓は約半分がすでになくなっているが、甕棺約20基を検出した。地内のほぼ中央の調査区（２区）では弥生時代中期後半の溝と中世の建物群を検出した。この溝は台地の西から東にうねうねと貫流する用水路と考えられる。年度末直前には地内北西側にある直径25m前後の大型円墳（浦江１号墳）の調査を開始した。

出土遺物　１区では甕棺の他は弥生土器などコンテナ20箱が出土した。特殊遺物としては、古墳時代の土坑から土製模造鏡２点などが出土した。２区では溝の中に大量の廃棄土器が出土し、コンテナ100箱を数える。

まとめ　調査本体は13年１月に開始した。13年度は3ヶ月のみの調査のため、遺跡全体の状況はまだよくわからないが、この年度だけで大きな成果があった。１区では区画墓が発見されたが、一辺10m近い大きなもので、溝幅・深さも大きく、盛土の存在が考えられる。甕棺のうち甕＋甕の組み合わせは１基のみで、しかもいずれの甕棺も大型のものがほとんどなく、副葬品も皆無であった。２区の溝は東西にかなり長く貫通する用水路で、水田に関連するものと思われるが、現地形を見る限り、弥生時代の水田は見つかっておらず、今後の周辺の調査によって明らかになろう。金武圃場整備調査は場所を変え、５ヶ年継続する予定である。



１．調査地点の位置（94 金武 0444 1：16000）

２．１区全景（北から）

３．２区全景（東から）

0145 千里向川原遺跡第１次調査(SMK－１)

所在地	西区大字千里字天蓋190番３	調査面積	58㎡
調査原因	個人住宅建設	担当者	大庭康時・大塚紀宜・田上勇一郎
調査期間	2001.12.14	処置	記録保存

調査にいたる経緯　平成13年11月14日、永渕一美氏より個人専用住宅建設のための埋蔵文化財事前審査申請書が提出された。当地は千里向川原遺跡内に位置し、掘車庫が計画されているため、事前に確認調査を行うこととした。しかし、11月29日確認調査当日現地に着くと、すでに掘車庫部分の掘削が行われており、断面に遺構が露出してた。そのため、12月14日内容確認のための緊急調査を行うこととなった。

調査は掘削が行われた部分の遺構残存状況の確認と、断面に露出した遺構の内容確認について行った。

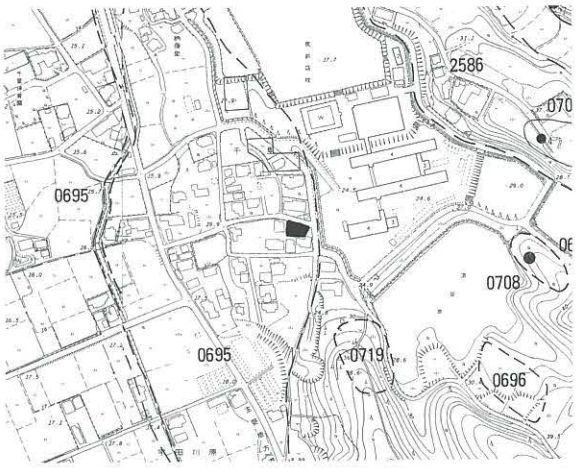
位置と環境　千里向川原遺跡は高祖山から北西に伸びる丘陵の先端部に位置する。調査地点は標高23m程度で緩やかに北西に下っている。周辺は宅地化が進んでいる。

調査の記録　調査の結果、掘削が行われた部分には、遺構は残存していないことが確認された。断面に露出していた遺構については、断面の記録をとった後、幅１mほど遺構面まで下げ、平面プランの確認を行った。

南壁には３基の遺構がみられた。西端は南北方向に延びる溝状遺構で、幅1.0m、深さ0.5mを測る。中央は円形土坑で、径0.8m、深さ0.5mを測る。断面の観察では東側で１基のピットを切り、西側で１基のピットに切られる。東端は略円形の土坑で、断面露出部分では深さ0.6mを測る。その他平面で確認した遺構に土坑３基、ピット３基がある。

東壁には４基の土坑が切り合っている。北側は段落ちがあり、遺構確認面まで下げなかったため平面プランの確認ができていない。その他ピット１基を平面プランで確認した。

各遺構からは弥生土器の破片が出土している。



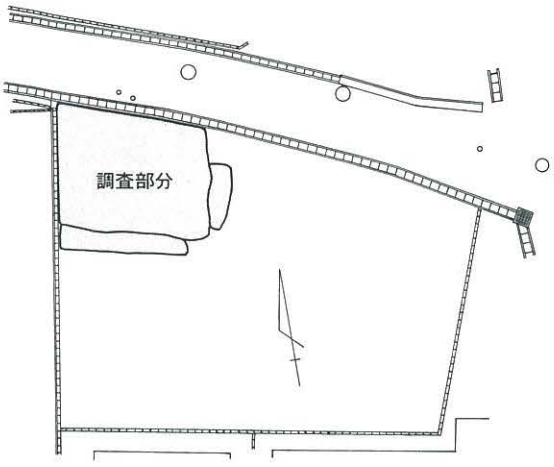
１．調査地点の位置（121　飯氏　0695　1：8000）

２．調査区南壁

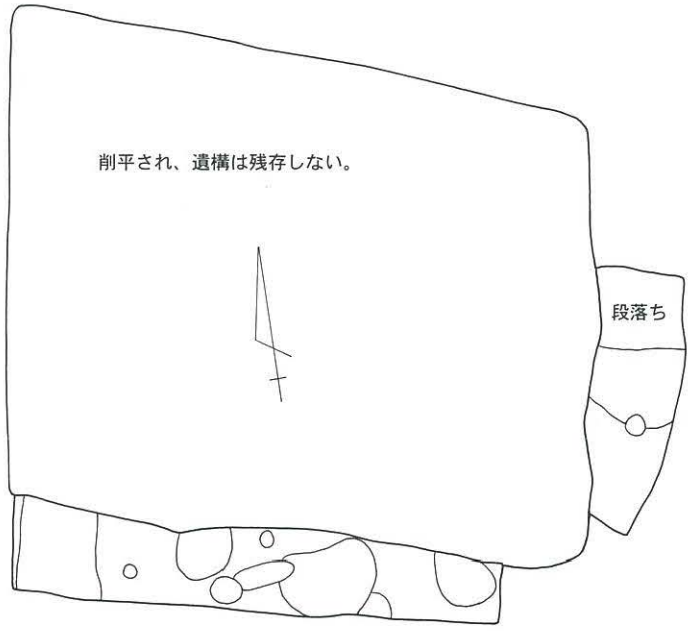
３．調査区東壁

まとめ

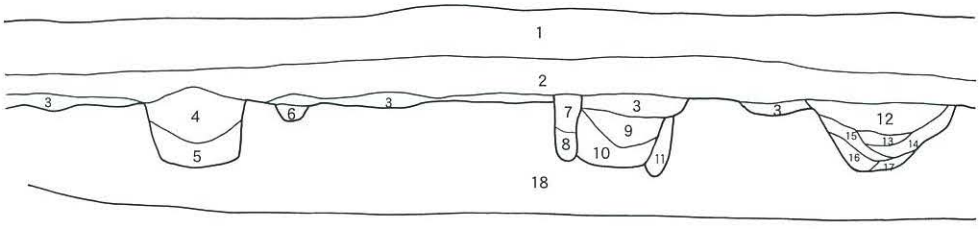
これまで調査例が少なかった千里向川原遺跡の一端が明らかになった。今回は残念ながら調査前に遺構が削平されてしまったが、弥生時代の遺構が濃密に分布していることが判明した。今回の調査地点は遺構面が現況道路より高く、今後周囲の土木工事には注意が必要である。



4．調査区位置図（1：400）

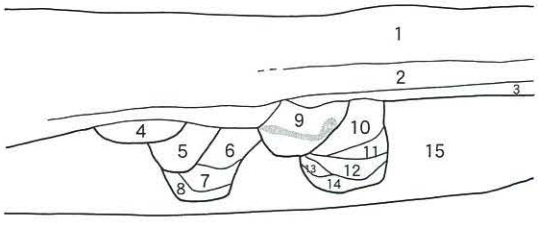


5．遺構分布図（1：100）



6．調査区南壁土層（1：60）

1．真砂盛土。
2．盛土。
3．暗茶褐色土、炭化物、土器粒含む。
4．暗茶褐色土、炭化物、土器粒含む。ロームブロック多く含む。
5．暗茶褐色土、4より暗い。炭化物、土器粒、ロームブロック含む。
6．暗茶褐色土、炭化物、土器粒含む。
7．暗茶褐色土。
8．明褐色土、暗茶褐色土、炭化物含む
9．暗茶褐色土、炭化物、土器粒含む。ロームブロック多く含む。
10．暗茶褐色土、9より暗い。炭化物、土器粒、ロームブロック含む。
11．暗茶褐色土、炭化物含む。
12．暗茶褐色土、炭化物、土器粒、ローム粒含む。
13．暗茶褐色土、12より明るい。炭化物、土器粒、ローム粒含む。
14．暗茶褐色土、12より明るい。炭化物、土器粒、ロームブロック含む。
15．暗茶褐色土、13に似る。炭化物、土器粒、ローム粒含む。
16．暗茶褐色土、15に似る。炭化物、土器粒、ロームブロック含む。
17．暗茶褐色土、炭化物、土器粒、ローム粒含む。
18．明褐色粘土、（ローム）。



1．真砂盛土。
2．盛土。
3．暗茶褐色土、炭化物、土器粒含む。
4．暗茶褐色土、炭化物、土器粒、ローム粒含む。
5．暗茶褐色土、炭化物、含む。ロームブロック多量含む。
6．黄褐色土、茶褐色土混じる。
7．茶褐色土。
8．黒褐色土、ロームブロック含む。
9．暗茶褐色土．炭化物含む。アミ部土器片多い。
10．暗褐色土、9より明るい。炭化物含む。
11．暗茶褐色土、炭化物含む。ロームブロックが多く含む。
12．暗茶褐色土、10より明るい。炭化物、土器粒、ロームブロック含む。
13．明褐色土、炭化物含む。
14．暗茶褐色土、炭化物、土器粒含む。12よりロームブロック多く含む。
15．明褐色粘土（ローム）

7．調査区東壁土層（1：60）

0146 那珂遺跡群第83次調査（NAK-83）

所　在　地　博多区那珂２丁目213-2、214-1、214-3、221

調査原因　共同住宅建築

調査期間　2001.12.20～2002.1.10

調査面積　233㎡

担　当　者　吉武　学・本田浩二郎

処　　置　記録保存

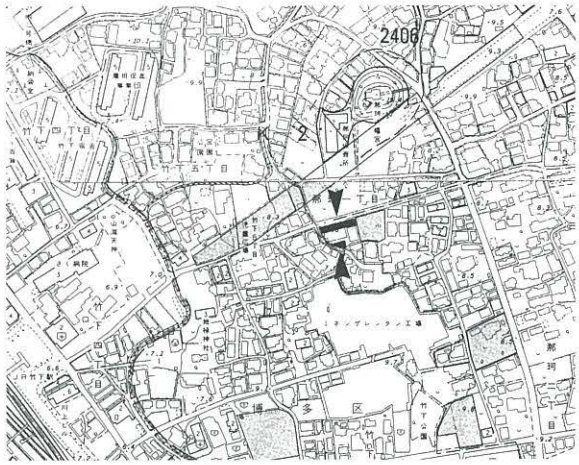
位置と環境　御笠川と那珂川に挟まれた洪積丘陵上に位置する。北側に那珂八幡前方後円墳が近接し、周辺には古墳時代前期の方形周溝墓が複数存在することが、これまでの調査で明らかとなっている。調査地は方形周溝墓２基を確認した第62次調査地点の南隣りにあたる。調査前は宅地、それ以前は畑地であった。地表面は周辺の道路面より１m以上高く、宅地造成工事によって削平される申請地の北辺部と南端部に対して調査を実施した。

検出遺構　古墳時代前期の方形周溝墓１、弥生時代後期～古墳時代後期の溝２・土坑９・ピット、古代の井戸１、戦時中の防空壕跡などを検出した。土坑には竪穴住居の可能性のあるものが含まれる。

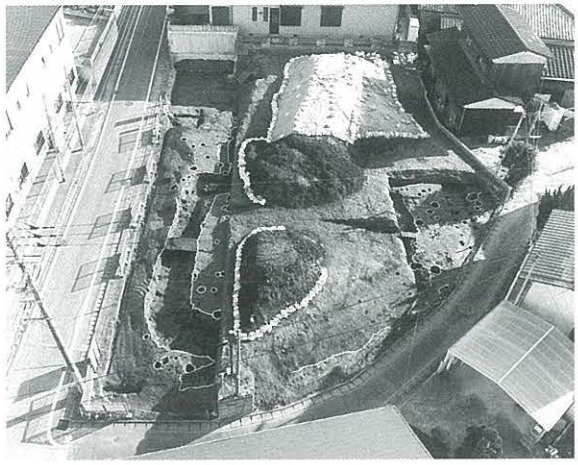
出土遺物　古式土師器が主体を占めるほか、弥生土器、土師器、須恵器、瓦、陶磁器等がコンテナケースにして約10箱出土した。

ま　と　め　方形周溝墓は、溝の内法で東西9.6m×南北10.7mを測り、周辺でこれまで調査したもののうち、最も小型の部類に属し、かつ最も新しい段階のものとみられる。遺物は主に溝の中位層から出土したが、北東コーナー部では山陰系の壺形土器１個体が横倒しになった状態で出土し、祖霊祭祀の一端を示した。方形周溝墓の主体部は今回の調査対象範囲からはずれているが、第62次調査結果から推して、残念ながら削平消滅しているものと考えられる。

なお、その後に行われた追加調査により、この周溝墓の東側には台形状に張り出す溝がとりつき前方後方形になることが確認された（0217、那珂遺跡群第84次調査）。



1．調査地点の位置（38　塩原　0085　1：8000）



2．調査区全景（西から）

3．周溝内の土器の出土状況（北東から）

0147 博多遺跡第135次調査（HKT－135）

所 在 地　博多区店屋町95番２
調査原因　個人専用住宅建設
調査期間　2002.１.10～３.20
調査面積　72㎡
担 当 者　長家伸
処　　置　記録保存

位置と環境　博多遺跡は博多湾岸中央部の御笠川と那珂川にはさまれた古砂丘上に立地する。調査区は砂丘西側が入り江状に抉り込んだ北側斜面上に立地している。周辺の調査では中世前半代を中心として豊富な遺構・遺物が確認されている。

検出遺構　調査は表土を１m前後除去した標高４mの黄褐色土上面を１面として地山砂丘面まで８面の調査を行った。それぞれの検出遺構の概要は以下の通りである。

１面～３面（標高４～3.4m近世）

鋳造関連遺構と考えられる土坑・焼土の広がりが見られる。

４～６面（標高3.1～2.5m中世後期）

土坑・ピットが主体となる。鍛冶関連の遺物が出土している。

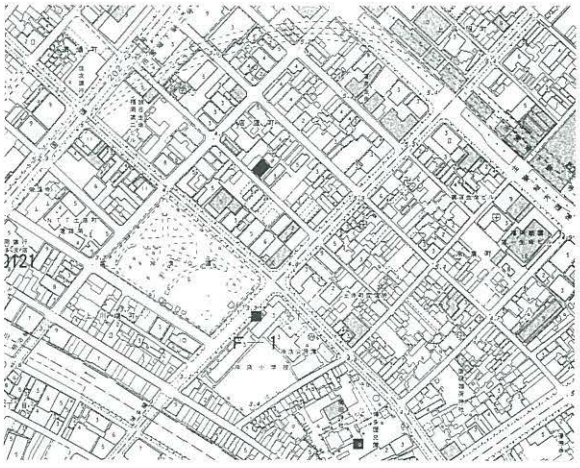
７・８面（標高2.2～1.1m古代末～中世前半）

井戸・土坑・ピットを検出する。地山の砂丘面は北側で1.1m、南側で1.9mを測り、砂丘面が北側に傾斜していく状況を伺うことができる。

出土遺物　土師器・須恵器・陶磁器・鉄滓等がコンテナ75箱分出土している。特に中世の陶磁器類については白磁が主体を占め、青磁の出土は比較的少量となる。

まとめ　本調査では古代末に始まる砂丘入り江部分の状況の一部を明らかにすることができた。また中近世の鉄器生産に関連する遺物がまとまることも注目される。

調査報告書は2003年度以降刊行予定である。



1．調査地点の位置（49　天神　0121　1：8000）

2．近世遺構面（東から）

3．西壁土層（東から）

0148 青木遺跡第４次調査（AOK－４）

所　在　地　福岡市西区今宿東1丁目121、122－1

調査原因　共同住宅建設

調査期間　2002.1.7～2.8

調査面積　373.8㎡

担　当　者　久住猛雄

処　　置　記録保存

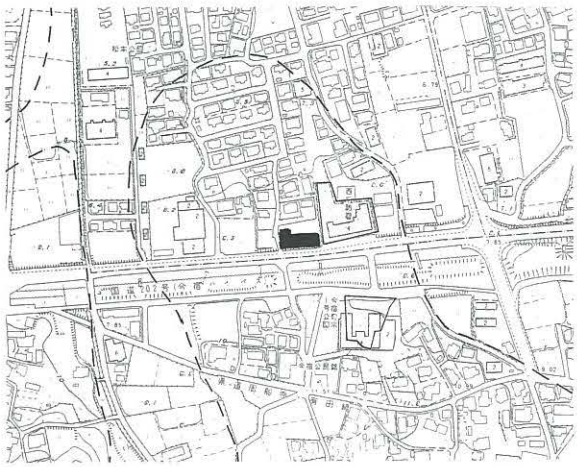
位置と環境　青木遺跡は、今宿平野中央部の標高10m前後の舌状丘陵上に位置する。過去３回の調査では、弥生時代と中世を主とする遺構・遺物が検出されている。調査地は遺跡範囲の北東側に位置する。遺構検出面の標高は7.8~8.3mである。

検出遺構　検出した遺構は、柱穴群（掘立柱建物群）、土坑19基、溝4条、竪穴住居１棟などである。遺構の多くは、出土遺物の検討から近世（江戸時代）中頃（18世紀前後）、および中世後期から近世初頭（16世紀～17世紀前半）のものが認められる。なお竪穴住居は古墳時代前期前半頃である。現場においては、近世の遺構は中世の遺構の覆土と区別不可能であったため、調査の対象としている。土坑としたもののいくつかは柱穴の可能性があり、また井戸や墓を含むであろう。柱穴群は掘立柱建物を構成し、その数は少なくない。柱穴は特定の柱筋にかたまって、重複して検出されたものが多く、同一の場所での建て替えが示唆される。溝は、調査区の東端を南北に走る細い溝（SD01）と、西端を南北に走る幅広の溝がある。屋敷地の境界を示す溝であろうか。西側の溝は３条が重複し、数度の掘り直しの結果であろう。東側のSD01は中世後期～末の可能性がある。

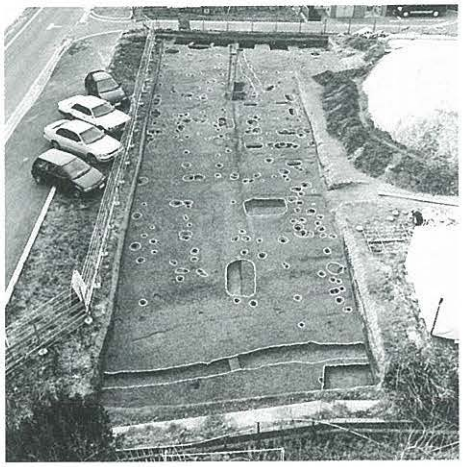
出土遺物　出土遺物は、中世末～近世初頭の輸入陶磁器、近世の陶磁器、中世～近世の土師器、古代の土師器・須恵器、古墳時代前期の土師器がある。

ま　と　め　今回の調査では、主に中世末から近世中期の集落を確認した。特に18世紀にまとまった屋敷群が存在し、在地の有力農民層の居住が考えられる。また、古墳時代前期の遺構の確認は青木遺跡では初である。今回の調査により、今宿青木遺跡の各時代の集落の変遷がより明らかになった。

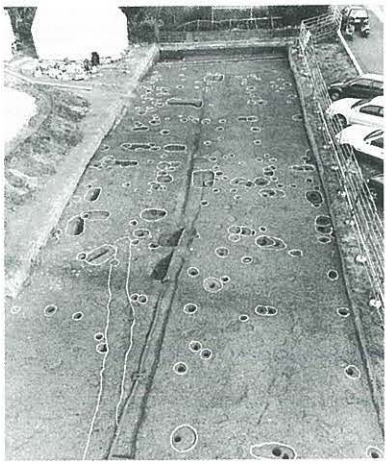
報告書は2002年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（11　今宿　0628　1：8000）



2．調査区全景（東から）



3．調査区（西側除く）建物群（西から）

0149 博多遺跡群第136次調査（HKT－136）

所在地	博多区博多駅前２丁目184	調査面積	52.0㎡
調査原因	専門学校校舎建設	担当者	本田浩二郎
調査期間	2002.１.17～２.15	処置	記録保存

位置と環境　博多遺跡群は、中世都市「博多」を主として、弥生時代から近世、さらに現代まで続く複合遺跡である。地理的には、玄界灘に面する博多湾岸に形成された砂丘上に位置している。砂丘は形成された年代によって三列に分けられ、本調査地点の所在する南側の砂丘列は縄文時代中期以降に形成されたものである。

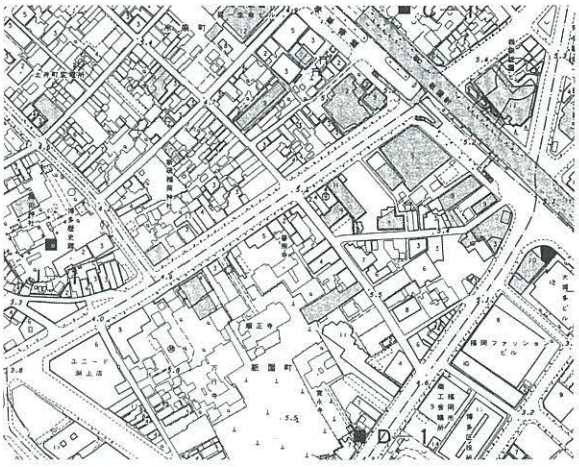
検出遺構　調査地点の現状は宅地であり、現地表面の標高は5.30m前後を測る。調査は対象地が狭く、排土処理が困難なため、１区・２区に分けて行ったが、既存建物の地中梁が残存し、また建築廃材が大量に投棄されていたために最終的な調査面積は16㎡程度となった。

調査は１区で３面、２区で５面の遺構面を設定して行った。調査地点付近は中世以降では耕作地として利用されており、それ以前の遺構・遺物が検出される。断片的にであるが、古代の溝・土坑などの遺構を検出し、２区５面として遺構面では、砂丘が南に落ち込んでいる状況が検出され、調査地点付近が砂丘南端部近くに位置していることが確認された。

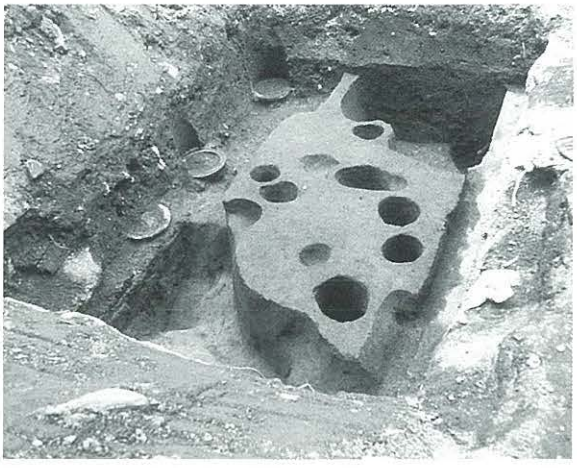
出土遺物　遺物はコンテナケース５箱の弥生土器・土師器・貿易陶磁器などが出土したが、古代の須恵器が点数的に最も多く出土したことが注目される。

まとめ　調査区付近は古代に属する遺物の出土が多く、何らかの施設があったことが推測されているが、本調査地点の成果もそれを裏付けるものであろう。

なお、報告書は2002年度に刊行予定である。



１．調査地点の位置（49　天神　0121　1：8000）



２．２区１面全景（南から）

３．２区３面全景（北から）

0150 三宅廃寺第２次調査（MKG－２）

所在地	南区南大橋１丁目1157外	調査面積	1,023.5㎡
調査原因	分譲住宅地造成	担当者	吉武　学
調査期間	2002.1.15～5.27	処置	記録保存

位置と環境　那珂川西岸の沖積地上にあり、北側と西側を低丘陵に囲まれた谷部に立地する。第１次調査地点の西隣にあたり、三宅廃寺推定地の北半部に相当する。県営団地跡を専用住宅として分譲するに先立ち、幅４ｍの道路部分のみを対象として発掘調査を実施した。

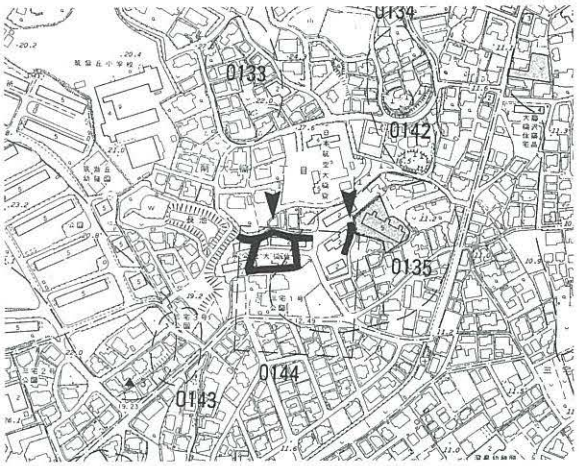
検出遺構　遺構面は地表から0.4～1.2mで、調査区の北西で浅く、南東へ向かって深くなる。中世～近世の水田造営によって削平され、団地の基礎による破壊が著しいが、南東部では古代整地層や遺物包含層がよく残っていた。

検出遺構は、古墳時代前期の大溝１、古代の掘立柱建物６、区画溝１、瓦溜り２のほか、溝、土坑、ピット多数がある。古代の遺構は８世紀を中心に一部９世紀に及ぶ。

出土遺物　遺構および整地層・包含層から瓦を中心に土師器・須恵器などの遺物がコンテナケースにして約70箱出土した。

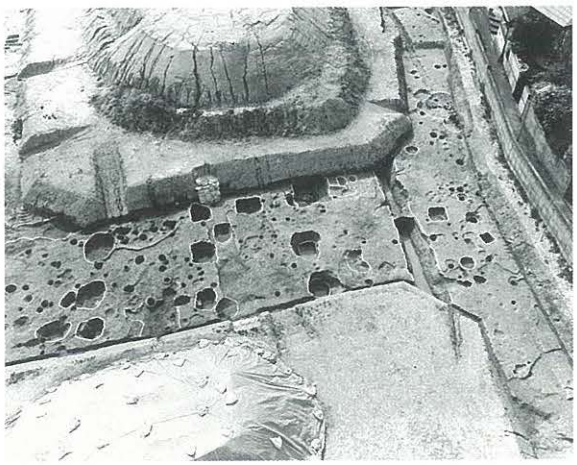
まとめ　古代の区画溝は現状で幅１ｍ強、深さ１ｍ弱の断面逆台形状をなし、東西長70m、南北長26ｍを確認できた。区画内には少なくとも掘立柱建物１棟が存在し、溝と同時期と考えられる。この区画溝を埋め、整地した上に建てられた掘立柱建物も存在し、最低１回の建て替え（建物群の拡張）を示している。上層の掘立柱建物には、第１次調査でもみられた小溝で囲まれた建物や総柱建物があり、これらには柱根が残るものが多い。遺物は瓦が大半を占めるが、瓦当や完形のものはほとんどない。遺物が未洗いであるため詳細は不明だが、他は日常土器で占められるようである。特筆すべき遺物として、内外底に「寺」とヘラ描きした須恵器坏がある。

報告書は2003年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（39　三宅　0144　1：8000）

2．西側調査区全景（東から）


3．区画溝と堀立柱建物（東から）

0151 羽根戸古墳群Ｇ群第25号墳調査（HDK－G－２）

所 在 地　西区羽根戸字地蔵尾８７５－１　　**調査面積**　212㎡
調査原因　電波塔建設　　**担 当 者**　藏冨士寛
調査期間　2002.１.15～２.21　　**処　　置**　記録保存

位置と環境　羽根戸古墳群は飯盛山から派生した丘陵上に分布し、総数百数十基を数える古墳群である。その内のＧ群では計24基の古墳が確認されていたが、今回新たに２基の古墳を発見し、その内の１基を調査した。

検出遺構　古墳１基。

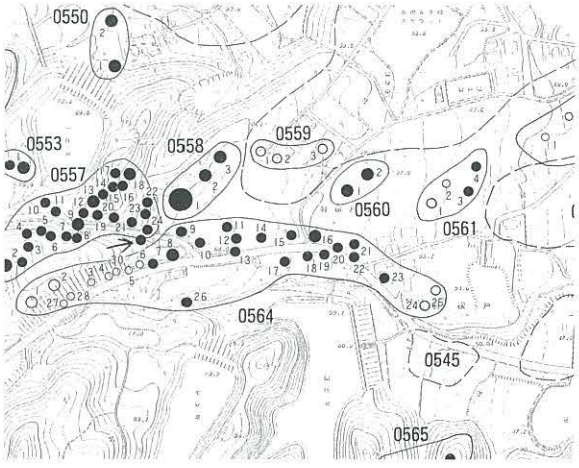
今回調査した25号墳は丘陵西側の斜面裾近くに位置する、径約10mほどの円墳である。主体部は横穴式石室で、玄室の規模は2.4×1.2mを測る、いわゆる竪穴系横口式石室である。

出土遺物　石室床面には一部敷石が残り、その上からは刀子１が出土した。そして、周溝の東側では須恵器蓋杯等がまとまって検出された。これら土器の年代が５世紀末葉（TK47型式期）に比定でき、これがこの古墳の築造年代に相当しよう。

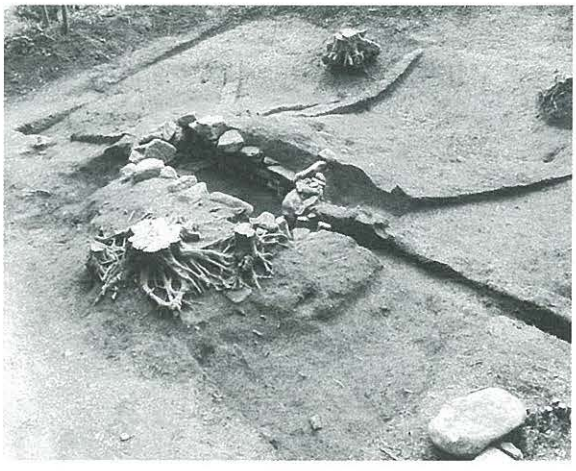
また、石室入口近くの墳丘内からは、６世紀前葉（TK10型式期）の蓋杯２個体も検出された。周溝出土の土器とやや時期差があり、追葬その他に伴う古墳祭祀のあり方を考える上でも、興味深い事例である。

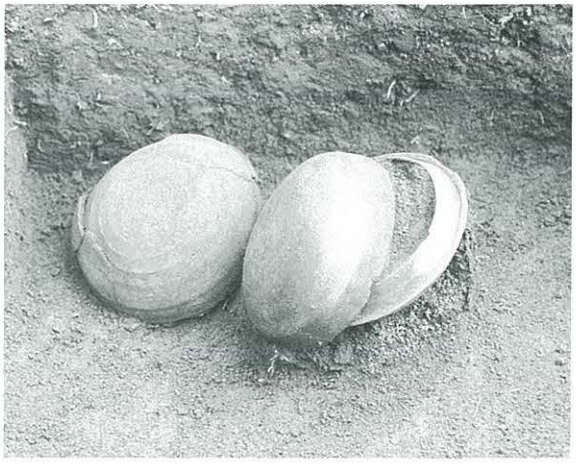
まとめ　今回の調査により、竪穴系横口式石室という、比較的初期の形態を有する横穴式石室を検出でき、また出土遺物（須恵器）によって時期を特定できたことは大きな成果であろう。また、周溝や墳丘で出土した須恵器群は様々な段階における古墳祭祀を考える上でも、貴重な資料を供しているといえる。

報告書は2002年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（105　叶岳　0557　1：8000）


2．墳丘検出状況（北西から）


3．墳丘遺物出土状況（南から）

0152 博多遺跡群第137次調査（HKT－137）

所在地	博多区中呉服町７－５	調査面積	70㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	上角智希
調査期間	2002.2.1～3.19	処置	記録保存

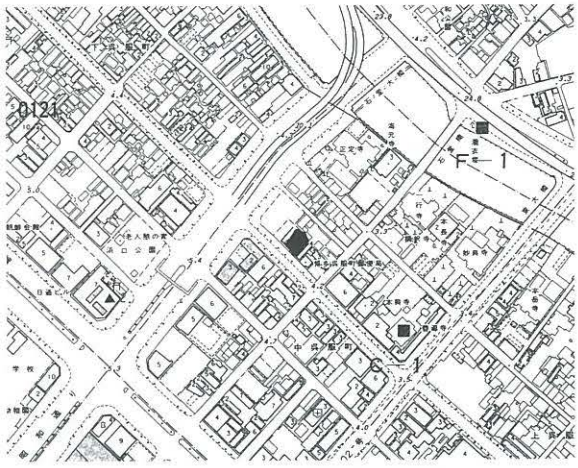
位置と環境　博多遺跡群は福岡平野を貫流する那珂川、御笠川によって挟まれた砂丘上に立地する。本調査区は北側の砂丘「息の浜」の東部に位置する。

検出遺構　本地点における旧地形は緩やかに傾斜して西側のほうが30cmほど高い。標高3.2～3.5mの第1面、標高3.0～3.3mで地山淡黄色砂上の第２面の２面の遺構面を確認した。検出した遺構は中世後期（15・16世紀）と近世（18世紀）の2時期に大別できる。中世後期の遺構には溝状の瓦溜り1条、瓦廃棄土壙数基があり、大量の瓦が出土した。建物自体は検出できなかったが、付近に瓦葺きの建物があった可能性が高い。それ以外にも土壙、柱穴が多く検出された。近世の遺構としては土壙が数基検出された。時期は不明であるが石組遺構３基も検出した。

出土遺物　土師器、中国産陶磁器、肥前陶磁器、瓦などコンテナ26箱の遺物が出土した。李朝の青磁、灰青陶器や明代の染付、博多人形などの出土が目を引く。

まとめ　海側の砂丘「息の浜」が人々の生活域となるのは比較的新しい。本地点においては、13世紀の遺物が少量出土するが、該期の遺構はほとんど検出されていない。本格的に町屋が形成されるのは15世紀頃で、瓦葺きの建物が存在したようである。ちなみに、本地点に近い第53次調査区では14世紀以降の遺構が検出されている。

報告書は2002年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（48　千代博多　0121　1：8000）

2．調査区西側全景（東から）

3．溝状の瓦溜り（西から）

0153 元岡・桑原遺跡群第27次調査（MOT-27）

所在地	福岡市西区大字桑原字戸山529外	調査面積	4,495㎡
調査原因	九州大学移転用地造成工事	担当者	二宮忠司
調査期間	2001.12.1～2002.8.29	処置	記録保存・一部保存

位置と環境　調査地点は事業地の東側、第20次調査の東側、金屎前方古墳から派生した東側に延びる台地の北側斜面に位置する。調査地は東西に延びる三段の斜面があるが、上方二段は住宅・鶏舎小屋によってほとんどが削平され遺構は残っていない。辛うじて三段目に遺構が認められる。

検出遺構　奈良時代の鍛冶炉４基と古墳時代竪穴住居址が現在25軒、溝状遺構が３条である。調査途中であるため明確な判断はできないが、古墳時代の住居址が集中して検出される可能性がある。また、奈良時代の鍛冶炉は基数が増加すると考えられる。この状態は第20次調査の範囲までつづくと考えられ、全体の住居址数は100基を越すものと考えられる。

古墳時代竪穴住居址群

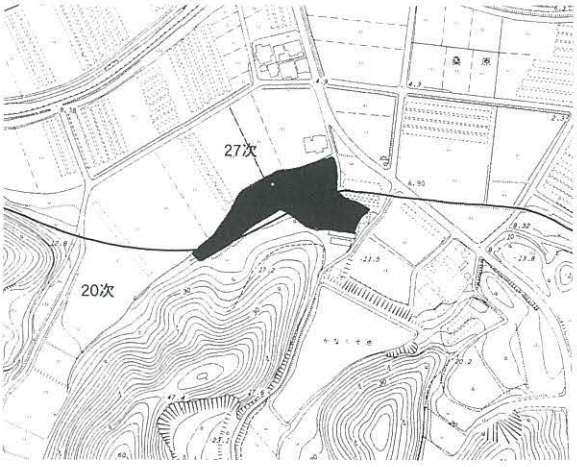
25軒の竪穴式住居址が検出されているが、非常に残りがよく、SC-01は一辺3.6mを測る方形の竪穴式住居址である。深さが0.9mと深く本来の形状を保っているものと思われる。またSC-16は火災によって家を放棄した状態で検出された。柱と共に焼けた粘土が多量に検出され、その状態から屋根の上に粘土を貼り付けたと思われる形跡が観察できるが、これは分析をまって判断したい。時期的には切り合い関係もあるが、古墳時代中期に属するものである。

溝状遺構

台地の傾斜に沿って３条の溝状遺構が検出された。その殆どが削平されている。出土遺物から住居址と同時期であろう。

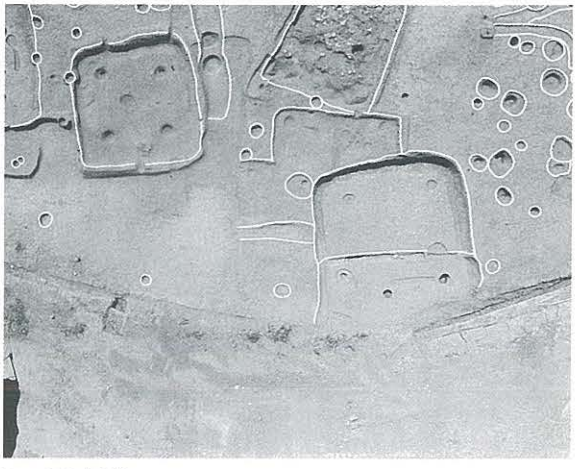
奈良時代の鍛冶炉

現在４基の鍛冶炉が検出されている。小型で計が30cm前後のものが殆どである。時期的には鉄滓と共伴して須恵器が出土していることから奈良時代と考えられる。



1. 調査地点の位置（129 桑原 2782 1：8000）

2. 調査区全景



3. SC16他

0154 元岡遺跡群第28次調査（MOT-28）

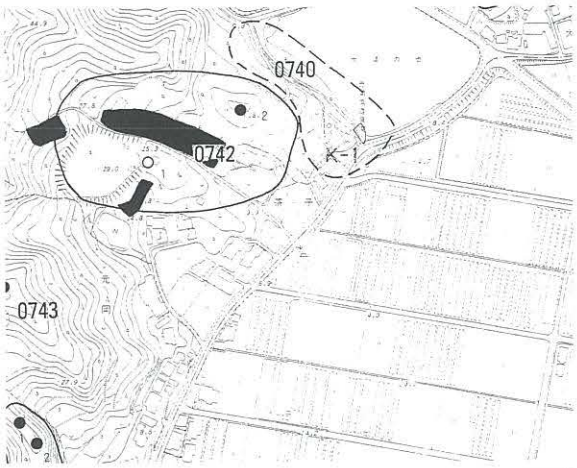
所 在 地 西区大字元岡字池の浦
調査原因 九州大学移転に伴う造成
調査期間 2002.2.1～6.30
調査面積 2,214㎡
担 当 者 吉留秀敏　屋山 洋
処　　置 一部保存

位置と環境　調査区は元岡瓜尾貝塚が存在する大阪池南西側丘陵部の南東側に傾斜する斜面上に位置する。A区は痩せ尾根上の高まりで、B・C区は谷中に位置する。丘陵東側は現在水田もしくは畑であるが近世までは今津湾が深く入り込んでおり、遺構が存在する旧石器時代から中世にかけては今津湾に面していたものと考えられる。

検出遺構　B区中央を南東方向に走る自然流路を１本とその際で焼土坑３基を確認した。C区では区画溝と土坑や柱穴等を確認した。包含層からの出土遺物は弥生時代から中世までを含む。

出土遺物　自然流路から約30箱出土した。流路の上半部から瓦器椀と一緒に鉄滓が多く出土している。また流路南側の斜面から径約７㎝前後の黒耀石が10点、流路北側の幅１ｍのテラスからは細石刃が２点出土している。

ま と め　縄文後期段階で黒曜石の集積をしていた可能性があり、径７㎝ほどの黒曜石が８点出土している。谷から弥生土器・須恵器なども多く出土しているが弥生土器はC区からの流れ込み、須恵器は北側古墳群からの流れ込みである。中世の段階で集落が形成され谷の両側では鍛冶炉を設け、鉄滓を谷に廃棄している。



1．調査地点の位置（130 太郎丸 0742 1：8000）

2．B地区全景（東から）

3．C地区全景

4．SX001鉄宰出土状況（北から）

0155 麦野Ａ遺跡群第12次調査（MGA-12）

所在地	博多区麦野３丁目11-28ほか	調査面積	80㎡
調査原因	専用住宅建築	担当者	杉山富雄
調査期間	2001.1.30～2.4	処置	記録保存

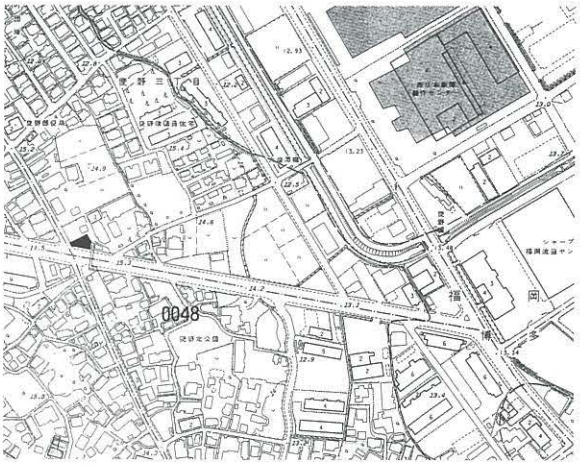
位置と環境　麦野Ａ遺跡群が立地する段丘面は緩い起伏をもっているが、本地点はその中央で尾根線に沿う位置にある。地形図から復元すると、南面するごく緩い斜面にあたる。現況は宅地である。

隣接した北側の台地中央で第６次調査、西斜面で第４次、５次調査、東斜面では第８次、９次調査がおこなわれており、西斜面から台地中央にかけて井戸をはじめとする平安時代の遺構、中央部から東斜面にかけては竪穴住居など奈良時代の遺構が調査されている。

遺構と遺物　試掘により、対象地の西側は既存建物の解体などにより大きく掘削されていることを確認したことから、調査は東側部分に限って実施した。調査区内も掘削による攪乱が著しく、調査の結果は溝と小穴が出土したのみである。

溝は、底に近い部分だけが遺存する。６次地点で検出した現況道路に沿う遺構の延長が遺存するものであろう。覆土は黒褐色の粘質土で、遺物が散漫に出土した。細片の須恵器・土師器である。土師器には大小の器形があり、糸切底の坏が認められるほかは遺存状態が悪く判別できない。小穴もごく少数で、その１基からハイガイの殻が出土した。

まとめ　本地点は隣接する６次地点と異なり、遺構の密度が極端に小さい。これは、本地点が隣接する６次地点より0.3mほど地下げされていること、解体工事によりさらに掘削されていることなどにより、遺構が削平された結果であり、地形図から復原する限り、本地点にも奈良時代以降の遺構が分布していたことは推測できる。

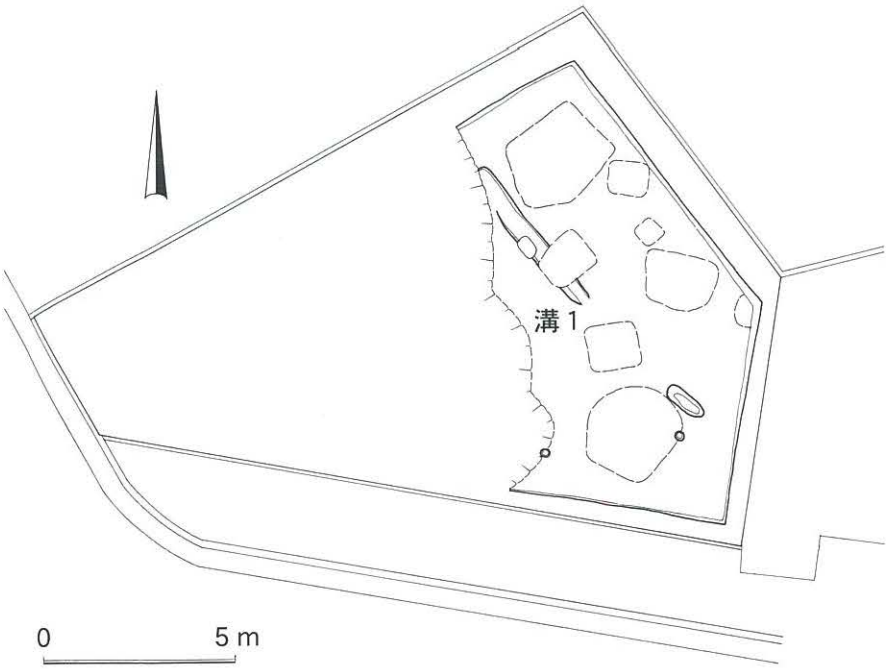


1．調査地点の位置（12　井尻　0048　1：8000）

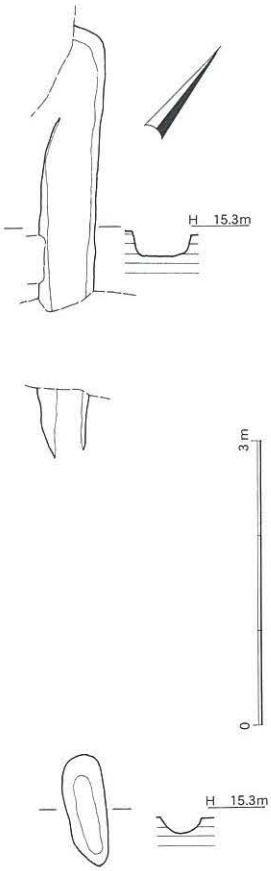
2．調査地点全景（南から）

3．溝１（北から）

4．調査区全景（南から）



5．調査区（1：200）



6．溝1（1：80）

0156 麦野Ａ遺跡群第13次調査（MGA－13）

所在地	博多区麦野２丁目1-8	調査面積	250㎡
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	本田浩二郎
調査期間	2002.2.18～3.9	処置	記録保存

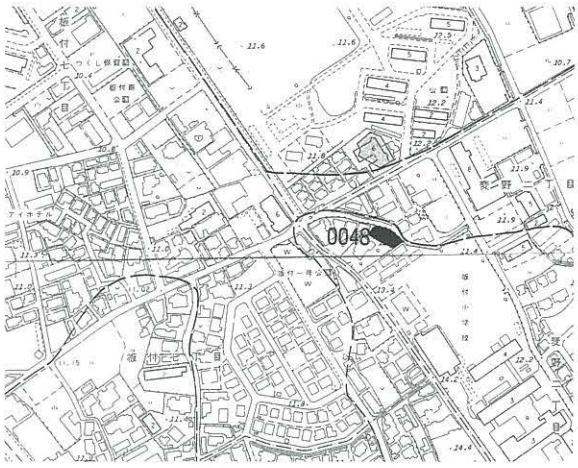
位置と環境　麦野Ａ遺跡は福岡市博多区の南端に位置している。周辺には麦野Ｂ・Ｃ遺跡、雑餉隈遺跡、南八幡遺跡、井相田遺跡などが展開する。麦野Ａ遺跡の範囲は南北1.2km~東西0.4kmを測り、これまでの調査は遺跡範囲の南側に集中していた。本調査地点は遺跡範囲の北端部近くに位置し、北側50m地点には古代の道路が検出された高畑遺跡が存在している。

検出遺構　調査地点の現状は畑で、遺構面は標高12.5m前後を測る鳥栖ローム層上面において設定した。調査対象地は東西方向に伸びる敷地であったが、西側部分は過去の開発により、大幅に削平されており遺構の大部分は消滅していた。

東側部分において検出された遺構は、古墳時代に属する土坑、古代の掘立柱建物、時期不明な方形土坑などである。古代の掘立柱建物は２棟分が検出されているが、柱穴列の一部を検出したのみで建物全体の規模は不明確である。これらの建物は近接する高畑遺跡で検出された古代の官道に対して、方位を平行に採り建てられており、何らかの関連性が想定される。

出土遺物　遺物はコンテナケース１箱分の土師器・須恵器が出土した。いずれも細片資料であり、接合できる資料も僅かである。

まとめ　麦野Ａ遺跡内の北側における調査例はわずかであるが、近接する高畑遺跡で検出される古代の官道との関連性を考える上で貴重な資料を得たことと、麦野Ａ遺跡内では検出例の少ない古墳時代の遺構が検出されたことが成果としてあげられる。



1．調査地点の位置（24　板付　0084　1：8000）

2．調査区全景（南から）

3．古墳時代土坑遺物出土状況（南西から）

0157 梅林遺跡第７次調査（UBY－７）

所在地	福岡市城南区梅林4丁目地内	**調査面積**	479.8㎡
調査原因	道路建設	**担当者**	阿部泰之
調査期間	2002.2.4～4.16	**処置**	記録保存

位置と環境　本調査区は、標高約600mを測る油山より派生する丘陵の先端部に立地し、調査地は、遺跡のほぼ中央部に位置している。既往の調査において、古墳時代の水田および集落等の遺構が検出されている。

検出遺構　遺構が存在する面を２面調査した。その結果、現地表面よりマイナス2.6m、黒灰色土上にて、近世の水田、マイナス３m、青灰色シルト質土上にて、古代の流路の一部を検出した。

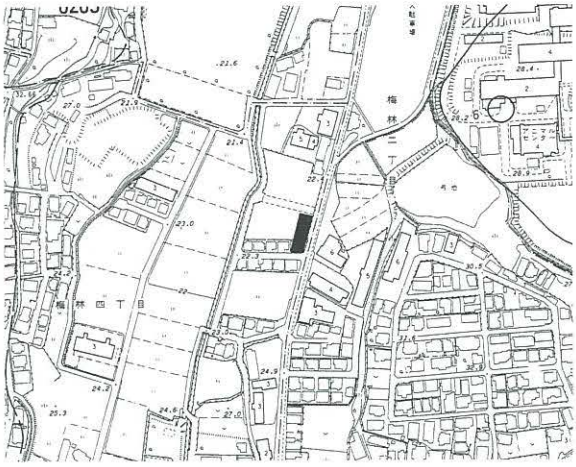
水田は、第１面においてのみ検出できた。地形に沿って棚田状に造成された小区画の水田である。第１面の流路は、棚田状の水田面の間隙を分岐しながら東西方向に掘削され、水田に導水する機能を有していたと思われる。

第２面の流路は、近代以降に掘削された水路に大きく壊され、残りは悪かったが、土層から激しい流水があったことが確認できた。

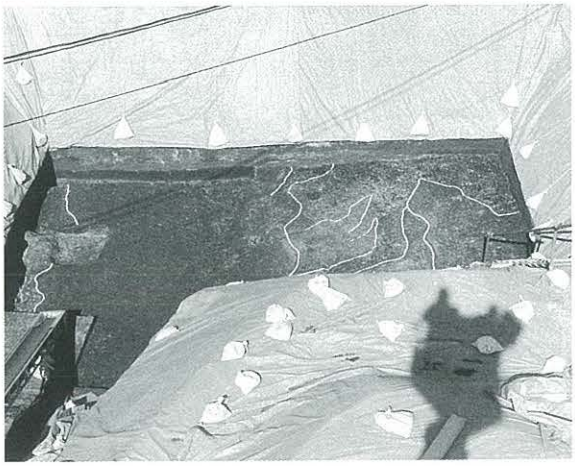
出土遺物　出土遺物は、第１面から国産の陶磁器片が２点・土師器および須恵器細片が約30点である。第２面からは、須恵器・土師器片100点あまりが出土した。また、基盤層の粗砂層よりサヌカイト製石匙が２点出土した。

まとめ　今回の調査では、近世の水田・８世紀代の流路を確認した。隣接する第３次調査において、古墳時代の水田面が確認されているため、本調査区でも当該期の水田面が検出されることが予想されたが、検出することはできなかった。水田の耕作土中に古墳時代の土器類が含まれているため、長期間に渡って継続して使用されたか、近世水田の造成時に大きく削平を受けた結果と思われる。

調査報告は2003年度刊行予定。



１．調査地点の位置（74 七隈 2775 １：8000）



２．第Ⅰ面（南から）

３．第Ⅱ面（南から）

0159 吉塚遺跡群第10次調査（YSZ－10）
（市指定史跡 東光院境内第２次）

所 在 地　博多区吉塚３丁目20－37
調査原因　史跡整備
調査期間　2002.2.27~3.28
調査面積　77㎡(２面)
担 当 者　榎本義嗣
処　　置　埋戻し保存

位置と環境　吉塚遺跡群は博多湾岸に形成された古砂丘上に立地しており、東光院はこの砂丘東側の南東緩斜面上から後背湿地にかけて位置している。

今回の調査は、平成11年度に行った境内第１次調査(吉塚遺跡群第８次調査)のNo.４トレンチ周辺を対象とした。当該箇所は、砂丘の落ち際に該当し、創建時と考えられる12～13世紀の盛土や池状遺構、戦国期から江戸期の整地層等が確認されている。

検出遺構　今回の調査では、上述の整地層を面的に２面調査した。第１面は、旧表土下の粗砂粒を含む茶褐色土上面に設定した。標高は約3.6mを測る。この面では基壇と推定される遺構を確認できた。北西―南東方向に、幅約10～20㎝の花崗岩を主体とする礫の面を合わせ、その内部には小角礫を敷き詰めているが、遺存状況は悪い。なお、この面での他の遺構としては、ピット数基のみである。

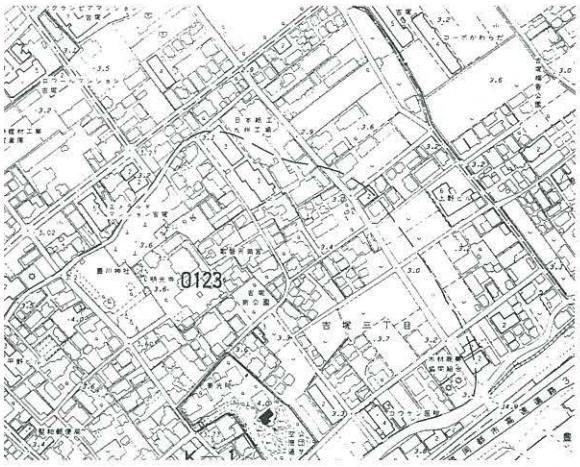
第２面は、第１面から10～15㎝下層に広がる灰褐色砂質土および茶褐色土の面に設定した。一部互層に細かい整地を行なっている。この面では、瓦片を廃棄した土坑や溝、ピットが検出できた。

更に下層には焼土塊を含む暗褐色土の整地面がサブトレンチによって確認できたが、時間的な制約から面的調査には到っていない。

出土遺物　土師器、近世陶磁器、瓦等がコンテナ数にして11箱出土した。

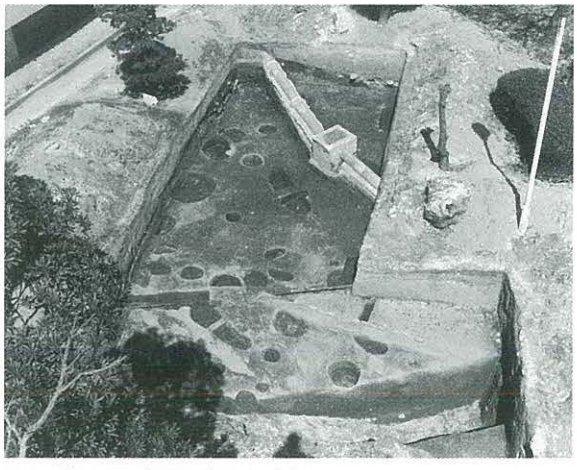
ま と め　今回確認した整地面は、福岡藩二代藩主黒田忠之再興した後の境内と推定される。今後の課題としては、更に下層に位置する複数の整地層や創建時の池状遺構の面的調査、また伽藍変遷の確認が挙げられる。

調査報告書は2004年度以降に刊行予定である。



1．調査地点の位置（35 吉塚 0123 1：8000）

2．第１面基壇状遺構（西から）


3．第２面全景（西から）

0160 重留村下遺跡第２次調査(SGM-２)

所在地	早良区重留１丁目510-1、511-5	調査面積	199.4㎡
調査原因	店舗建設	担当者	池田祐司
調査期間	2002.3.4～3.29	処置	記録保存・一部保存

位置と環境　重留村下遺跡は油山山塊から北西に延びる丘陵の先端部分に位置する。西側は早良平野に面し、丘陵裾を貞島川が流れる。調査地点は丘陵中央部にあたり、１次調査地点の北側に隣接し、標高28mを測る。検出した遺構のうち、削平が及ばないものについては掘削(調査)を行っていない。

検出遺構　遺構の密度は高く、弥生時代中期の土抗１基、６世紀から７世紀の竪穴住居跡７軒以上、中世の土坑、ピット等を確認した。

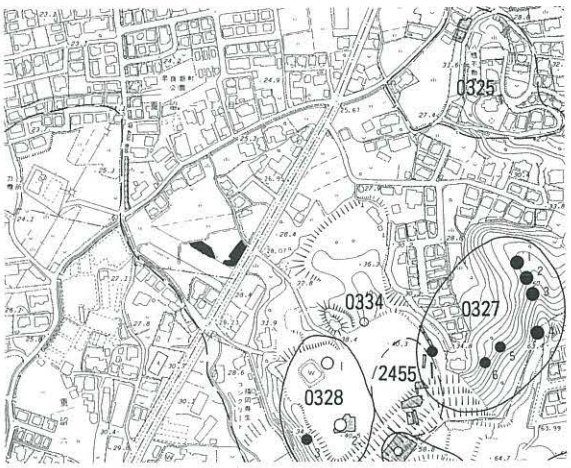
弥生時代では土坑１基を確認した。約半分が調査区外に延び全形は不明であるが隅丸方形または円形プランになると考えられる。

古墳時代から古代の遺構で主となる竪穴住居のうち掘削を行ったものは４軒である。いずれも方形を呈し残りは悪い。そのうち９号住居跡で両袖の竈を確認した。掘削していない遺構で竪穴住居跡と考えられるものは少なくとも３軒はある。ピットには柱穴になりそうなものがあるが、復元には至っていない。

出土遺物　弥生時代の土坑からは器台３個がほぼ完形で出土し、中期後半の甕等の土器が出土している。竪穴住居跡からの遺物は少なく、土師器の甕、須恵器の杯、高坏が出土している。中世の土抗、ピットからは青磁等の陶磁器、土師皿等が出土している。また、ピット中から金箔貼りの青銅製耳環が出土したことは特筆される。

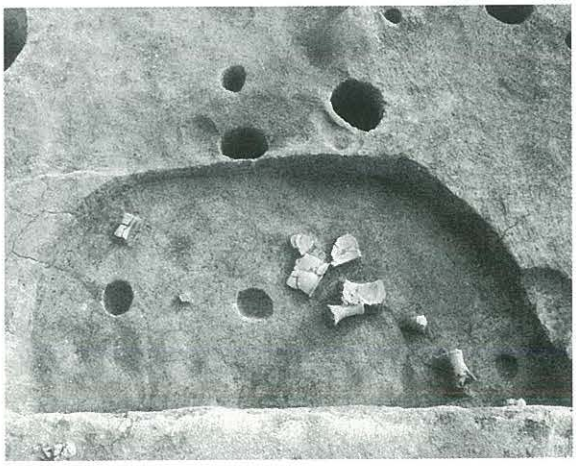
まとめ　１次調査同様弥生時代から中世にかけての遺構、遺物を検出した。特に古墳時代後期から古代の遺構密度は濃い。丘陵裾の緩斜面に弥生時代および古墳時代後期から古代の集落が拡がると考えられる。

2002年度報告書刊行予定。



１．調査地点の位置（84 重留 0324 １：8000）

２．２区全景（西から）


３．弥生時代土坑（北から）

0161 西新町遺跡第14次調査（NSJ-14）

所 在 地　福岡市早良区西新6丁目1-10
調査原因　学校施設改築
調査期間　2001.9.7～3.11
調査面積　1,500m²
担 当 者　福岡県教育委員会
野口　未幾・坂元　雄紀
処　　置　記録保存

位置と環境　西新町遺跡は早良平野の東北端、博多湾に面した古砂丘上に立地する。平成10年度より遺跡東部に位置する福岡県立修猷館高校の校舎改築が実施されており、福岡県教育委員会文化財保護課が事前発掘調査を行っている。平成13年度は第3期工事予定地の調査を行った。本調査地は第12次調査の南、第2次調査C区の北に位置する。

検出遺構とその特徴　古墳時代の遺構は竪穴式住居跡29棟、井戸1基、土坑13基が検出された。竪穴住居跡のうち3棟は炉を、11棟がカマドをもつ。井戸は長軸10m短軸7mの不整楕円形の非常に大きな掘り方をもつもので、遺構面より-1.4mで硬化面を作り、そこから井戸を掘り込むもので、最終的な深さは遺構面より-2.2mを測る。

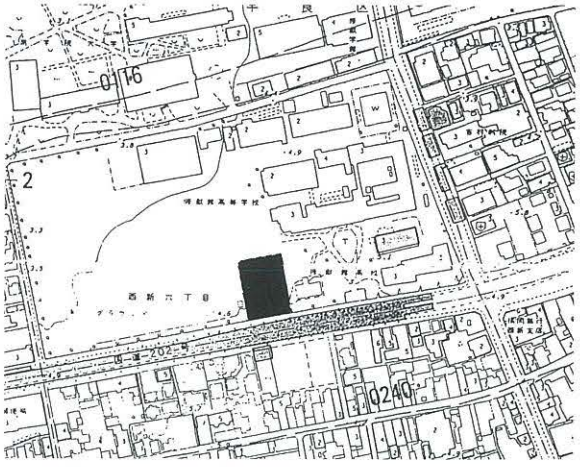
近世・近代の遺構は石組み4基、溝4条、井戸1基、土坑6基である。

出土遺物　遺物はコンテナ数で約132箱が出土した。古墳時代の遺物は土師器、半島系土器、鉄製品、石製品、土製品などである。12次・13次調査と比べ、半島系土器の出土は少ない。特殊な遺物としては、18号住居よりガラス小玉が278点確認されたほか、29号住居から柳葉形銅鏃が1点、12号土坑から勾玉が1点出土した。

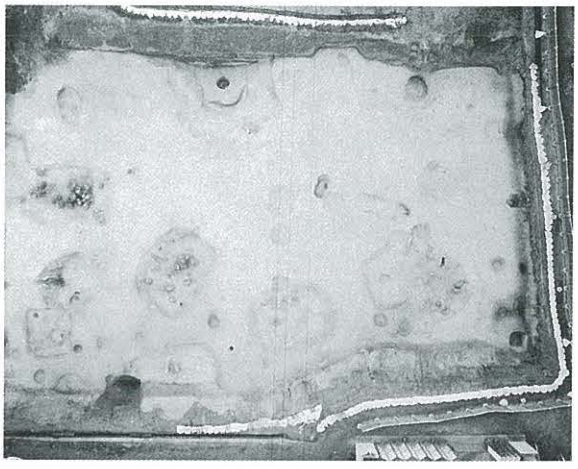
近世・近代の遺物は、陶磁器・金属製品等が出土した。

まとめ　古墳時代の調査では、井戸を中心にそれを取り巻くように竪穴住居跡を築くという集落の様相を捉えることができた。また、本来古墳の副葬品として用いられるガラス小玉や銅鏃が、住居跡より出土したことも、西新町遺跡の性格を考える上で重要である。

調査報告書は2003・2004年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（71 西新 0240 1：8000）


2．調査区南半全景

3．井戸

Ⅲ．平成13年度新指定文化財

平成13年度の新指定は、以下の福岡市指定文化財8件である。

１．陶造薬師如来坐像（金の隈地蔵堂旧蔵）　１躯

種　　別　　有形文化財（彫刻）

所　在　地　　福岡市博多区奈良屋町４番１６号

所　有　者　　博多人形商工業協同組合

品質　陶造　　法量　総高　79.6cm　　像高　54.6cm

銘文等　【像内背面陰刻銘】天保十己亥年春／陶工師正木宗七幸弘作／六拾六歳

【蓮台内陰刻銘】　天保十己亥年春六拾六歳／陶工師正木宗七幸弘作之

【反り花底部陰刻銘】天保己亥春／陶工宗七

【左腰部押印】「正木／幸弘」（方印・陽刻）「宗七」（長円印・印刻）

作者　正木宗七幸弘　　時代　天保十年　（1839）

２．　陶造地蔵菩薩坐像　　１躯

種　　別　　有形文化財（彫刻）

所　在　地　　福岡市博多区博多駅前一丁目７番３８号

所　有　者　　宗教法人　祥勝院

品質　陶造　　法量　総高　　49.7cm　像高　40.6cm

銘文等　【台座底部口縁部内陰刻銘】　文政六癸未年仲春吉日筑前博多陶師宗七幸弘作之

【背面下部押印】「宗七」（長円印　・陰刻）「正木／幸弘」（方印　・陰刻）

作者　正木宗七幸弘　　時代　文政六年（1823）

3.　陶造大心円願坐像　１躯

種　　別　　有形文化財(彫刻)

所　在　地　　福岡市博多区博多駅前一丁目７番３８号

所　有　者　　宗教法人　祥勝院

品質　陶造

法量　総高 50.9cm　像高（坐高）39.4cm

銘文等　【胎内背面陰刻銘】　文政六癸未年仲春／沃天禅寺／大心和尚壽像／ハカタ／陶師宗七幸弘／作

【左腰背面下部押印】　「宗七」（長円印　・陰刻）「正木／幸弘」（方印　・陽刻）

作者　正木宗七幸弘　　時代　文政六年　（1823）

4.　上月隈遺跡（第３次調査）出土品　　２６点

銅剣　１口、ガラス製管玉　２３個、ガラス製管玉残欠（一括）１点、甕棺　１個

種　　別　　有形文化財（考古資料）

所　在　地　　福岡市博多区井相田二丁目１番９４号

（福岡市埋蔵文化財センター）

所　有　者　　福岡市

（銅剣計測値）復元全長 49㎝，刳方下端身幅 5.5 ㎝，関部 3.8 ㎝，茎部長　1.7 ㎝

（管玉計測値）長さ 9.75 ～ 13.2 ㎜，径4.20 ～ 5.30㎜

（甕棺計測値）口径 66.3㎝，器高119.5㎝

5　細形銅剣　１口　　飯倉丸尾（唐木）出土

種　　別　有形文化財（考古資料）

所　在　地　福岡市東区箱崎六丁目１９番１号

6.　広形銅矛　１口　　唐泊海底出土

種　　別　有形文化財（考古資料）
所　在　地　福岡市東区箱崎六丁目１９番１号
所　有　者　九州大学大学院人文科学研究院　考古学研究室
（銅矛計測値）全長 85.2cm，刃部長 57cm，刃部最大幅 12cm，袋部長 15cm，
袋部内径 9.8 cm，関幅13cm

7.　板絵著色三十六歌仙絵馬　　２５点
種　　別　民俗文化財　（有形民俗）
所　在　地　福岡市早良区高取一丁目２６番５５号
所　有　者　宗教法人　紅葉八幡宮
品質　檜材
法量　（枠共）各竪約 53cm×横 37cm　（本地）各竪約 50cm×横 34cm
作者　（絵）小方仲由　（書）藤原　（持明院）基時　時代　寛文六年六月（1666）

8.　博多仁和加
種　　別　民俗文化財　（無形民俗）
所　在　地　福岡市中央区天神一丁目１０番１号
保持団体　博多仁和加振興会

1．陶造薬師如来坐像

2．陶造地蔵菩薩坐像

3．陶造大心円願坐像

4．上月隈遺跡出土品

5．細形銅剣

6．広形銅矛

7．板絵著色三十六歌仙絵馬

8．博多仁和加

平成13年度福岡市域内埋蔵文化財関係報告書・年報・関連報告

集	刊行年	書　名	副　題	調査番号
696	2001	飯倉Ｃ遺跡３		9976
697	2001	鋤崎古墳群３		9926
698	2002	梅林遺跡３	ー外環状道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書１２－	9843
699	2002	外環状道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書１３	ー高畑遺跡ー	9936
700	2002	外環状道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書１４	ー野芥遺跡・七隈古墳群・飯倉Ｇ遺跡第４・５次ー	0007 0039 9964 9962
701	2002	外環状道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書１５	ー井相田Ｄ遺跡ー	9128 0037
702	2002	立花寺Ｂ遺跡２	ー都市高速道路５号線建設に伴う埋蔵文化財調査報告ー	9730 9810 9915
703	2002	箱崎１１	ー箱崎遺跡第１６次ー	9853
704	2002	箱崎１２ー箱崎遺跡第１７次ー	ー箱崎遺跡第１７次ー	9864 0041
705	2002	箱崎１３ー箱崎遺跡第２１次調査報告ー	ー箱崎遺跡第２１次調査報告ー	9978
706	2002	博多８０ー御供所疎開地道路関係埋蔵文化財調査報告書ー	ー御供所疎開地道路関係埋蔵文化財調査報告書ー	9752 9778
707	2002	博多８１ー博多遺跡群１００次ー	ー博多遺跡群１００次ー	9647
708	2002	博多８２		9913
709	2002	博多８３ー博多遺跡群第１２７次調査の概要ー	ー博多遺跡群第１２７次調査の概要ー	0053
710	2002	博多８４		9969
711	2002	博多８５ー博多小学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー	ー博多小学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー	9836
712	2002	久保園遺跡２・青木遺跡４		0017 0026
713	2002	那珂３２ー那珂遺跡群第７３次ー	ー那珂遺跡群第７３次ー	9948
714	2002	那珂３０ー那珂遺跡群第７５次ー	ー那珂遺跡群第７５次ー	9971
715	2002	那珂３１		0045 0048
716	2002	板付周辺遺跡調査報告書第２３集		7839
717	2002	板付周辺遺跡調査報告書第２４集		8654 8907
718	2002	板付周辺遺跡調査報告書第２５集		0051
719	2002	麦野Ａ遺跡		0061
720	2002	五十川遺跡		9757 9835 9837 9846
721	2002	井尻Ｂ遺跡１０		0004
722	2002	元岡桑原遺跡群１		9659
723	2002	田島Ａ遺跡		0010 0029 0032 0044
724	2002	原東遺跡		0063
725	2002	有田・小田部３７		8713 8912
726	2002	元寇防塁		9939
727	2002	下山門敷町遺跡・下山門乙女田遺跡		9950 9966
728	2002	コノリ製鉄Ｂ遺跡		9839
729	2002	野方平原遺跡		9975 0003
730	2002	鋤崎古墳		8202
731	2002	吉武　㈱		8535
732	2002	大原Ｄ遺跡		9729 9901
733	2002	鴻臚館12		9910 0008
734	2002	九州大学統合移転地内埋蔵文化財発掘調査報告書１		
—	2002	福岡市埋蔵文化財年報Vol.15		

福岡市埋蔵文化財年報
VOL. 16
平成13（2003）年度版

発　行　日　　平成15年3月31日
編集・発行　　福岡市教育委員会
埋蔵文化財課
福岡市中央区天神１丁目８－１

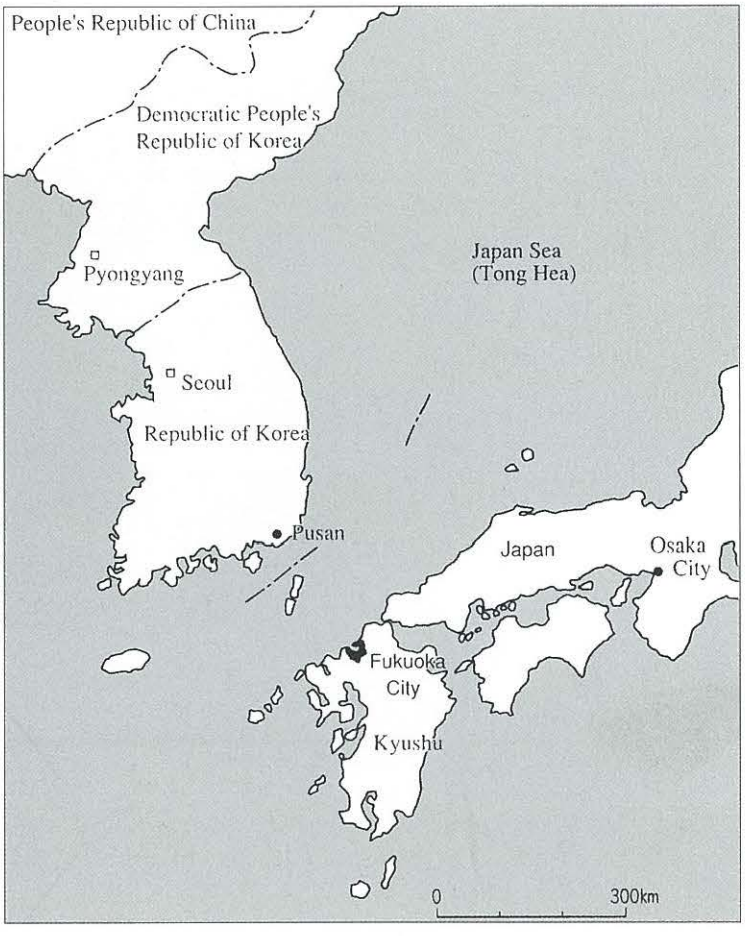
印　　刷　　有限会社　光文堂
福岡市博多区東比恵4丁目5－4
TEL　092－441－4137

THE ANNUAL REPORT

OF

THE BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

VOLUME 16



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

MARCH 2003

JAPAN